

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調 書)

薬学教育評価 基礎資料

(平成26年5月1日現在)

崇城大学薬学部

「基礎資料」作成上の注意事項

- 1 記述の対象となる年度が提示されていない場合は、自己点検・評価対象年度の5月1日現在の数値を記述してください。平成27年度に第三者評価を受ける大学の場合は、自己点検・評価対象年度の平成26年5月1日となります。
- 2 記述に際し、各シートの[注]を確認し、作成してください。
- 3 各シートの表中の表記例は、消去して作成してください。また、各シートに付されている[注]は消去しないでください。
- 4 各表に記入する数値について小数点以下の端数が出る場合、特に指示のない限り小数点以下第2位を四捨五入して小数点第1位まで表示してください。
- 5 説明を付す必要があると思われるものについては、備考欄に記述するか、欄外に大学独自の注をつけて説明を記してください。
- 6 提出形態について
 - ・基本的にA4判で作成してください。
 - ・表紙および目次を作成し、全体に通しページを付してください。
 - ・両面印刷して加除が可能な体裁でファイル綴じにした印刷物を提出してください。
 - ・カラー表記のあるページは、カラーで印刷してください。
 - ・PDFファイルに変換したデータを自己点検・評価書と同じCD-Rに保存してください。

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	4
基礎資料 2	修学状況（在籍学生数・休学退学者数・学士課程修了状況）	11
基礎資料 3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOsに該当する科目	14
基礎資料 4	カリキュラムマップ	63
基礎資料 5	語学教育の要素	73
基礎資料 6	4年次の実務実習事前学習スケジュール	74
基礎資料 7	学生受入状況について	84
基礎資料 8	教員・事務職員数	85
基礎資料 9	専任教員年齢構成	86
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	87
基礎資料11	卒業研究の配属状況	93
基礎資料12	講義室等の数と面積	94
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	95
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	96
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	97

(基礎資料 1-1) 学年別授業科目

	1 年 次									
	科目名	前期・後期	1クラス当たりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
教養教育・語学教育	(択) 日本の文学Ⅰ	前期	8	1	8	コ			2	
	(択) 日本の文学Ⅱ	後期	16	1	16	コ			2	
	(択) 歴史学と課題Ⅰ	前期	46	1	46	コ			2	
	(択) 歴史学と課題Ⅱ	後期	24	1	24	コ			2	
	(択) 現代社会と法Ⅰ	前期	93	1	93	コ			2	
	(択) 現代社会と法Ⅱ	後期	72	1	72	コ			2	
	(択) ベンチャー企業論Ⅰ	前期	33	1	33	コ	S		2	
	(択) ベンチャー企業論Ⅱ	後期	24	1	24	コ	S		2	
	(択) 環境科学Ⅰ	前期	64	1	64	コ			2	
	(択) 環境科学Ⅱ	後期	27	1	27	コ			2	
	(択) 生涯スポーツ教育Ⅰ	前期	27	4	107	タ			1	
	(択) 生涯スポーツ教育Ⅱ	後期	27	4	108	タ			1	
	(択) 健康・スポーツ科学理論	後期	12	2	23	コ			2	
	英語Ⅰ	前期	26	5	128	コ	S		2	
	英語Ⅱ	後期	26	5	128	コ	S		2	
	(択) 選択外国語 中国語	後期	10	1	10	コ			2	
	(択) 選択外国語 ドイツ語	後期	8	1	8	コ			2	
	薬学基礎数学	前期(前半)	64	2	128	コ			1	
	薬学基礎数学演習	前期	64	2	128	コ			1	
	薬学基礎物理学	前期(前半)	64	2	128	コ			1	
	薬学基礎物理学演習	前期	64	2	128	コ			1	
	薬学基礎化学	前期(前半)	128	1	128	コ			1	
	薬学基礎化学演習	前期	128	1	128	コ			1	
薬学基礎生物学	前期	128	1	128	コ			2		
薬学専門教育	生命倫理学	前期(後半)	128	1	128	コ	タ		1	
	薬学概論	前期(前半)	128	1	128	コ	オ		1	
	物理化学Ⅰ	後期	129	1	129	コ			2	
	分析化学Ⅰ	後期	131	1	131	コ			2	
	有機化学Ⅰ	前期(後半)	129	1	129	コ			1	
	有機化学Ⅱ	後期	131	1	131	コ			2	
	機能形態学	後期	131	1	131	コ			2	
	細胞生物学	前期(後半)	129	1	129	コ			1	
	解剖学概論	前期	131	1	131	コ	S		2	
	微生物学Ⅰ	後期	130	1	130	コ			2	
生化学Ⅰ	後期	129	1	129	コ			2		
実習	早期体験学習	後期	128	1	128	コ	タ	S	1	
演習	基礎情報処理演習	前期	128	1	128	コ	タ		1	
単位数の合計							(必須科目)			32
							(選択科目)			28
							合計			60

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 自習=ジ
 小ハス=オ その他:タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記: 講義=コ PBL/SGD=S 自習=ジ
 小ハス=オ その他=タ

- 6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料 1-2) 学年別授業科目

	2 年 次									
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
教養教育・語学教育	(択) 人間と心理 I	前期	32	1	32	コ			2	
	(択) 人間と心理 II	後期	7	1	7	コ			2	
	(択) 人間と教育 I	前期	2	1	2	コ			2	
	(択) 人間と教育 II	後期	7	1	7	コ			2	
	英語 III	前期	29	5	144	コ	S		2	
	英語 IV	後期	29	5	144	コ	S		2	
薬学専門教育	臨床病態学	後期	138	1	138	コ			1	
	分析化学 II	前期	142	1	142	コ			2	
	生薬学 I (薬用植物学)	前期	142	1	142	コ			2	
	コミュニケーション論	後期(後半)	143	1	143	コ	S	タ	1	
	物理化学 II	前期	146	1	146	コ	S		2	
	物理化学 III	後期	148	1	148	コ	S		2	
	機器分析学	後期	145	1	145	コ			2	
	有機化学 III	前期(前半)	136	1	136	コ			1	
	分子構造解析学	後期(後半)	148	1	148	コ			1	
	生薬学 II (生薬資源学)	後期	151	1	151	コ			2	
	生化学 II (生命情報科学)	前期	148	1	148	コ			2	
	基礎免疫学	後期(前半)	145	1	145	コ			1	
	衛生化学 I (栄養化学)	前期	154	1	154	コ			2	
	薬理学 I	前期	136	1	136	コ			2	
	薬理学 II	後期(前半)	135	1	135	コ			1	
	薬物動態学 I	前期	136	1	136	コ	S		2	
	薬物動態学 II	後期	135	1	135	コ			2	
	臨床検査化学 I	前期(前半)	136	1	136	コ			1	
	臨床検査化学 II	前期(後半)	136	1	136	コ			1	
	臨床検査化学 III	後期(後半)	134	1	134	コ			1	
	医療統計処理学	前期(前半)	152	1	152	コ			1	
	医薬品化学	後期	148	1	148	コ			2	
	細胞生化学 I	後期	148	1	148	コ			2	
	微生物学 II (病原微生物学)	前期	158	1	158	コ			2	
衛生化学 II (食品衛生学)	後期	148	1	148	コ			2		
有機化学 II (官能基の反応性) 留年生対応	前期	3	1	3	コ			2		
実習										
演習										
単位数の合計							(必須科目)			46
							(選択科目)			8
							合計			54

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 自習=ジ
 オムバス=オ その他:タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記: 講義=コ PBL/SGD=S 自習=ジ
 オムバス=オ その他=タ

- 6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料 1-3) 学年別授業科目

	3 年 次									
	科目名	前期・後期	1クラス当たりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
教養教育・語学教育										
薬学専門教育	看護福祉概論	前期 (前半)	131	1	131	コ			1	
	基礎科学英語	後期	133	1	133	コ	タ		2	
	医薬品化学	前期	135	1	135	コ			2	
	医薬品合成化学	後期	135	1	135	コ			2	
	天然薬物学	前期	132	1	132	コ			2	
	(択)放射薬品学	後期 (後半)	138	1	138	コ			1	
	漢方概論	後期 (後半)	137	1	137	コ			1	
	細胞生化学 I	後期	136	1	136	コ			2	
	微生物学 II (病原微生物学)	後期	135	1	135	コ			2	
	衛生化学 II (食品衛生学)	前期	134	1	134	コ			2	
	環境衛生化学	後期	132	1	132	コ			2	
	薬理学 II (細胞分子薬理学)	前・後期	135	1	135	コ			3	
	薬物投与設計学	前・後期	137	1	137	コ	S		3	
	薬物治療学	前・後期	134	1	134	コ	S		3	
	応用薬理学	後期 (後半)	133	1	133	コ			1	
製剤学 I (物理薬剤学)	前期	131	1	131	コ			2		
製剤学 II (製剤設計、製造法)	後期	132	1	132	コ			2		
実習	物理化学実習	前期	66	2	131	コ	S2/グループ	タ	1	
	微生物学実習	前期	66	2	131	コ	S4/グループ	タ	1	
	生化学実習	前期	66	2	131	コ	S5~6/グループ	タ	1	
	衛生化学実習	後期	66	2	131	コ	S8/グループ	タ	1	
	薬理学実習	後期	66	2	131	コ	S10~15/グループ	タ	1	
演習	総合薬学演習 I	後期	132	1	132	コ	オ		1	
単位数の合計							(必須科目)			38
							(選択科目)			1
							合計			39

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 自習=ジ
 オムハス=オ その他:タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記: 講義=コ PBL/SGD=S 自習=ジ
 オムハス=オ その他=タ

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-4) 学年別授業科目

	4 年 次									
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
教養教育・語学教育										
薬学専門教育	医薬倫理学	前期(前半)	116	1	116	コ			1	
	薬学英語	後期	117	1	117	コ			2	
	生物医薬化学 I	前期	116	1	116	コ			2	
	(択) 生物医薬化学 II	後期	118	1	118	コ			2	
	(択) プロセス化学	後期(後半)	75	1	75	コ			1	
	細胞生化学 II	前期	116	1	116	コ			2	
	(択) 分子生物学	前期(前半)	117	1	117	コ			1	
	公衆衛生学	前期(後半)	116	1	116	コ			1	
	日本薬局方概論	前期(後半)	116	1	116	コ	オ		1	
	臨床薬理学 I	前期	116	1	116	コ			2	
	(択) 臨床薬理学 II	後期(前半)	107	1	107	コ			1	
	医薬品安全性学 I	前期	117	1	117	コ			2	
	(択) 医薬品安全性学 II	後期(前半)	111	1	111	コ			1	
	(択) 微生物学 III (化学療法論)	前期	119	1	119	コ			2	
	病院薬学	後期	119	1	119	コ			2	
	薬剤師業務概論	前期(前半)	116	1	116	コ			1	
	薬物送達学	後期	111	1	116	コ			2	
	創薬概論 I (基礎創薬学)	前期(後半)	116	1	116	コ			1	
	(択) 創薬概論 II (創薬技法の進歩)	後期(前半)	46	1	46	コ			1	
	薬事関連法規	前期(前半)	116	1	116	コ			1	
(択) 医療経済論	後期(後半)	100	1	100	コ			1		
薬局管理学	前期(後半)	116	1	116	コ			1		
実習	医薬品化学実習	前期	57	2	113	コ	S2/グループ	タ	1	
	製剤学実習	前期	58	2	116	コ	S10/グループ	タ	1	
	薬剤学実習	前期	58	2	116	コ	S10/グループ	タ	1	
	実務実習事前学習(実務準備実習)	前・後期	119	1	119	コ	S8~10グループ	タ	7	
演習	総合薬学演習 II	後期	119	1	119	コ	オ		2	
単位数の合計							(必須科目)			33
							(選択科目)			10
							合計			43

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 自習=ジ
 オムバ=オ その他=タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記: 講義=コ PBL/SGD=S 自習=ジ
 オムバ=オ その他=タ

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-5) 学年別授業科目

	5 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラス当たりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	(択) 実用薬学英語	前期	31	1	31	コ			2
	(択) 救急救命医学	前期	36	1	36	コ	S	オ	1
	(択) 臨床栄養学	後期(集中)	60	1	60	コ			1
	(択) 薬効解析学	後期(集中)	67	1	67	コ			1
	(択) マーケティング	後期(集中)	37	1	37	コ			1
	(択) 血清製剤学	後期(集中)	59	1	59	コ			1
実習	病院実務実習	前・後期	143	1	143	ジ	S	タ	10
	薬局実務実習	前・後期	143	1	143	ジ	S	タ	10
	卒業論文実習(まとめて記入)	前・後期	6	1	143	ジ	S/1~3グループ	タ	2
	実務実習事前学習(実務準備実習)	前期	143	1	143	コ	S/10グループ		1
演習									
単位数の合計						(必須科目)			23
						(選択科目)			7
						合計			30

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 自習=ジ
 オムバ=オ その他:タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記: 講義=コ PBL/SGD=S 自習=ジ
 オムバ=オ その他=タ

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-6) 学年別授業科目

	6 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラス当たりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	(択) 有機軌道論	前期(後半)	0	0	0	コ	タ		1
	(択) サプリメントと薬	前期(前半)	2	1	2	コ	S		1
	(択) 医用電気生理学	前期(前半)	3	1	3	コ			1
	(択) 構造活性相関	前期(後半)	6	1	6	コ			1
	(択) 未病治療学	前期	0	0	0	コ			2
	(択) 生体情報化学	前期(後半)	5	1	5	コ			1
	(択) 毒劇物取扱概論	前期(前半)	0	0	0	コ			1
	(択) 農業化学	前期(前半)	0	0	0	コ			1
	(択) ポストゲノム科学	前期(後半)	0	0	0	コ			1
	(択) UNIX入門	前期(前半)	0	0	0	コ			1
(択) 薬品製造化学	前期(前半)	7	1	7	コ			1	
実習	卒業論文実習 ・2009入学(86名) ・2008以前入学(42名)	前・後期	7	17	128	タ	S	ジ	6
演習	総合薬学演習Ⅲ(2009入学)	前・後期	86	1	86	コ	ジ		3
単位数の合計								(必須科目)	9
								(選択科目)	12
								合計	21

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S 自習=ジ
小レポート=オ その他:タ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記: 講義=コ PBL/SGD=S 自習=ジ
小レポート=オ その他=タ
6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-7) 学年別授業科目

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	4	4
教養教育科目	18	33
語学教育科目	9	18
医療安全教育科目	15	23
生涯学習の意欲醸成科目	8	33
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	1	1

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	32	28	60
2 年 次	46	8	54
3 年 次	38	1	39
4 年 次	33	10	43
5 年 次	23	7	30
6 年 次	9	12	21
合計	181	66	247

(基礎資料2-1) 在籍学生数

		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計					
入学年度 における	入学定員数	120	120	120	120	120	120	720	A				
	編入定員数	0	0	0	0	0	0	0	B				
	入学者数	129	140	132	124	131	136	792					
基準日 における	各学年の在籍学生数	133	159	140	120	143	128	823	C				
	編入学生数(内)※	0	0	0	0	0	0	0	D				
	留年者数(内)	4	23	29	24	33	42	155					
	留年者の 入学年度	平成21年度	0	0	2	9	23	0	34				
		平成22年度	0	1	4	11	0	0	16				
		平成23年度	0	3	22	0	0	0	25				
		平成24年度	0	19	0	0	0	0	19				
		平成25年度	4	0	0	0	0	0	4				
平成26年度		0	0	0	0	0	0	0					
C / (A + B)		1.14		※ 編入生すべての編入した学年を、別添でご提出ください。									
D / B		0								H20- 1名		H20-3名/H 19-1名	

- [注] 1 「C / (A + B)」と「D / B」については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示してください。
- 2 「編入学生数(内)」および「留年者数(内)」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。
- 3 平成26年度以外は年度末の現状を記入してください。

	平成21年度				平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度			
総在籍 学生数	504				621				647				666				805				823			
	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数																				
1年次	5	33	5	0	13	10	5	0	3	16	4	0	6	9	1	0	1	4	3	0	2	11	1	0
2年次	3	19	2	0	9	22	5	0	6	21	3	0	5	15	4	0	1	15	2	0	4	26	2	0
3年次	1	6	1	0	2	3	1	0	0	8	1	0	2	8	0	0	1	9	1	0	3	11	1	0
4年次	1	2	0	0	1	7	0	0	1	5	1	0	2	3	0	0	1	3	0	0	2	6	0	0
5年次					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6年次									0	5	0	0	0	16	0	0	0	28	0	0	0	33	0	0
合計	10	60	8	0	25	42	11	0	10	55	9	0	15	51	5	0	4	59	6	0	11	87	4	0

[注] 平成26年度以外は年度末の現状を記入してください。

4年課程は省いています。

(基礎資料2-3) 学士課程修了状況

		追加卒業込		追加卒業込		追加卒業込				
		平成23年度 (平成24年3月卒業)	平成24年度 (平成25年3月卒業)	平成25年度 (平成26年3月卒業)	平成26年度 (平成27年3月卒業)	平成27年度 (平成28年3月卒業)	平成28年度 (平成29年3月卒業)	入学者総数		卒業率 (%)
卒業生総数		91 名	102 名	108 名	95 名	名	名			
卒業生の 入学年度 内訳	平成18年度入学者	91 名	14 名	4 名	1 名	名	名	平成18年度	126 名	72.2%
	平成19年度入学者	0 名	88 名	20 名	11 名	名	名	平成19年度	134 名	65.7%
	平成20年度入学者	0 名	0 名	84 名	21 名	名	名	平成20年度	133 名	63.2%
	平成21年度入学者	0 名	0 名	0 名	62 名	名	名	平成21年度	136 名	45.6%
	平成22年度入学者	0 名	0 名	0 名	0 名	名	名	平成22年度	131 名	0.0%
	平成23年度入学者	0 名	0 名	0 名	0 名	名	名	平成23年度	124 名	0.0%

(基礎資料3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

1単位 2単位 3単位以上

[注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。

2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ							
(1) 生と死							
【生命の尊厳】							
1) 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。(知識・態度)	生命倫理学	臨床病態学		薬物治療学 I		臨床診療学*	
2) 誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる。							
3) 医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。							
4) 死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点を説明できる。							
5) 自らの体験を通して、生命の尊厳と医療の関わりについて討議する。(態度)							
【医療の目的】							
1) 予防、治療、延命、QOLについて説明できる。							
【先進医療と生命倫理】							
1) 医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる。		臨床病態学		医薬倫理学			
(2) 医療の担い手としてのこころ構え							
【社会の期待】							
1) 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)			看護福祉概論		実務実習事前学習 II a	救急救命医学*	臨床診療学*
2) 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度)		臨床病態学					
3) 医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)							
【医療行為に関わるこころ構え】							
1) ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。	生命倫理学	臨床病態学		看護福祉概論	実務実習事前学習 I b	臨床診療学*	
2) 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。							
3) インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。							
4) 患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。(態度)							
5) 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)							
【研究活動に求められるこころ構え】							
1) 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。				総合薬学研究 I		総合薬学研究 I・II	
2) 研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度)							
3) 他の研究者の意見を理解し、討論する能力を身につける。(態度)	生命倫理学						
【医薬品の創製と供給に関わるこころ構え】							
1) 医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。(態度)				病院薬学	実務実習事前学習 I b		
2) 医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)							
【自己学習・生涯学習】						応用社会学*	

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。 (知識・技能・態度)	生命倫理学	解剖学概論		実務実習事前学習Ⅱa	救急救命医学*	臨床診療学*
2) 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)						
(3) 信頼関係の確立を目指して						
【コミュニケーション】						
1) 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。		コミュニケーション論	看護福祉概論			
2) 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。						
3) 相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。						
【相手の気持ちに配慮する】						
1) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。						
2) 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度)						
3) 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(技能)	生命倫理学					
【患者の気持ちに配慮する】						
1) 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。		コミュニケーション論				
2) 患者の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)						
3) 患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)				実務実習事前学習Ⅱa		
4) 患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。 (態度)						
5) 不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。(知識・態度)				実務実習事前学習Ⅱb		
【チームワーク】						
1) チームワークの重要性を例示して説明できる。			看護福祉概論			
2) チームに参加し、協調的態で役割を果たす。(態度)					救急救命医学*	
3) 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)						
【地域社会の人々との信頼関係】						
1) 薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。						
2) 薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。(態度)				実務実習事前学習Ⅰa 実務実習事前学習Ⅰb		
B イントロダクション						
(1) 薬学への招待						
【薬学の歴史】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。						
2) 薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【薬剤師の活動分野】	薬学概論			薬剤師業務概論		
1) 薬剤師の活動分野(医療機関、製薬企業、衛生行政など)について概説できる。						
2) 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。			看護福祉概論			救急救命医学*
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。						
4) 医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。						
5) 疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。						
【薬について】						
1) 「薬とは何か」を概説できる。				製剤学 I		
2) 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。						
3) 化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。						
4) 種々の剤形とその使い方について概説できる。						
5) 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。						
【現代社会と薬学との接点】						
1) 先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。					血清製剤学*	
2) 麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。					臨床薬理学 I	
3) 薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。				血清製剤学*		
【日本薬局方】						
1) 日本薬局方の意義と内容について概説できる。				日本薬局方概論*		
【総合演習】						
1) 医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。(態度)		臨床病態学			臨床診療学*	
2) 身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。(技能)	基礎情報処理演習		医薬品化学実習	日本薬局方概論*		
(2) 早期体験学習						
1) 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。	早期体験学習				臨床診療学*	
2) 開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。(知識・態度)						
3) 製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。(知識・態度)						
4) 保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。(知識・態度)						
C 薬学専門教育						
【物理系薬学を学ぶ】						
C1 物質の物理的性質						
(1) 物質の構造						
【化学結合】						
1) 化学結合の成り立ちについて説明できる。	有機化学 I					
2) 軌道の混成について説明できる。						
3) 分子軌道の基本概念を説明できる。					有機軌道論*	
4) 共役や共鳴の概念を説明できる。			医薬品合成化学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分子間相互作用】	有機化学 I 物理化学 I					
1) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。						
2) ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。						
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。						
4) 分散力について例を挙げて説明できる。						
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。						
6) 電荷移動について例を挙げて説明できる。						
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。						
【原子・分子】						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。						
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。						
3) スピンとその磁気共鳴について説明できる。						
4) 分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。						
5) 代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。(知識・技能)			分子構造解析学			
6) 偏光および旋光性について説明できる。	物理化学 I					
7) 散乱および干渉について説明できる。						
8) 結晶構造と回折現象について説明できる。						
【放射線と放射能】						
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。		物理化学 III	放射薬品学			
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。						
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。						
4) 核反応および放射平衡について説明できる。						
5) 放射線の測定原理について説明できる。						
(2) 物質の状態 I						
【総論】						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	物理化学 II					
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。						
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。						
【エネルギー】						
1) 系、外界、境界について説明できる。						
2) 状態関数の種類と特徴について説明できる。						
3) 仕事および熱の概念を説明できる。						
4) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。						
5) 熱力学第一法則について式を用いて説明できる。						
6) 代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる。(知識・技能)						
7) エンタルピーについて説明できる。						
8) 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。(知識・技能)						
9) 標準生成エンタルピーについて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【自発的な変化】		物理化学Ⅱ				
1) エントロピーについて説明できる。						
2) 熱力学第二法則について説明できる。						
3) 代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。(知識、技能)						
4) 熱力学第三法則について説明できる。						
5) 自由エネルギーについて説明できる。						
6) 熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。(知識、技能)						
7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。						
8) 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性 (van' t Hoffの式) について説明できる。						
9) 共役反応について例を挙げて説明できる。						
(3) 物質の状態 II						
【物理平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動 (Clausius-Clapeyronの式など) について説明できる。						
2) 相平衡と相律について説明できる。						
3) 代表的な状態図 (一成分子系、二成分系、三成分系相図) について説明できる。			分析・物理 化学実習			
4) 物質の溶解平衡について説明できる。						
5) 溶液の束一的性質 (浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など) について説明できる。						
6) 界面における平衡について説明できる。			製剤学 I			
7) 吸着平衡について説明できる。						
8) 代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。(技能)				分析・物理 化学実習		
【溶液の化学】						
1) 化学ポテンシャルについて説明できる。		物理化学Ⅱ				
2) 活量と活量係数について説明できる。		物理化学Ⅲ				
3) 平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。		物理化学Ⅱ				
4) 電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。						
5) イオンの輸率と移動度について説明できる。						
6) イオン強度について説明できる。						
7) 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Hückel の式) について説明できる。						
【電気化学】						
1) 代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。		物理化学Ⅲ				
2) 標準電極電位について説明できる。						
3) 起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。						
4) Nernstの式が誘導できる。						
5) 濃淡電池について説明できる。						
6) 膜電位と能動輸送について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(4) 物質の変化						
【反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。		物理化学Ⅲ	製剤学Ⅰ	分析・物理化学実習		
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)						
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。						
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)						
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。						
6) 反応速度と温度との関係(Arrheniusの式)を説明できる。						
7) 衝突理論について概説できる。						
8) 遷移状態理論について概説できる。						
9) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など)について説明できる。						
10) 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。						
【物質の移動】						
1) 拡散および溶解速度について説明できる。						
2) 沈降現象について説明できる。						
3) 流動現象および粘度について説明できる。						
G2 化学物質の分析						
(1) 化学平衡						
【酸と塩基】						
1) 酸・塩基平衡を説明できる。	分析化学Ⅰ					
2) 溶液の水素イオン濃度(pH)を測定できる。(技能)		分析化学Ⅱ				
3) 溶液のpHを計算できる。(知識・技能)						
4) 緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。						
5) 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。			製剤学Ⅰ			
6) 化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。		物理化学Ⅲ				
【各種の化学平衡】						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	分析化学Ⅰ					
2) 沈殿平衡(溶解度と溶解度積)について説明できる。		物理化学Ⅲ				
3) 酸化還元電位について説明できる。						
4) 酸化還元平衡について説明できる。						
5) 分配平衡について説明できる。		物理化学Ⅲ	分析・物理化学実習			
6) イオン交換について説明できる。		分析化学Ⅱ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 化学物質の検出と定量						
【定性試験】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	分析化学 I			日本薬局方概論*		
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。		生薬学 I				
3) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	分析化学 I					
【定量の基礎】						
1) 実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)		臨床検査化学 I	分析・物理化学実習			
2) 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。		分析化学 II				
3) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。						
4) 日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。						
5) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。			薬理学実習	日本薬局方概論*		
【容量分析】						
1) 中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学 I		分析・物理化学実習		
2) 非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
3) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
4) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
5) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。				物理化学 III		
6) 電気滴定(電位差滴定、電気伝導度滴定など)の原理、操作法および応用例を説明できる。						
7) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(技能)					分析・物理化学実習	
【金属元素の分析】						
1) 原子吸光光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。		機器分析学	臨床検査化学 I			
2) 発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。						
【クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。				薬化学・生薬学実習		
2) クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。						
3) 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。(知識・技能)				薬化学・生薬学/ 分析・物理/生化学実習		
(3) 分析技術の臨床応用						
【分析の準備】						
1) 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。(技能)		分析化学 II				
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分析技術】						
1) 臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。		臨床 検査化学 I				
2) 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。						
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
4) 電気泳動法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
5) 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。						
6) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。		機器分析学				
7) 代表的な画像診断技術 (X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など) について概説できる。			放射薬品学		生体分析科学*	
8) 画像診断薬 (造影剤、放射性医薬品など) について概説できる。						
9) 薬学領域で繁用されるその他の分析技術 (バイオイメージング、マイクロチップなど) について概説できる。						
【薬毒物の分析】						
1) 毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。			環境衛生化学			
2) 代表的な中毒原因物質 (乱用薬物を含む) のスクリーニング法を列挙し、説明できる。						
3) 代表的な中毒原因物質を分析できる。(技能)						
G3 生体分子の姿・かたちをとらえる						
(1) 生体分子を解析する手法						
【分光分析法】						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。	分析化学 I	機器分析学				
2) 蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
3) 赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
4) 電子スピン共鳴 (ESR) スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
5) 旋光度測定法 (旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
6) 代表的な生体分子 (核酸、タンパク質) の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)						
【核磁気共鳴スペクトル】						
1) 核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。	物理化学 I					
2) 生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。						
【質量分析】						
1) 質量分析法の原理を説明できる。						
2) 生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。						
【X線結晶解析】						
1) X線結晶解析の原理を概説できる。	物理化学 I					
2) 生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【相互作用の解析法】						
1) 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。						
(2) 生体分子の立体構造と相互作用						
【立体構造】						
1) 生体分子 (タンパク質、核酸、脂質など) の立体構造を概説できる。	生化学I			生物医薬化学II*		立体構造解析学*
2) タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。	物理化学I					
3) タンパク質の立体構造を規定する因子 (疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など) について、具体例を用いて説明できる。						
4) タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。		生化学II				
5) 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。						
6) 生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。	物理化学I					
【相互作用】						
1) 鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。	生化学I					
2) 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。		生化学II				
3) 脂質の水における分子集合構造 (膜、ミセル、膜タンパク質など) について説明できる。	生化学I					
4) 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。	物理化学I			血清製剤学*		
C4 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
【基本事項】						
1) 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。	有機化学I					
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。						
3) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。						
4) 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。						
5) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離、転位) の特徴を概説できる。						
6) ルイス酸・塩基を定義することができる。	分析化学I					
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン) の構造と性質を説明できる。						
8) 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。						
9) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。						
【有機化合物の立体構造】	有機化学II					
1) 構造異性体と立体異性体について説明できる。						
2) キラリティーと光学活性を概説できる。						
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。						
4) ラセミ体とメソ化合物について説明できる。						
5) 絶対配置の表示法を説明できる。						
6) Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。						
7) エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。	物理化学I					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【無機化合物】						
1) 代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。			生物医薬化学 I			
2) 代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。						
3) 窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。						
4) イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
5) 代表的な無機医薬品を列挙できる。						
【錯体】						
1) 代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。	分析化学 I					
2) 配位結合を説明できる。						
3) 代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。						
4) 錯体の安定度定数について説明できる。						
5) 錯体の安定性に与える配位子の構造的要素 (キレート効果) について説明できる。						
6) 錯体の反応性について説明できる。				生物医薬化学 I		
7) 医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。						
(2) 有機化合物の骨格						
【アルカン】						
1) 基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。	有機化学 I					
2) アルカンの基本的な物性について説明できる。						
3) アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。						
4) シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。						
5) シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。	有機化学 II					
6) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。						
7) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。						
【アルケン・アルキンの反応性】						
1) アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。			医薬品化学			
2) アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性 (アンチ付加) を説明できる。						
3) アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性 (Markovnikov 則) について説明できる。						
4) カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。						
5) 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。						
6) アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。						
7) アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。						
【芳香族化合物の反応性】						
1) 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。	有機化学 II					
2) 芳香族性 (Hückel 則) の概念を説明できる。						
3) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。						
4) 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。			医薬品化学	医薬品化学実習		
5) 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
(3) 官能基							
【概説】							
1) 代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。	有機化学Ⅰ		薬化学・ 生薬学実習				
2) 複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。							
3) 生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。				医薬品化学 実習			
4) 代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)							
5) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)							
6) 日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。							
【有機ハロゲン化合物】							
1) 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		医薬品化学					
2) 求核置換反応 (S _N 1および S _N 2反応) の機構について、立体化学を含めて説明できる。							
3) ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性 (Saytzeff則) を説明できる。							
【アルコール・フェノール・チオール】							
1) アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。							
2) フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。							
3) フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。							
【エーテル】							
1) エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。							
2) オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。							
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】							
1) アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。	有機化学Ⅱ	有機化学Ⅲ	医薬品合成化学				
2) カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。							
3) カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル) の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。							
【アミン】							
1) アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		医薬品化学					
2) 代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。							
【官能基の酸性度・塩基性度】							
1) アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。	有機化学Ⅱ						
2) アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。							
3) 含窒素化合物の塩基性度を説明できる。							
(4) 化学物質の構造決定							
【総論】							
1) 化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。		機器分析学					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【¹H NMR】		分子構造解析学				
1) NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。						
2) 化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。						
3) 有機化合物中の代表的水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
4) 重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。						
5) ¹ H NMRの積分値の意味を説明できる。						
6) ¹ H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する理由と、分裂様式を説明できる。						
7) ¹ H NMRのスピン結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。						
8) 代表的化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)						
【¹³C NMR】						
1) ¹³ C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。						
2) 代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。						
【IRスペクトル】						
1) IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。						
2) IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)						
【紫外可視吸収スペクトル】						
1) 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。		機器分析学				
【マスマスペクトル】						
1) マスマスペクトルの概要と測定法を説明できる。						
2) イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明ができる。						
4) 塩素原子や臭素原子を含む化合物のマスマスペクトルの特徴を説明できる。						
5) 代表的なフラグメンテーションについて概説できる。						
6) 高分解能マスマスペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。						
7) 基本的な化合物のマスマスペクトルを解析できる。(技能)						
【比旋光度】						
1) 比旋光度測定法の概略を説明できる。						
2) 実測値を用いて比旋光度を計算できる。(技能)	有機化学 II					
3) 比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。						
4) 旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。	物理化学 I	機器分析学				
【総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。(技能)		分子構造解析学				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
05 ターゲット分子の合成						
(1) 官能基の導入・変換						
1) アルケンの代表的な合成法について説明できる。		医薬品化学				
2) アルキンの代表的な合成法について説明できる。						
3) 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。						
4) アルコールの代表的な合成法について説明できる。						
5) フェノールの代表的な合成法について説明できる。						
6) エーテルの代表的な合成法について説明できる。						
7) アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。						
8) カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。		有機化学Ⅲ	医薬品化学実習			
9) カルボン酸誘導体 (エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物) の代表的な合成法について説明できる。						
10) アミンの代表的な合成法について説明できる。		医薬品化学				
11) 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。			医薬品化学実習			
12) 代表的な官能基を他の官能基に変換できる。(技能)						
(2) 複雑な化合物の合成						
【炭素骨格の構築法】						
1) Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。		医薬品化学			有機軌道論*	
2) 転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。						
3) 代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。						
4) 代表的な炭素-炭素結合生成反応 (アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など) について概説できる。		医薬品化学			有機軌道論*	
【位置および立体選択性】						
1) 代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。			医薬品合成化学	医薬品化学実習		
2) 代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。						
【保護基】						
1) 官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。						
【光学活性化合物】						
1) 光学活性化合物を得るための代表的な手法 (光学分割、不斉合成など) を説明できる。						
【総合演習】						
1) 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)					有機軌道論*	
2) 課題として与えられた医薬品を合成できる。(技能)						
3) 反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)						
06 生体分子・医薬品を化学で理解する						
(1) 生体分子のコアとパーツ						
【生体分子の化学構造】						
1) タンパク質の高次構造を規定する結合 (アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など) および相互作用について説明できる。	生化学Ⅰ					
2) 糖類および多糖類の基本構造を概説できる。						
3) 糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。		生化学Ⅱ	生物 医薬化学Ⅰ			
5) 生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。	生化学Ⅰ	臨床検査化学Ⅰ				
【生体内で機能する複素環】						
1) 生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。						
2) 核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。		生化学Ⅱ				
3) 複素環を含む代表的な補酵素 (フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサル、葉酸など) の機能を化学反応性と関連させて説明できる。						
【生体内で機能する錯体・無機化合物】						
1) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。						
2) 活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。						
3) 一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。						
【化学から観る生体ダイナミクス】						
1) 代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。	生化学Ⅰ					
2) 代表的な酵素 (キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど) の作用機構を分子レベルで説明できる。						
3) タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。						
(2) 医薬品のコアとパーツ						
【医薬品のコンポーネント】						
1) 代表的な医薬品のコア構造 (ファーマコフォア) を指摘し、分類できる。						
2) 医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。						
【医薬品に含まれる複素環】						
1) 医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。						
2) 医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。						
3) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。						
4) 代表的芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。						
5) 代表的芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。						
【医薬品と生体高分子】						
1) 生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。						
2) 生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。						
3) 分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。 (知識・技能)	基礎情報処理演習		医薬品化学 実習		有機軌道論*	
【生体分子を模倣した医薬品】						
1) カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			薬理学Ⅲ	生物医薬化学Ⅱ*		
2) アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
3) ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
4) 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
5) ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【生体内分子と反応する医薬品】						
1) アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。		細胞生化学 I				
2) インターカレーター的作用機序を図示し、説明できる。						
3) β -ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。		微生物学 II				
G7 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【生薬とは何か】						
1) 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。						天然薬物学*
2) 生薬の歴史について概説できる。		生薬学 I	生薬学 II			植物資源学*
3) 生薬の生産と流通について概説できる。						
【薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の形態を観察する。(技能)				薬化学・生薬学実習		
2) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。		生薬学 I				植物資源学*
3) 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。			生薬学 II			
4) 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。(技能)				薬化学・生薬学実習		
5) 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。						天然薬物学* 植物資源学*
【植物以外の医薬資源】						
1) 動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。						
【生薬成分の構造と生合成】						
1) 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。						
2) 代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
3) 代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
4) 代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
5) 代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。		生薬学 I		天然物化学		
6) 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
7) 代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。						
【農薬、香粧品としての利用】						
1) 天然物質の農薬、香粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。						
【生薬の同定と品質評価】						
1) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。						
2) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)						
3) 代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能)						
4) 代表的な生薬の純度試験を実施できる。(技能)						
5) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。				薬化学・生薬学実習		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 薬の宝庫としての天然物						
【シーズの探索】						
1) 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。		生薬学 I	天然学化学	血清製剤学*		天然薬物学*
2) シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。				生薬学 II		
3) 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。					血清製剤学*	
【天然物質の取扱い】						
1) 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。(技能)			薬化学・生薬学実習			
2) 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。						
【微生物が生み出す医薬品】						
1) 抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。		微生物学 I				
【発酵による医薬品の生産】						
1) 微生物による抗生物質(ペニシリン、ストレプトマイシンなど)生産の過程を概説できる。						
【発酵による有用物質の生産】						
1) 微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。						
(3) 現代医療の中の生薬・漢方薬						
【漢方医学の基礎】						
1) 漢方医学の特徴について概説できる。			漢方概論		未病治療学*	
2) 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。						
3) 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。						
4) 漢方処方と「証」との関係について概説できる。						
5) 代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。				天然物化学		天然薬物学*
6) 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。						
7) 漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。						
【漢方処方の応用】						
1) 代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。			天然物化学			
2) 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。			漢方概論			
【生物系薬学を学ぶ】						
G8 生命体の成り立ち						
(1) ヒトの成り立ち						
【概論】						
1) ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。						
2) ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。						
【神経系】						
1) 中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。		薬理学 II	薬理学 III	応用薬理学		医用生理学*
2) 体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。						
3) 自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【骨格系・筋肉系】	機能形態学 解剖学概論	臨床病理学					
1) 主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。							
2) 主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。							
【皮膚】							
1) 皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。							
【循環器系】							
1) 心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。							
2) 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。							
3) リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。							
【呼吸器系】							
1) 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。							
【消化器系】							
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。							
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。							
【泌尿器系】							
1) 腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。							
【生殖系】							
1) 精巣、卵巣、子宮などの生殖系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。							
【内分泌系】							
1) 脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。							
【感覚器系】							
1) 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。							
【血液・造血器系】							
1) 骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。							
(2) 生命体の基本単位としての細胞							
【細胞と組織】	細胞生物学						
1) 細胞集合による組織構築について説明できる。							
2) 臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態および機能的特徴を説明できる。							
3) 代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)			微生物学実習				
【細胞膜】							
1) 細胞膜の構造と性質について説明できる。							
2) 細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。							
3) 細胞膜を介した物質移動について説明できる。							
【細胞内小器官】							
1) 細胞内小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)の構造と機能を説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【細胞の分裂と死】	細胞生物学						
1) 体細胞分裂の機構について説明できる。		細胞生化学 I					
2) 生殖細胞の分裂機構について説明できる。							
3) アポトーシスとネクローシスについて説明できる。							
4) 正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。							
【細胞間コミュニケーション】							
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。		細胞生化学 I					
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。							
(3) 生体の機能調節							
【神経・筋の調節機構】	機能形態学 解剖学概論	臨床病理学	薬理学 II			医用生理学*	
1) 神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。							
2) シナプス伝達の調節機構を説明できる。							
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列举し、概説できる。							
4) 筋収縮の調節機構を説明できる。							
【ホルモンによる調節機構】							
1) 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。		臨床病理学	細胞生化学 I	薬理学 III	応用薬理学		
2) 血糖の調節機構を説明できる。							
【循環・呼吸系の調節機構】							
1) 血圧の調節機構を説明できる。			薬物治療学 I	薬理学 III	応用薬理学	救急救命医学*	臨床診療学*
2) 肺および組織におけるガス交換を説明できる。		細胞生化学 II		血清製剤学*			
3) 血液凝固・線溶系の機構を説明できる。		薬理学 III					
【体液の調節機構】							
1) 体液の調節機構を説明できる。							
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。							
【消化・吸収の調節機構】							
1) 消化、吸収における神経の役割について説明できる。							
2) 消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。							
【体温の調節機構】							
1) 体温の調節機構を説明できる。							
(4) 小さな生き物たち							
【総論】							
1) 生態系の中での微生物の役割について説明できる。							
2) 原核生物と真核生物の違いを説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【細菌】	微生物学 I					
1) 細菌の構造と増殖機構を説明できる。						
2) 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。		臨床検査化学 I				
3) グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。						
4) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。						
5) 腸内細菌の役割について説明できる。						
6) 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質導入、形質転換) について説明できる。						
【細菌毒素】						
1) 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。						
【ウイルス】						
1) 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。		細胞生化学 I				
2) ウイルスの分類法について概説できる。						
3) 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。						
【真菌・原虫・その他の微生物】						
1) 主な真菌の性状について説明できる。						
2) 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。						
【消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。			微生物学実習			
2) 主な消毒薬を適切に使用する。(技能・態度) (OSCEの対象)						
3) 主な滅菌法を実施できる。(技能) (OSCEの対象)						
【検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。(技能)						
2) 無菌操作を実施できる。(技能)						
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)						
4) 細菌の同定に用いる代表的な試験法 (生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験) について説明できる。						
5) 代表的な細菌を同定できる。(技能)						
G9 生命をミクロに理解する						
(1) 細胞を構成する分子						
【脂質】						
1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	生化学 I	臨床検査化学 I	薬物治療学 I			
2) 脂肪酸の種類と役割を説明できる。						
3) 脂肪酸の生合成経路を説明できる。		生化学 II				
4) コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【糖質】							
1) グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	生化学 I						
2) グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。							
3) 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。							
4) 糖質の定性および定量試験法を実施できる。(技能)				生化学実習			
【アミノ酸】							
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生化学 I						
2) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。		生化学 II					
3) アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能)			分析・物理化学実習				
【ビタミン】							
1) 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。	衛生薬学 I						
2) 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。							
3) ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。							
(2) 生命情報を担う遺伝子							
【ヌクレオチドと核酸】							
1) 核酸塩基の代謝(合成と分解)を説明できる。	細胞生化学 I						
2) DNAの構造について説明できる。							
3) RNAの構造について説明できる。							
【遺伝情報を担う分子】							
1) 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。	細胞生化学 I	生化学 II					
2) DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。							
3) ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。							
4) 染色体の構造を説明できる。							
5) 遺伝子の構造に関する基本的用語(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。					分子生物学*		
6) RNAの種類と働きについて説明できる。							
【転写と翻訳のメカニズム】							
1) DNAからRNAへの転写について説明できる。	細胞生化学 I					生命情報科学*	
2) 転写の調節について、例を挙げて説明できる。							
3) RNAのプロセッシングについて説明できる。							
4) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。							
5) リボソームの構造と機能について説明できる。							
【遺伝子の複製・変異・修復】							
1) DNAの複製の過程について説明できる。	細胞生化学 I					分子生物学*	
2) 遺伝子の変異(突然変異)について説明できる。							
3) DNAの修復の過程について説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【遺伝子多型】						
1) 一塩基変異 (SNPs) が機能におよぼす影響について概説できる。		細胞生化学 I				
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【タンパク質の構造と機能】						
1) タンパク質の主要な機能を列挙できる。	生化学 I					
2) タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。						
3) タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。		生化学 II		血清製剤学*		生命情報科学*
【酵素】						
1) 酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。	生化学 I					
2) 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。						
3) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。						
4) 酵素反応速度論について説明できる。						
5) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。					血清製剤学*	
6) 代表的な酵素の活性を測定できる。(技能)				生化学実習		
【酵素以外の機能タンパク質】						
1) 細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質 (受容体、チャネルなど) の構造と機能を概説できる。	細胞生化学 I	薬理学 II	薬理学 III	応用薬理学		医用生理学*
2) 物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。	臨床検査化学 I			血清製剤学*		
3) 血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。		生化学 II				
4) 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。	細胞生化学 I					医用生理学*
5) 細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。						
【タンパク質の取扱い】						
1) タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。(技能)				生化学実習		
2) タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。(知識・技能)						
3) タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。						
(4) 生体エネルギー						
【栄養素の利用】						
1) 食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。	生化学 I					
【ATPの産生】						
1) ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。						
2) 解糖系について説明できる。						
3) クエン酸回路について説明できる。						
4) 電子伝達系 (酸化的リン酸化) について説明できる。						
5) 脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。						
6) アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。		生化学 II				
7) エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。						
8) ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。						
9) ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。						
10) アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。	生化学 I					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【飢餓状態と飽食状態】							
1) グリコーゲンの役割について説明できる。							
2) 糖新生について説明できる。							
3) 飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。		生化学II					
4) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。	生化学 I						
5) 食餌性の血糖変動について説明できる。		細胞生化学 I					
6) インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。							
7) 糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。		生化学 II					
8) ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。							
(5) 生理活性分子とシグナル分子							
【ホルモン】							
1) 代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		細胞生化学 I		臨床薬理学 I			
2) 代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。							
3) 代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。							
4) 代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。							
【オータコイドなど】							
1) エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。		生化学II	薬理学III	細胞生化学 II			
2) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。							
3) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義(生理活性)を説明できる。							
4) 主な生理活性アミン(セロトニン、ヒスタミンなど)の生合成と役割について説明できる。							
5) 主な生理活性ペプチド(アンギオテンシン、ブラジキニンなど)の役割について説明できる。							
6) 一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。							
【神経伝達物質】							
1) モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。				臨床薬理学 I	医用生理学*		
2) アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。							
3) ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。							
4) アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。							
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】							
1) 代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。		基礎免疫学					
2) 代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。							
3) 代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。							
【細胞内情報伝達】							
1) 細胞内情報伝達に関与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。		細胞生化学 I	薬理学 II	薬理学 III		医用生理学*	
2) 細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。							
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。							
4) 代表的な細胞内(核内)受容体の具体例を挙げて説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目								
	1年	2年		3年	4年	5年	6年		
(6) 遺伝子を操作する									
【遺伝子操作の基本】									
1) 組換えDNA技術の概要を説明できる。			生化学Ⅱ	生化学実習	分子生物学*				
2) 細胞からDNAを抽出できる。(技能)									
3) DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。(技能)									
4) 組換えDNA実験指針を理解し守る。(態度)						分子生物学*			
5) 遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。(態度)									
【遺伝子のクローニング技術】									
1) 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。		細胞生化学Ⅰ	生化学Ⅱ	生化学実習	分子生物学*				
2) cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。									
3) 遺伝子ライブラリーについて説明できる。									
4) PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)									
5) RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。				生化学Ⅱ		生化学実習			
6) DNA塩基配列の決定法を説明できる。									
7) コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。(技能)									
【遺伝子機能の解析技術】									
1) 細胞(組織)における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。			生化学Ⅱ		分子生物学*				
2) 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。									
3) 特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。			細胞生化学Ⅰ						
4) 遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。						バイオ医薬品*			
G10 生体防御									
(1) 身体をまもる									
【生体防御反応】									
1) 自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。	微生物学Ⅰ	解剖学概論	臨床病態学		薬理学Ⅱ				
2) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。						臨床検査化学Ⅰ			
3) 補体について、その活性化経路と機能を説明できる。									
4) 免疫反応の特徴(自己と非自己、特異性、記憶)を説明できる。									
5) クローン選択説を説明できる。									
6) 体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。									
【免疫を担当する組織・細胞】									
1) 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。	解剖学概論								
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。									
3) 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。									
4) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。									

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【分子レベルで見た免疫のしくみ】							
1) 抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。		基礎免疫学	細胞生化学 II			分子薬効解析学*	
2) MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。							
3) T細胞による抗原の認識について説明できる。							
4) 抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構（遺伝子再構成）を概説できる。							
5) 免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。							
(2) 免疫系の破綻・免疫系への応用							
【免疫系が関係する疾患】		臨床病態学	薬理学 III				
1) アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。							
2) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。							
3) 代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。					血清製剤学*		
4) 代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。							
【免疫応答のコントロール】							
1) 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。							
2) 細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。		微生物学 II					
3) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。							
4) 代表的な免疫賦活療法について概説できる。							
【予防接種】							
1) 予防接種の原理とワクチンについて説明できる。		微生物学 II	感染症予防学				
2) 主なワクチン（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン）について基本的特徴を説明できる。							臨床診療学*
3) 予防接種について、その種類と実施状況を説明できる。							
【免疫反応の利用】							
1) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。						分子薬効解析学*	
2) 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。							
3) 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。（技能）		臨床検査化学 I	微生物学実習				
4) ELISA法、ウエスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。（技能）							
(3) 感染症にかかる							
【代表的な感染症】							
1) 主なDNAウイルス（Δサイトメガロウイルス、ΔEBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、Δアデノウイルス、ΔパルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。		臨床病態学					
2) 主なRNAウイルス（Δポリオウイルス、Δコクサッキーウイルス、Δエコーウイルス、Δライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、Δ麻疹ウイルス、Δムンプスウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。							
3) レトロウイルス（HIV、HTLV）が引き起こす疾患について概説できる。							
4) グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。							
5) グラム陰性球菌（淋菌、Δ髄膜炎菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) グラム陽性桿菌(破傷風菌、△ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、△ジフテリア菌、△炭疽菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学Ⅱ				
7) グラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、△チフス菌、△ペスト菌、コレラ菌、△百日咳菌、腸炎ピブリオ菌、緑膿菌、△プルセラ菌、レジオネラ菌、△インフルエンザ菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
8) グラム陰性スピリルム属病原菌(ヘリコバクター・ピロリ菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
9) 抗酸菌(結核菌、非定型抗酸菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
10) スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
11) 真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、△ムーコル)の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
12) 代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。						
13) プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。			臨床病理学			
【感染症の予防】						
1) 院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。				感染症予防学		
【健康と環境】						
C11 健康						
(1) 栄養と健康						
【栄養素】		衛生薬学Ⅰ				
1) 栄養素(三大栄養素、ビタミン、ミネラル)を列挙し、それぞれの役割について説明できる。						
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。						
3) 脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。						
4) 食品中のタンパク質の栄養的な価値(栄養価)を説明できる。						
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。						
6) 栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。						
7) 日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。						
8) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。						
【食品の品質と管理】						
1) 食品が腐敗する機構について説明できる。						
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)					環境分析学*	
3) 食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。						
4) 食品の変質を防ぐ方法(保存法)を説明できる。						
5) 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。						
6) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。						
7) 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。						
8) 主な食品添加物の試験法を実施できる。(技能)					環境分析学*	
9) 代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。						
10) 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【食中毒】						
1) 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。		衛生薬学Ⅱ				臨床薬学*
2) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。	微生物学Ⅰ					
3) 食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。						
4) 代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。	微生物学Ⅰ					
5) 化学物質(重金属、残留農薬など)による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。						
(2) 社会・集団と健康						
【保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。						
2) 人口静態と人口動態について説明できる。						
3) 国勢調査の目的と意義を説明できる。						
4) 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。						
5) 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。						
【健康と疾病をめぐる日本の現状】						
1) 死因別死亡率の変遷について説明できる。						
2) 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。						
3) 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。(知識・態度)						
【疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。						
2) 疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。						
3) 疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。						
4) 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。(知識・技能)						
5) 要因・対照研究(コホート研究)の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。(知識・技能)						
6) 医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。						
7) 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。						
(3) 疾病の予防						
【健康とは】						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。						
2) 世界保健機構(WHO)の役割について概説できる。						
【疾病の予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。						
2) 疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。						
3) 新生児マスキングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。						
4) 疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。(態度)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【感染症の現状とその予防】						
1) 現代における感染症(日和見感染、院内感染、国際感染症など)の特徴について説明できる。		臨床病態学	感染症 予防学			
2) 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。						
3) 一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。						
4) 母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。						
5) 性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。						
6) 予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。						
【生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。			薬物治療学 I			
2) 生活習慣病のリスク要因を列挙できる。						
3) 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。						
【職業病とその予防】						
1) 主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。						
G12 環境						
(1) 化学物質の生体への影響						
【化学物質の代謝・代謝的活性化】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			衛生化学 実習			臨床薬学*
2) 第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
3) 第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
【化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。						
2) 変異原性試験(Ames試験など)の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
3) 発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。						
4) 代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。						
【化学物質の毒性】						
1) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。			衛生薬学Ⅲ			臨床薬学*
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。						
3) 重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。						
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。						
5) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量(NOEL)などについて概説できる。						
6) 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。						
7) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法など)を説明できる。						
8) 環境ホルモン(内分泌攪乱化学物質)が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。(態度)						
【化学物質による中毒と処置】						
1) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。						
2) 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。(技能)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【電離放射線の生体への影響】			放射薬品学			
1) 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。						
2) 電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。						
3) 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。						
4) 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子(酸素効果など)について説明できる。						
5) 電離放射線を防御する方法について概説できる。						
6) 電離放射線の医療への応用について概説できる。						
【非電離放射線の生体への影響】						
1) 非電離放射線の種類を列挙できる。						
2) 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
3) 赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
(2) 生活環境と健康						
【地球環境と生態系】						
1) 地球環境の成り立ちについて概説できる。						
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
3) 人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。(態度)						
4) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。						
5) 食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。						
6) 化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。						
7) 環境中に存在する主な放射性核種(天然、人工)を挙げ、人の健康への影響について説明できる。						
【水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。						
2) 水の浄化法について説明できる。						
3) 水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。						
4) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)						
5) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。						
6) 水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。						
7) DO, BOD, CODを測定できる。(技能)						
8) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。						
【大気環境】			衛生化学 実習			環境薬学*
1) 空気の成分を説明できる。						
2) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。						
3) 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。(知識・技能)						
4) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。						環境分析学*

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)						環境分析学*
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。						
3) 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。						
4) シックハウス症候群について概説できる。						
【廃棄物】						
1) 廃棄物の種類を列挙できる。						
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。						
3) 医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。(技能・態度)						
4) マニフェスト制度について説明できる。						
5) PRTR法について概説できる。						
【環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。						
2) 環境基本法の理念を説明できる。						
3) 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。						
4) 水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。						
【薬と疾病】						
C13 薬の効くプロセス						
【薬の作用】						
1) 薬物の用量と作用の関係を説明できる。						
2) アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。						
3) 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。	薬理学 I	薬理学 II	薬理学 III	薬理学 IV		
4) 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。						
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。						
6) 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。						
7) 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。						
8) 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。					臨床薬理学 I	
【薬の運命】						
1) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。						
2) 薬物の代表的な投与方法(剤形、投与経路)を列挙し、その意義を説明できる。						
3) 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化(崩壊、分散、溶解など)を説明できる。						
4) 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。						
5) 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。						
【薬の副作用】						
1) 薬物の主作用と副作用(有害作用)、毒性との関連について説明できる。	薬理学 I	薬理学 II	薬理学 III	薬理学 IV		
2) 副作用と有害事象の違いについて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮する。(態度)			薬理学実習			
2) 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)						
3) 実験動物での代表的な薬物投与法を実施できる。(技能)						
(2) 薬の効き方I						
【中枢神経系に作用する薬】						
1) 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 II		臨床薬理学 I	実務実習事前演習	医用生理学*
2) 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				臨床薬理学 I		
3) 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な中枢神経疾患(てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	臨床病態学			臨床薬理学 I		
5) 代表的な精神疾患(統合失調症、うつ病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				臨床薬理学 I		
6) 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。				薬理学実習		
【自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I				
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能) △技能であるからCBTには馴染まない						
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)						
【循環器系に作用する薬】						
1) 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		臨床病態学		薬理学 III	応用薬理学	救急救命医学*
2) 代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【呼吸器系に作用する薬】						
1) 代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I	薬物治療学 I		実務実習演習	臨床診療学*
2) 代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			生物医薬化学 I	生物医薬化学 II*		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 薬の働き方II						
【ホルモンと薬】						
1) ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		臨床病態学	薬理学III	臨床薬理学I	応用薬理学	
2) 代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。						
【消化器系に作用する薬】						
1) 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学I	薬物治療学II		実務実習演習	臨床診療学*
2) その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
5) 代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【腎に作用する薬】						
1) 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。			薬理学III	臨床薬理学I		
【血液・造血器系に作用する薬】						
1) 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。		薬理学I	細胞生化学II	血清製剤学*	実務実習演習	臨床診療学*
2) 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
【代謝系に作用する薬】						
1) 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。		臨床病態学	薬物治療学I	臨床薬理学I	実務実習演習	臨床診療学*
2) 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
4) カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【炎症・アレルギーと薬】						
1) 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。		臨床病態学	細胞生化学II		実務実習演習	臨床診療学*
2) 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
3) アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			生物医薬化学I	生物医薬化学II*		
(4) 薬物の臓器への到達と消失						
【吸収】						
1) 薬物の主な吸収部位を列挙できる。		薬理学I				
2) 消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。						
3) 受動拡散(単純拡散)、促進拡散の特徴を説明できる。						
4) 能動輸送の特徴を説明できる。						
5) 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。						
6) 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分布】						
到達目標：						
1) 薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。		薬物動態学 I				
2) 薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。						
3) 薬物の胎児への移行について、その機構と血液-胎盤関門の意義を説明できる。						
4) 薬物の体液中での存在状態(血漿タンパク結合など)を組織への移行と関連づけて説明できる。						
5) 薬物分布の変動要因(血流量、タンパク結合性、分布容積など)について説明できる。						
6) 分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。						
7) 代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。(技能)						
【代謝】						
1) 薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。		薬物動態学 II				
2) 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。						
3) 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。						
4) シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。						
5) 薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。						
6) 薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。						
7) 薬物代謝酵素の変動要因(誘導、阻害、加齢、SNPsなど)について説明できる。						
8) 初回通過効果について説明できる。						
9) 肝および固有クリアランスについて説明できる。						
【排泄】						
1) 腎における排泄機構について説明できる。		薬物動態学 I	薬理学III		臨床診療学*	
2) 腎クリアランスについて説明できる。		薬物動態学 II				
3) 糸球体ろ過速度について説明できる。		薬物動態学 I				
4) 胆汁中排泄について説明できる。						
5) 腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。						
6) 唾液・乳汁中への排泄について説明できる。						
7) 尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。						
【相互作用】						
1) 薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			薬物投与設計学			
2) 薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。						
(5) 薬物動態の解析						
【薬動学】						
1) 薬物動態に関わる代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。		薬物動態学 II	製剤・薬剤学実習			
2) 薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。						
3) 線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)						
4) 線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)						
5) 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。						
6) 生物学的半減期を説明し、計算できる。(知識・技能)				製剤・薬剤学実習		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) 全身クリアランスについて説明し、計算できる。(知識・技能)						
8) 非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。						
9) モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。						
10) 薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。(技能)						
11) 点滴静注の血中濃度計算ができる。(技能)						
12) 連続投与における血中濃度計算ができる。(技能)			製剤・薬剤学実習			
【TDM (Therapeutic Drug Monitoring)】						
1) 治療的薬物モニタリング (TDM) の意義を説明できる。						
2) TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。						
3) 薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。(技能)						
4) 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメーターを用いて説明できる。						
5) 代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。(技能)		薬物動態学Ⅱ	薬物投与設計学			
C14 薬物治療						
(1) 体の変化を知る						
【症候】						
1) 以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい			臨床検査化学Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ			
【症候と臨床検査値】						
1) 代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		臨床検査化学Ⅰ	臨床検査化学Ⅲ	病院薬学		
2) 代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
3) 代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
4) 代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
5) 代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
6) 代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
7) 感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べるることができる。						
8) 悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。						
9) 尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
10) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。						
11) 代表的なバイタルサインを列挙できる。						
						臨床診療学*
					臨床薬理学Ⅲ	
					救急救命医学*	

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 疾患と薬物治療 (心臓疾患等)						
【薬物治療の位置づけ】						
1) 代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療 (外科手術、食事療法など) の位置づけを説明できる。						
2) 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。(知識・技能)						
【心臓・血管系の疾患】						
1) 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。		臨床病態学	薬物治療学 I	薬理学 III	病院薬学 病院薬学	応用薬理学 実務実習演習 臨床薬理学 III 救急救命医学*
2) 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック						
【血液・造血器の疾患】						
1) 血液・造血器における代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						臨床薬理学 III
3) 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						臨床薬理学 III
5) 以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓						
【消化器系疾患】						
1) 消化器系の部位別 (食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓) に代表的な疾患を挙げることができる。			薬物治療学 II			実務実習演習
2) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				病院薬学		
3) 腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)						実務実習演習
(3) 疾患と薬物治療 (腎臓疾患等)						
【腎臓・尿路の疾患】						
1) 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。		臨床薬理学 I	臨床薬理学 I	病院薬学	臨床薬理学 III	実務実習演習
2) 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石						
【生殖器疾患】						
1) 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜症						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【呼吸器・胸部の疾患】		臨床病態学				
1) 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 閉塞性気道疾患(気管支喘息、肺気腫)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学 I	臨床薬理学 II		臨床診療学*
3) 以下の疾患について概説できる。上気道炎(かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌						
【内分泌系疾患】						
1) ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬理学 III	応用薬理学		
3) クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病						
【代謝性疾患】						
1) 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
2) 高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学 I	臨床薬理学 I 病院薬学	臨床薬理学 II	臨床診療学*
3) 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【神経・筋の疾患】						
1) 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。					実務実習演習	
2) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学 II		病院薬学		医用生理学*
5) アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。					実務実習演習	
(4) 疾患と薬物治療(精神疾患等)						
【精神疾患】						
1) 代表的な精神疾患を挙げることができる。						
2) 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学 II		臨床薬理学 I 応用薬理学	実務実習演習	医用生理学*
3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症						
【耳鼻咽喉の疾患】						
1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎					実務実習演習	

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【皮膚疾患】		臨床病態学				
1) 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。				医薬品 安全性学 I		
2) アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬理学Ⅲ			
3) 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症						
【眼疾患】						
1) 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					病院薬学	
3) 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症						
【骨・関節の疾患】						
1) 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症						
【アレルギー・免疫疾患】						
1) 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。						
2) アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 自己免疫疾患（全身性エリテマトーデスなど）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				医薬品 安全性学 I		
4) 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬理学Ⅲ		
【移植医療】						
1) 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【緩和ケアと長期療養】						
1) 癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。			薬物治療学 I			
2) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。					臨床診療学*	
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。 (技能)					実務実習演習	
(5) 病原微生物・悪性新生物と戦う						
【感染症】						
1) 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。			感染症予防学			
【抗菌薬】						
1) 抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。						
2) 代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。						
3) 代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
4) テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
5) マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
6) アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) ピリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を挙げる。						
8) サルファ薬 (ST合剤を含む) の有効な感染症を挙げる。						
9) 代表的な抗結核薬を挙げるし、作用機序を説明できる。						
10) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。						
11) 代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。						
12) 特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を挙げる。						
【抗原虫・寄生虫薬】						
1) 代表的な抗原虫・寄生虫薬を挙げるし、作用機序および臨床応用を説明できる。						
【抗真菌薬】						
1) 代表的な抗真菌薬を挙げるし、作用機序および臨床応用を説明できる。						
【抗ウイルス薬】						
1) 代表的な抗ウイルス薬を挙げるし、作用機序および臨床応用を説明できる。		細胞生化学 I				
2) 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。		臨床病態学				
【抗菌薬の耐性と副作用】						
1) 主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。						
2) 主要な化学療法薬の主な副作用を挙げるし、その症状を説明できる。						
【悪性腫瘍の病態と治療】						
1) 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。						
2) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。						
3) 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。						分子薬効解析*
【抗悪性腫瘍薬】						
1) 代表的な抗悪性腫瘍薬を挙げる。						
2) 代表的なアルキル化薬を挙げるし、作用機序を説明できる。						分子薬効解析*
3) 代表的な代謝拮抗薬を挙げるし、作用機序を説明できる。						
4) 代表的な抗腫瘍抗生物質を挙げるし、作用機序を説明できる。						
5) 抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを挙げるし、作用機序を説明できる。						
6) 抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を挙げるし、作用機序を説明できる。		細胞生化学 I	天然学化学			
7) 代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。						
8) 代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。						
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】						
1) 主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。						
2) 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を挙げるし、その症状を説明できる。						
3) 副作用軽減のための対処法を説明できる。					臨床薬理学 I	

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
G15 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【情報】						
1) 医薬品として必須の情報を列挙できる。						
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。						
3) 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。						
4) 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。						
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。				血清製剤学*		
【情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。						
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
3) 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
4) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけと用途を説明できる。						
5) 医薬品添付文書（医療用、一般用）に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。						
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。						
7) 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。（技能）					実務実習 事前学習 II a	
【収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）						
2) 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。						
3) 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。（技能）						
4) 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。（知識・態度）						
5) 主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
【データベース】						
1) 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。						
2) 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。（知識・技能）						
3) インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。（技能）				基礎情報処理演習		
【EBM (Evidence-Based Medicine)】						
1) EBMの基本概念と有用性について説明できる。					病院薬学	
2) EBM実践のプロセスを概説できる。						
3) 臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など）の長所と短所を概説できる。						
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。（知識・技能）				医療統計処理学		
5) 真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。						
6) 臨床適用上の効果指標（オッズ比、必要治療数、相対危険度など）について説明できる。						
【総合演習】						
1) 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。						
2) 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。（知識・技能）						

医薬品情報学*

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 患者情報						
【情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を挙げる。						
2) 患者情報源の種類を挙げるし、それぞれの違いを説明できる。						
【収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。						
2) 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。(技能)		臨床検査化学 I				
3) 患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。(技能)						
4) 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。(知識・技能)		臨床検査化学 I				
5) SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。(技能)						
6) チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。(態度)						
7) 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。(知識・態度)						
(3) テーラーメイド薬物治療を目指して						
【遺伝的素因】						
1) 薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。						
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。		薬物動態学 I				
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。						
【年齢的要因】						
1) 新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
2) 幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。		臨床病態学				
3) 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【生理的要因】						
1) 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
2) 授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 栄養状態の異なる患者(肥満など)に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【合併症】						
1) 腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
2) 肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。		臨床検査化学 I				
【投与計画】						
1) 患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)						
2) ボビュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。						
3) 薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)						
4) 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品をつくる】						
G16 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤材料の性質						
【物質の溶解】						
1) 溶液の濃度と性質について説明できる。		物理化学Ⅲ	製剤・ 薬剤学実習			
2) 物質の溶解とその速度について説明できる。						
3) 溶解した物質の膜透過速度について説明できる。						
4) 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。						
【分散系】						
1) 界面の性質について説明できる。			製剤学Ⅰ			
2) 代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。		物理化学Ⅲ				
3) 乳剤の型と性質について説明できる。				製剤・ 薬剤学実習		
4) 代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。						
5) 分散粒子の沈降現象について説明できる。		物理化学Ⅲ				
【製剤材料の物性】						
1) 流動と変形（レオロジー）の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。			製剤学Ⅱ		製剤設計学	
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。						
3) 製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。						
4) 粉体の性質について説明できる。						
5) 製剤材料としての分子集合体について説明できる。						
6) 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。						
7) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。		物理化学Ⅲ				
8) 製剤材料の物性を測定できる。(技能)						
(2) 剤形をつくる						
【代表的な製剤】						
1) 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。			製剤学Ⅱ	製剤・ 薬剤学実習		
2) 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。						
3) 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。						
4) 代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。						
5) 代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。						
6) エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。						
7) 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。						
8) 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。						
【製剤化】						
1) 製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。						
2) 単位操作を組み合わせで代表的製剤を調製できる。(技能)						
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【製剤試験法】							
1) 日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。				日本薬局方概論*		医薬品試験法・品質管理	
2) 日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。(技能)							
(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)							
【DDSの必要性】							
1) 従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。				製剤学Ⅲ	製剤設計学		
2) DDSの概念と有用性について説明できる。							
【放出制御型製剤】							
1) 放出制御型製剤(徐放性製剤を含む)の利点について説明できる。							
2) 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。							
3) 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。							
4) 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。							
5) 経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる							
6) 腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。							
【ターゲティング】							
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。							
2) 代表的なドラッグキャリアを列挙し、そのメカニズムを説明できる。							
【プロドラッグ】							
1) 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。							
【その他のDDS】							
1) 代表的な生体膜透過促進法について説明できる。							
G17 医薬品の開発と生産							
(1) 医薬品開発と生産のながれ							
【医薬品開発のコンセプト】							
1) 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。				マーケティング*	創薬概論	分子薬効解析*	
2) 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。							
【医薬品市場と開発すべき医薬品】							
1) 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。				マーケティング*			
2) 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。							
3) ジェネリック医薬品の役割について概説できる。							
4) 希少疾病に対する医薬品(オーファンドラッグ)開発の重要性について説明できる。				マーケティング*			
【非臨床試験】							
1) 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。				医薬品安全性学Ⅱ			
【医薬品の承認】							
1) 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。							
2) 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。							
3) 市販後調査の制度とその意義について説明できる。							
4) 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション(ICH)について概説できる。				マーケティング*			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
【医薬品の製造と品質管理】					創薬概論 プロセス化学*		
1) 医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。				血清剤学*			
2) 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。							
3) 医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。							
【規範】							
1) GLP (Good Laboratory Practice)、GMP (Good Manufacturing Practice)、GCP (Good Clinical Practice)、GPMS (Good Post-Marketing Surveillance Practice) の概略と意義について説明できる。			医薬品安全性学Ⅱ				
【特許】							
1) 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。							
【薬害】							
1) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど)について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)			医薬品安全性学Ⅱ	マーケティング*			
(2) リード化合物の創製と最適化							
【医薬品創製の歴史】							
1) 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。							
【標的生体分子との相互作用】						分子薬効解析学*	
1) 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。					生物 医薬化学Ⅱ*		
2) 医薬品と標的分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。							
3) 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。							
4) 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。							
【スクリーニング】					創薬概論		
1) スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。							
2) 代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。						化学療法学*	
【リード化合物の最適化】							
1) 定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。							
2) 生物学的等価性(バイオアイソスター)の意義について概説できる。							
3) 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。							
(3) バイオ医薬品とゲノム情報							
【組換え体医薬品】							
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。					製剤学Ⅲ バイオ 医薬品学*	分子薬効解析学*	
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。							
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。							
【遺伝子治療】					創薬概論		
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)							
【細胞を利用した治療】							
1) 再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)					医薬倫理学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【ゲノム情報の創薬への利用】						
1) ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。		生化学Ⅱ				
2) バイオインフォマティクスについて概説できる。			生化学実習			
3) 遺伝子多型(欠損、増幅)の解析に用いられる方法(ゲノミックサザンプロット法など)について概説できる。		細胞生化学Ⅰ				
4) ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例(イマチニブなど)を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。				創薬概論		分子薬効解析学*
【疾患関連遺伝子】						
1) 代表的な疾患(癌、糖尿病など)関連遺伝子について説明できる。			薬理学Ⅳ	バイオ医薬品学*		
2) 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。						
(4) 治験						
【治験の意義と業務】						
1) 治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。			医薬品安全性学Ⅱ	創薬概論		
2) 医薬品創製における治験の役割を説明できる。						
3) 治験(第Ⅰ、Ⅱ、およびⅢ相)の内容を説明できる。						
4) 公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。						
5) 治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。(態度)						
6) 治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。						
【治験における薬剤師の役割】						
1) 治験における薬剤師の役割(治験薬管理者など)を説明できる。				創薬概論	応用社会学*	
2) 治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。						
3) 治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。						
4) インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度)				医薬倫理学		
(5) バイオスタティスティクス						
【生物統計の基礎】						
1) 帰無仮説の概念を説明できる。		医療統計処理学				医薬品情報学*
2) パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。						
3) 主な二群間の平均値の差の検定法(t-検定、Mann-Whitney U検定)について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)						
4) χ^2 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)						
5) 最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。(知識・技能)						
6) 主な多重比較検定法(分散分析、Dunnnett検定、Tukey検定など)の概要を説明できる。						
7) 主な多変量解析の概要を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【臨床への応用】						
1) 臨床試験の代表的な研究デザイン (症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験) の特色を説明できる。						医療薬理学*
2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。						
3) バイアスを回避するための計画上の技法 (盲検化、ランダム化) について説明できる。						
4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。 (知識・技能)						
5) 基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier曲線など) の特徴を説明できる。						
C18 薬学と社会						
(1) 薬剤師を取り巻く法律と制度						
【医療の担い手としての使命】						
1) 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。(態度)				薬剤師業務概論	実務実習 事前学習	臨床診療学*
2) 医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。(態度)						
【法律と制度】						
1) 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。				薬局管理 薬事関連法規		
2) 薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
3) 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
4) 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。						
5) 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。						
6) 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。						
7) 製造物責任法を概説できる。						
【管理薬】						
1) 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。						
2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。						
3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。						
4) 毒物及び劇物取締法を概説できる。						
【放射性医薬品】						
1) 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準 (放射性医薬品基準など) および制度について概説できる。				放射薬品学		
2) 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。						
(2) 社会保障制度と薬剤経済						
【社会保障制度】						
1) 日本における社会保障制度のしくみを説明できる。						
2) 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。						
3) 介護保険制度のしくみを説明できる。						
4) 高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目							
	1年	2年	3年	4年		5年	6年	
【医療保険】				薬局管理学	薬事関連法規	医療経済論		
1) 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。								
2) 医療保険のしくみを説明できる。								
3) 医療保険の種類を列挙できる。								
4) 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。								
【薬剤経済】								
1) 国民医療費の動向を概説できる。								
2) 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。								
3) 診療報酬と薬価基準について説明できる。								
4) 医療費の内訳を概説できる。								
5) 薬物治療の経済評価手法を概説できる。								
6) 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。(知識・技能)								
(3) コミュニティファーマシー				薬剤師業務概論	薬局管理学	薬事関連法規	実務実習事前学習Ⅰa	
【地域薬局の役割】								
1) 地域薬局の役割を列挙できる。								
2) 在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。						臨床診療学*		
3) 学校薬剤師の役割を説明できる。								
【医薬分業】								
1) 医薬分業のしくみと意義を説明できる。								
2) 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。(知識・態度)								
3) かかりつけ薬局の意義を説明できる。								
【薬局の業務運営】								
1) 保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説できる。								
2) 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。								
3) 医薬品の流通のしくみを概説できる。								
4) 調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)について説明できる。								
【OTC薬・セルフメディケーション】				薬局管理学				
1) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度)								
2) 主な一般用医薬品(OTC薬)を列挙し、使用目的を説明できる。							未病治療学*	
3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。							天然薬物学*	

(基礎資料3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

[注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。

2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

実務実習モデル・コアカリキュラム(実務実習事前学習) SBOs	該 当 科 目		
	3年	4年	5年
D 実務実習教育			
(I) 実務実習事前学習			
(1) 事前学習を始めるにあたって			
《薬剤師業務に注目する》			
1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。		実務実習事前学習 I	
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。			
3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。(態度)		実務実習事前学習 II	
《チーム医療に注目する》			
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。			
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。		実務実習事前学習 I	
6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)			
《医薬分業に注目する》			
7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。		実務実習事前学習 I	
(2) 処方せんと調剤			
《処方せんの基礎》			
1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。			
2. 処方オーダーリングシステムを概説できる。		実務実習事前学習 I	
3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。			
4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。			
5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能)		実務実習事前学習 II	
6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。		実務実習事前学習 I	
《医薬品の用法・用量》			
7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。			
8. 患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)		実務実習事前学習 I	
9. 患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。			
10. 患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)		実務実習事前学習 II	
11. 病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。		実務実習事前学習 I	

《服薬指導の基礎》			
12.	服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。		実務実習事前学習 I
《調剤室業務入門》			
13.	代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。(技能)	実務実習事前学習 II	
14.	処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能)		
15.	処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能)		
16.	調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能)		
17.	処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。(態度)		
(3) 疑義照会			
《疑義照会の意義と根拠》			
1.	疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。		実務実習事前学習 I
2.	代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる。		
3.	特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。(技能)		薬剤学実習
4.	不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。		実務実習事前学習 I
《疑義照会入門》			
5.	処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。(態度)		実務実習事前学習 II
6.	代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。	実務実習事前学習 I	
7.	代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。		
8.	代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。		
9.	疑義照会の流れを説明できる。		
10.	疑義照会をシミュレートする。(技能・態度)		実務実習事前学習 II
(4) 医薬品の管理と供給			
《医薬品の安定性に注目する》			
1.	医薬品管理の意義と必要性について説明できる。		実務実習事前学習 I
2.	代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。		
《特別な配慮を要する医薬品》			
3.	毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。	実務実習事前学習 I	
4.	麻薬、向精神薬などの管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		
5.	血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。		
6.	輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。		
7.	代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。		
8.	生物製剤の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		
9.	麻薬の取扱いをシミュレートできる。(技能)		
10.	代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。		
11.	放射性医薬品の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		

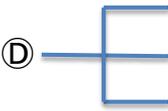
《製剤化の基礎》			
12.	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		実務実習事前学習Ⅰ
13.	薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		
14.	代表的な院内製剤を調製できる。(技能)		製剤学実習
15.	無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)		実務実習事前学習Ⅱ
16.	抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)		
《注射剤と輸液》			
17.	注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。		実務実習事前学習Ⅰ
18.	代表的な配合変化を検出できる。(技能)		薬剤学実習
19.	代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。		実務実習事前学習Ⅰ
20.	体内電解質の過不足を判断して補正できる。(技能)		
《消毒薬》			
21.	代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。		微生物学Ⅱ
22.	消毒薬調製時の注意点を説明できる。		
(5) リスクマネジメント			
《安全管理に注目する》			
1.	薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。		
2.	誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。		実務実習事前学習Ⅰ
3.	院内感染の回避方法について説明できる。		
《副作用に注目する》			
4.	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。		実務実習事前学習Ⅰ
《リスクマネジメント入門》			
5.	誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。		実務実習事前学習Ⅰ
6.	リスクを回避するための具体策を提案する。(態度)		実務実習事前学習Ⅱ
7.	事故が起こった場合の対処方法について提案する。(態度)		
(6) 服薬指導と患者情報			
《服薬指導に必要な技能と態度》			
1.	患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。		実務実習事前学習Ⅰ
2.	代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。		
3.	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。		
4.	インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。(態度)		実務実習事前学習Ⅱ
5.	適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。(技能・態度)		
6.	医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・態度)		実務実習事前学習Ⅰ
7.	患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。		

《患者情報の重要性に注目する》			
8.	服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。		実務実習事前学習 I
9.	患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。（技能）		実務実習事前学習 II
10.	医師、看護師などの情報の共有化の重要性を説明できる。		実務実習事前学習 I
《服薬指導入門》			
11.	代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。（知識・技能）		実務実習事前学習 II
12.	共感的態度で患者インタビューを行う。（技能・態度）		
13.	患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能）		
14.	代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。（技能）		
（7）事前学習のまとめ			

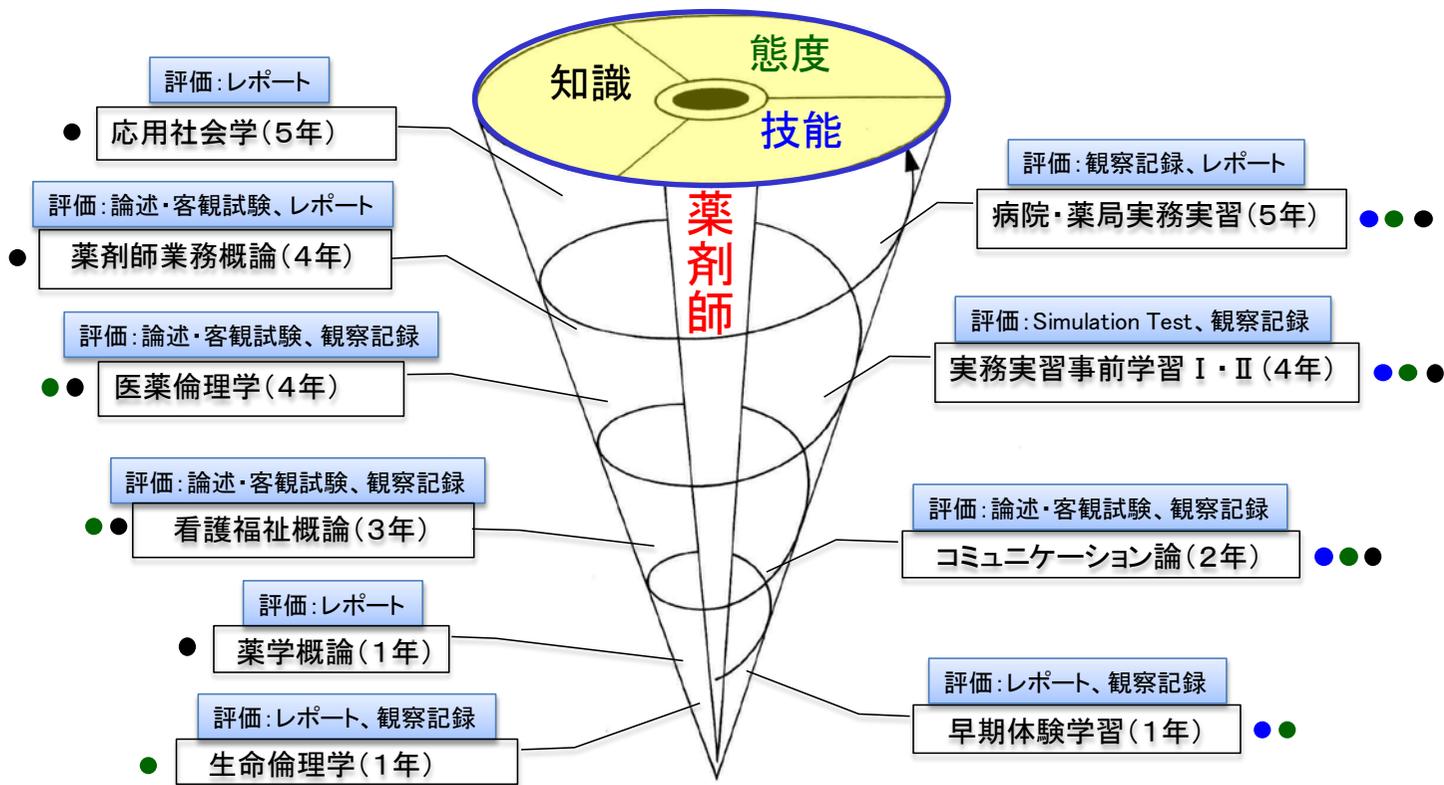
(基礎資料4) カリキュラムマップ

- [注] 1 任意(大学独自)の様式で、カリキュラムマップを作成してください。また、シラバス等に提示しているカリキュラムマップの転記でも結構です。
- 2 図は、カラーでも白黒でもどちらでも結構です。

<らせん型カリキュラム>

- I. 患者・他の医療職から信頼される薬剤師に相応しい高い使命感、責任感、倫理観
ならびにコミュニケーション能力を身につける ①
- II. 薬剤師としての専門的な知識を常に修得し、これを医療に応用する能力を身につける
(治療関連) ②-1
(製剤・薬剤関連) ②-2
(業務関連) ②-3
- III. 地域の保健・医療、行政等に参画、連携して、地域における人々の健康増進、
公衆衛生の向上に貢献する能力を身につける ③
- IV. 医薬品・生体に関する基本的な知識に基づき、薬学・医療領域における問題点の
思索・解決能力と自発的な学習態度を身につける
- ④  分析化学・物理化学・製剤学などの知識・技能を段階的に身につける ④-1
有機化学・生薬学などの知識・技能を段階的に身につける ④-2
生化学、薬理学など生物系薬学の知識・技能を段階的に身につける ④-3

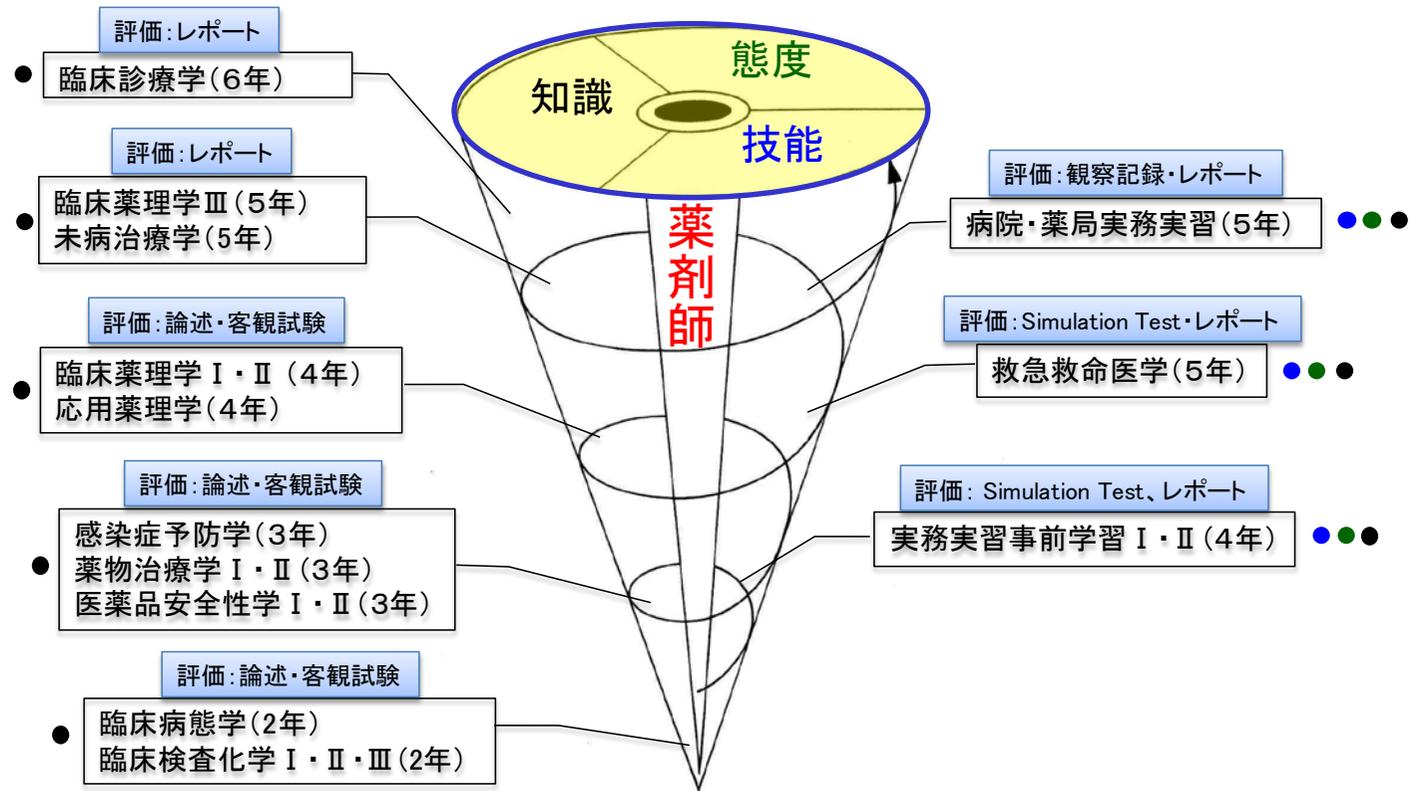
患者・他の医療職から信頼される薬剤師に相応しい高い使命感、責任感、倫理観
ならびにコミュニケーション能力を身につける



注) ● : 知識、● : 態度、● : 技能 をあらわす

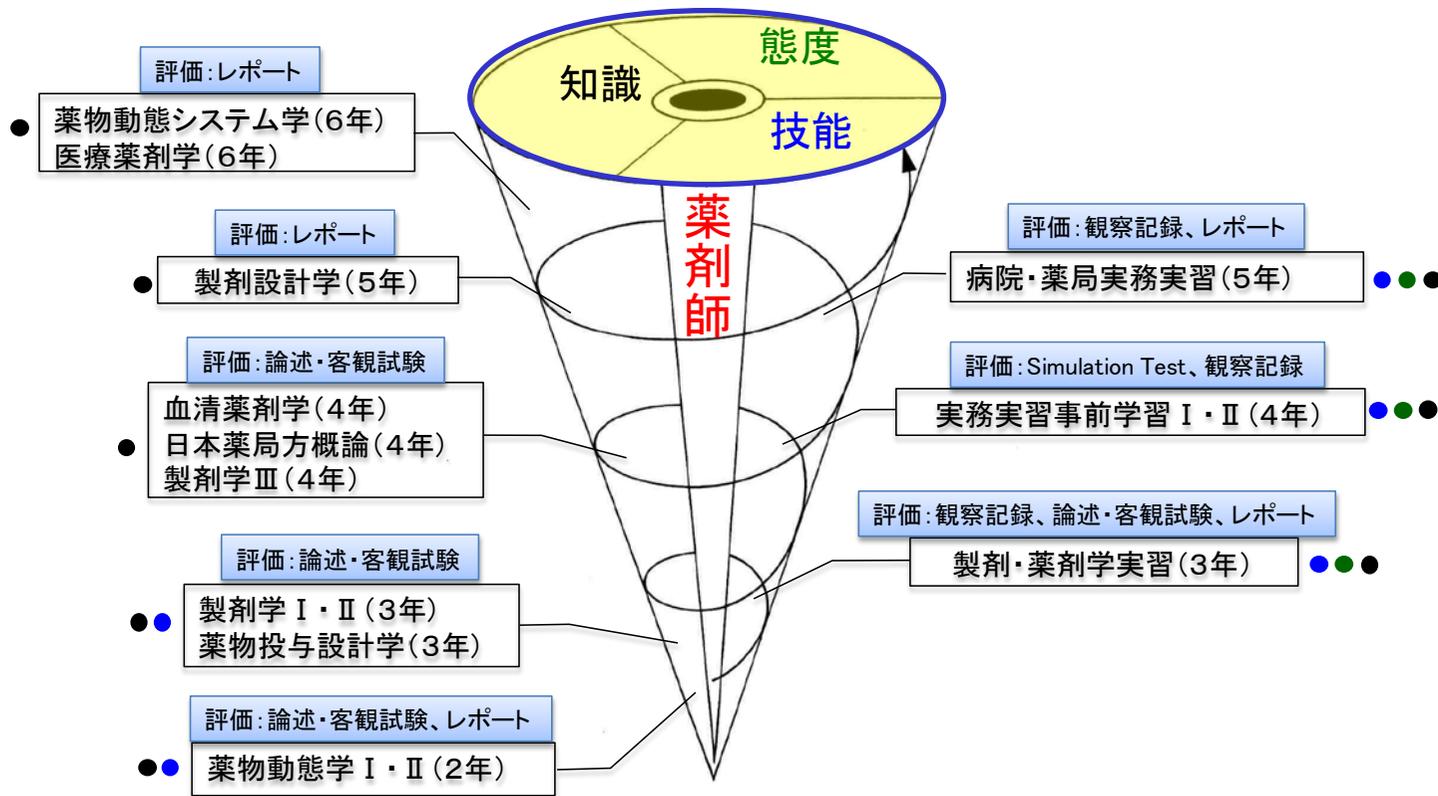
Ⓐ

薬剤師としての専門的な知識を常に修得し、これを医療に応用する能力を身につける
(治療関連)



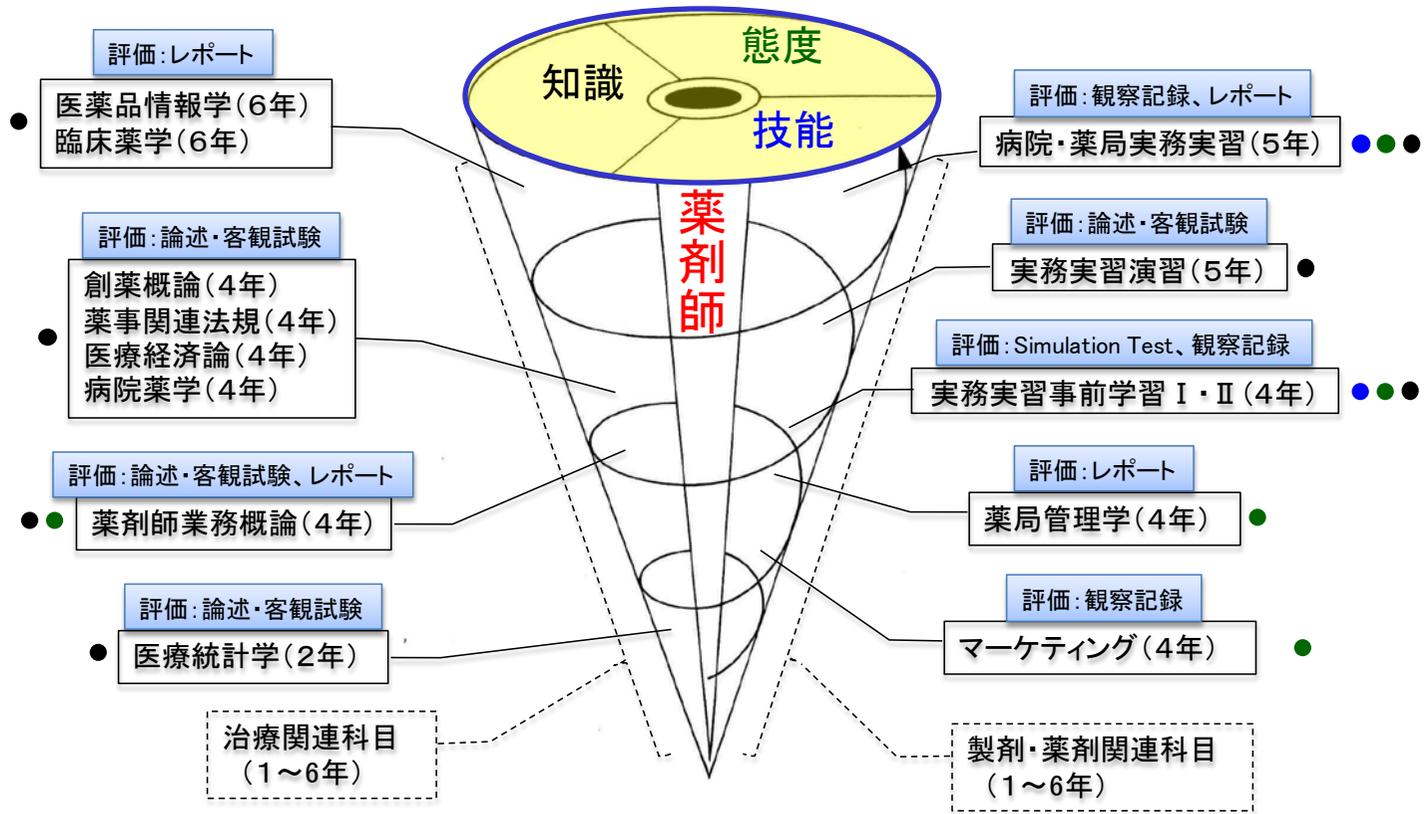
Ⓑ-1

薬剤師としての専門的な知識を常に修得し、これを医療に応用する能力を身につける
(製剤・薬剤関連)



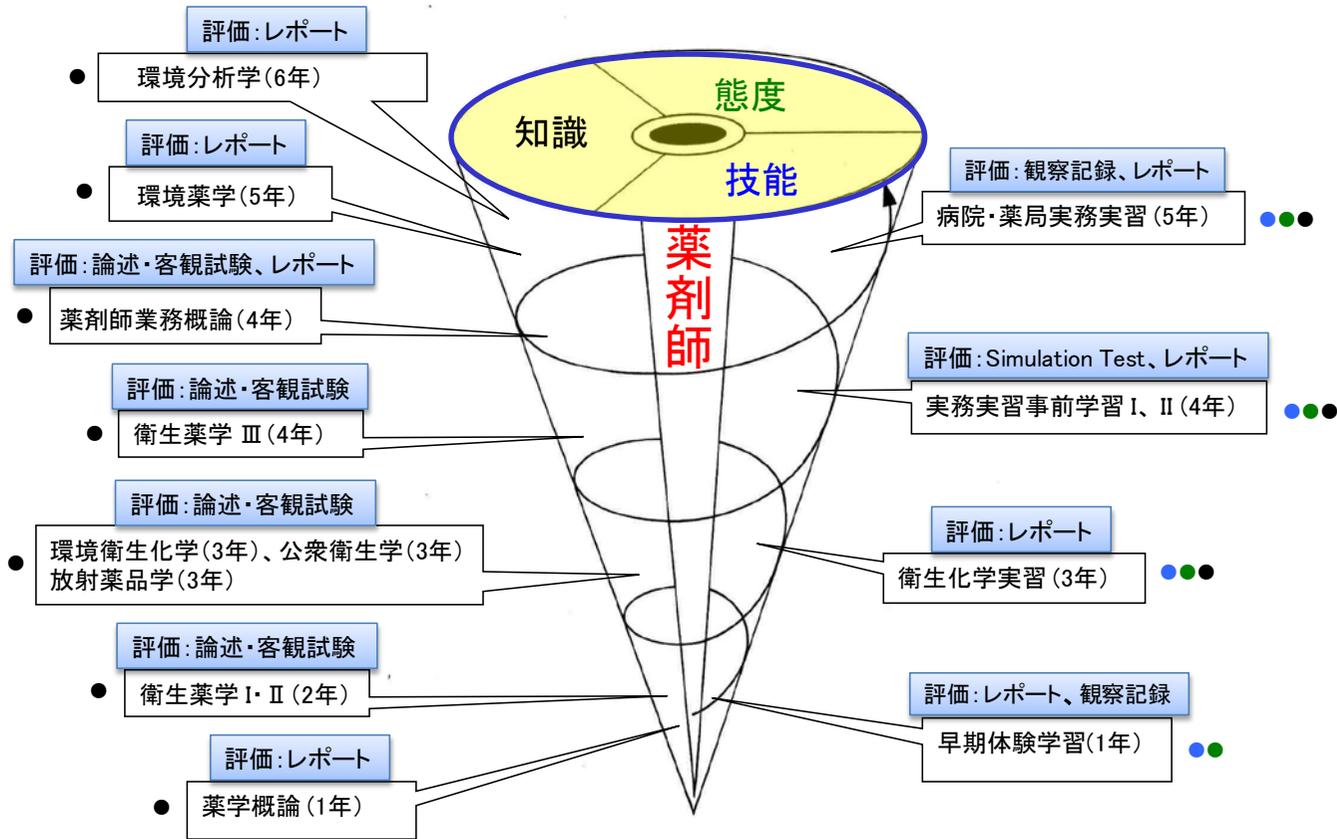
②-2

薬剤師としての専門的な知識を常に修得し、これを医療に応用する能力を身につける
(業務関連)



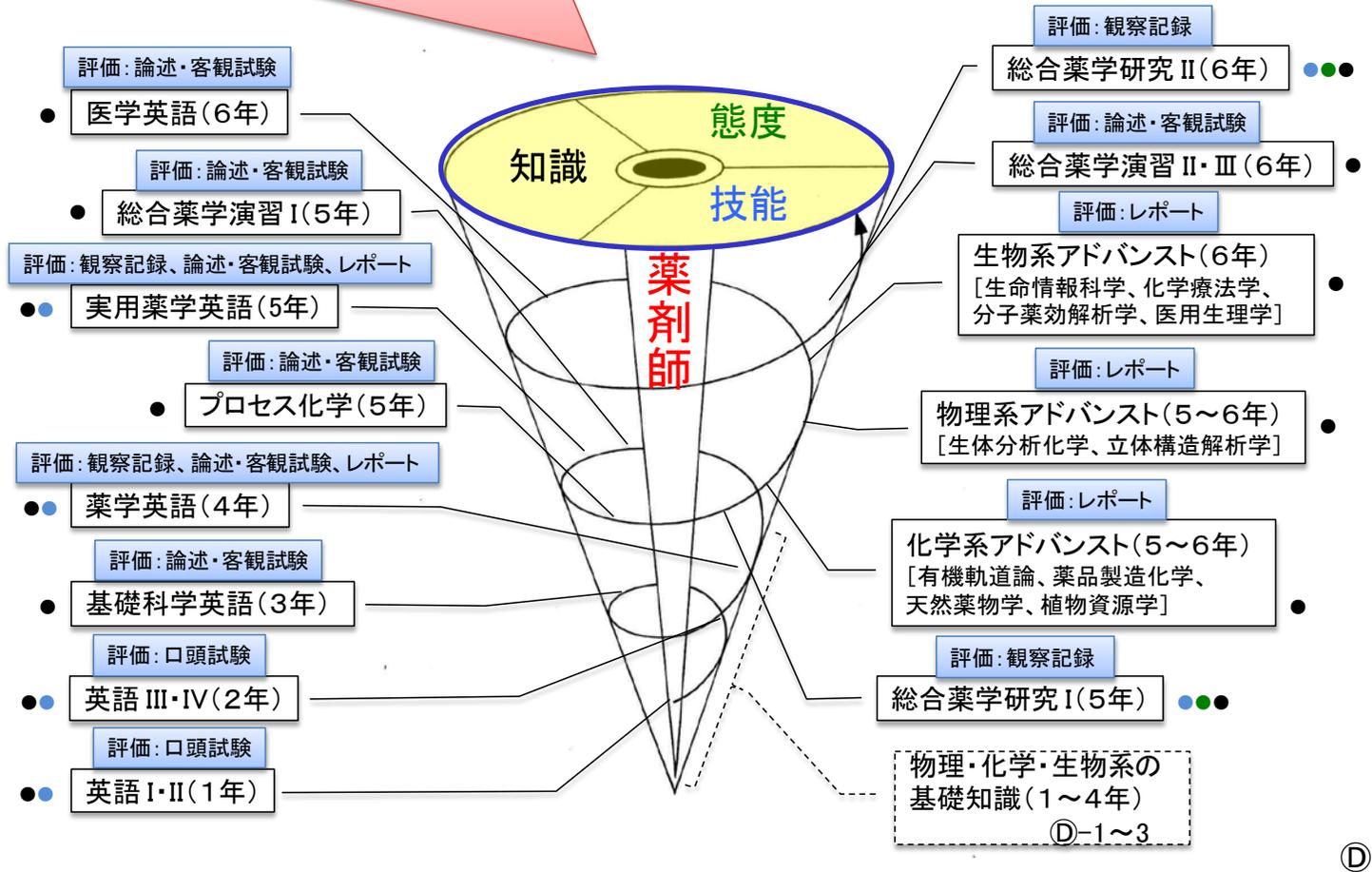
Ⓑ-3

地域の保健・医療、行政等に参画、連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を身につける

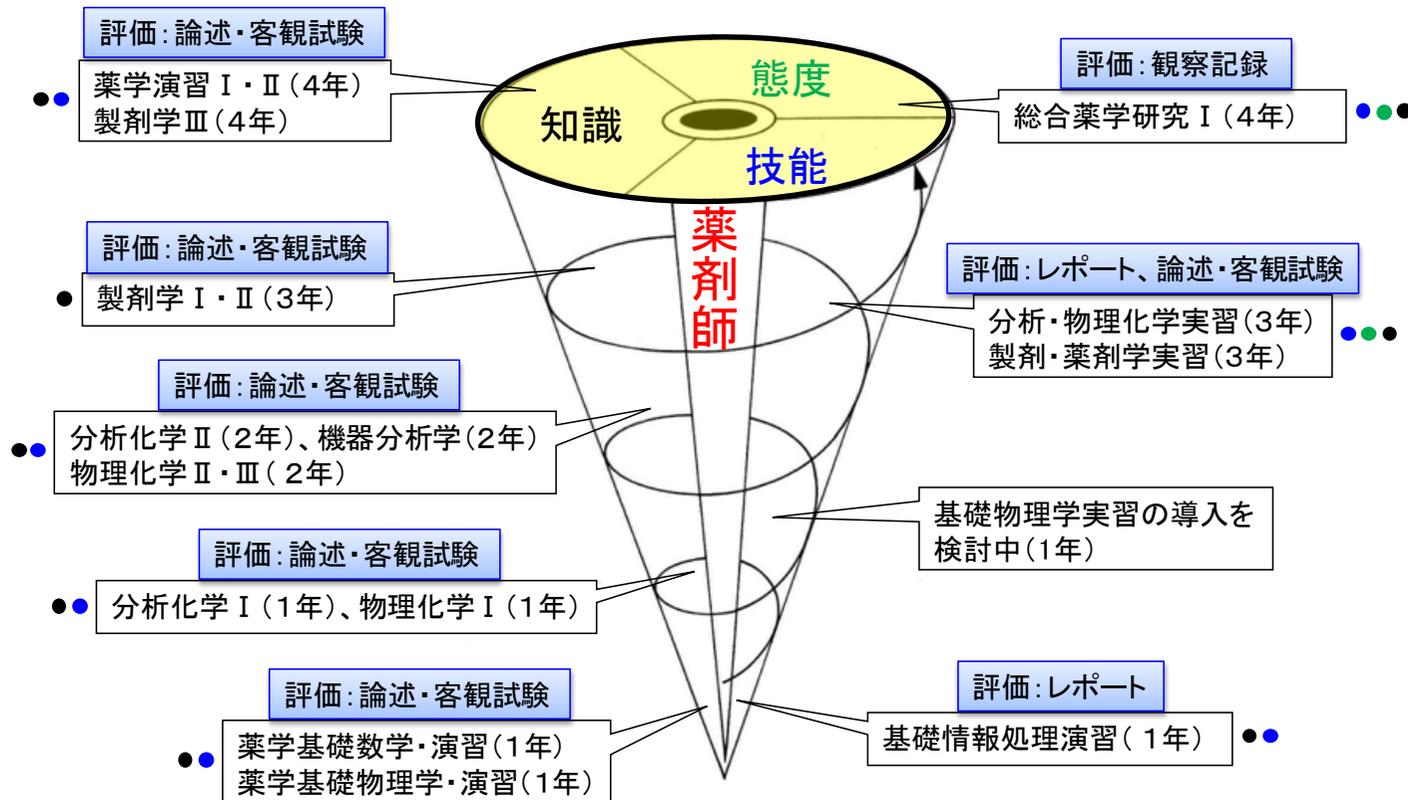


©

医薬品・生体に関する基本的な知識に基づき、薬学・医療領域における問題点の
 思索・解決能力と自発的な学習態度を身につける

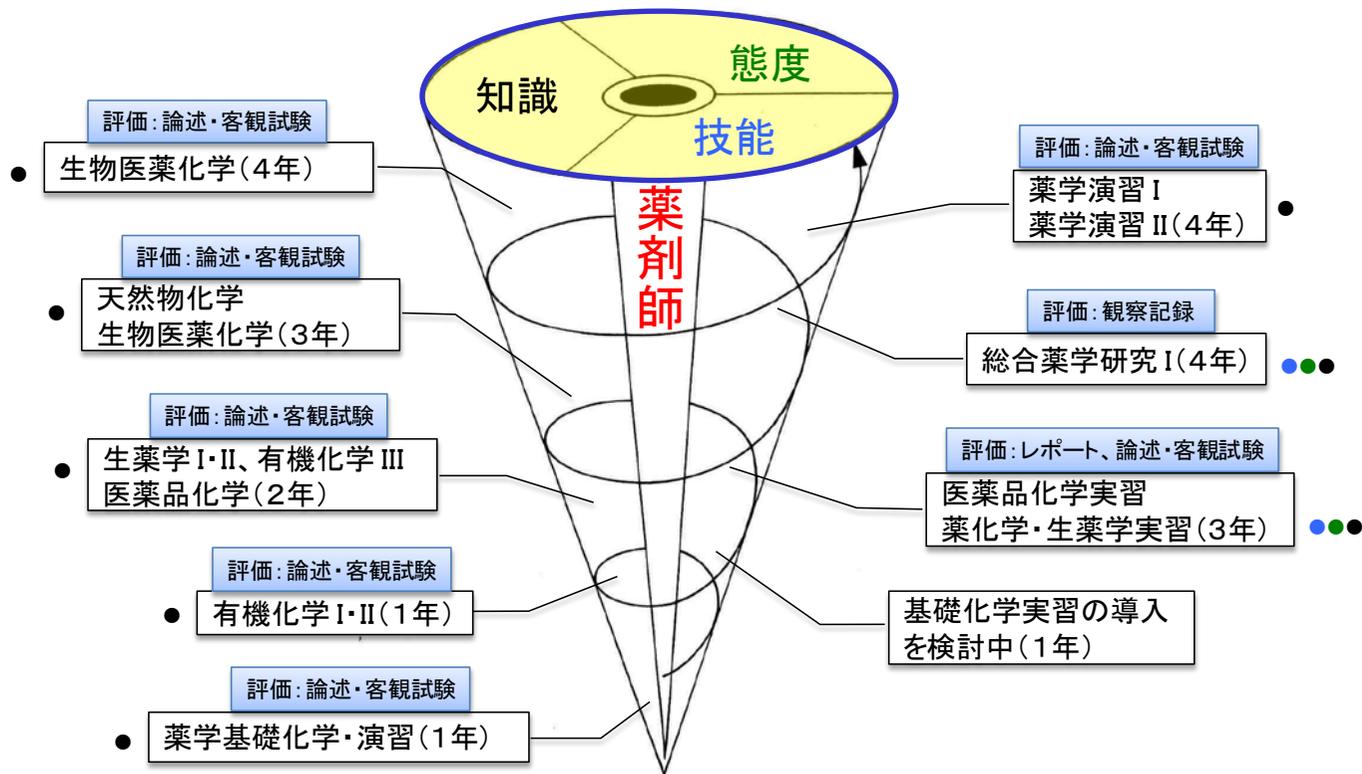


「医薬品・生体に関する基本的な知識の習得」における物理系の基本知識の習得
 分析化学・物理化学・製剤学などの知識・技能を段階的に身につける



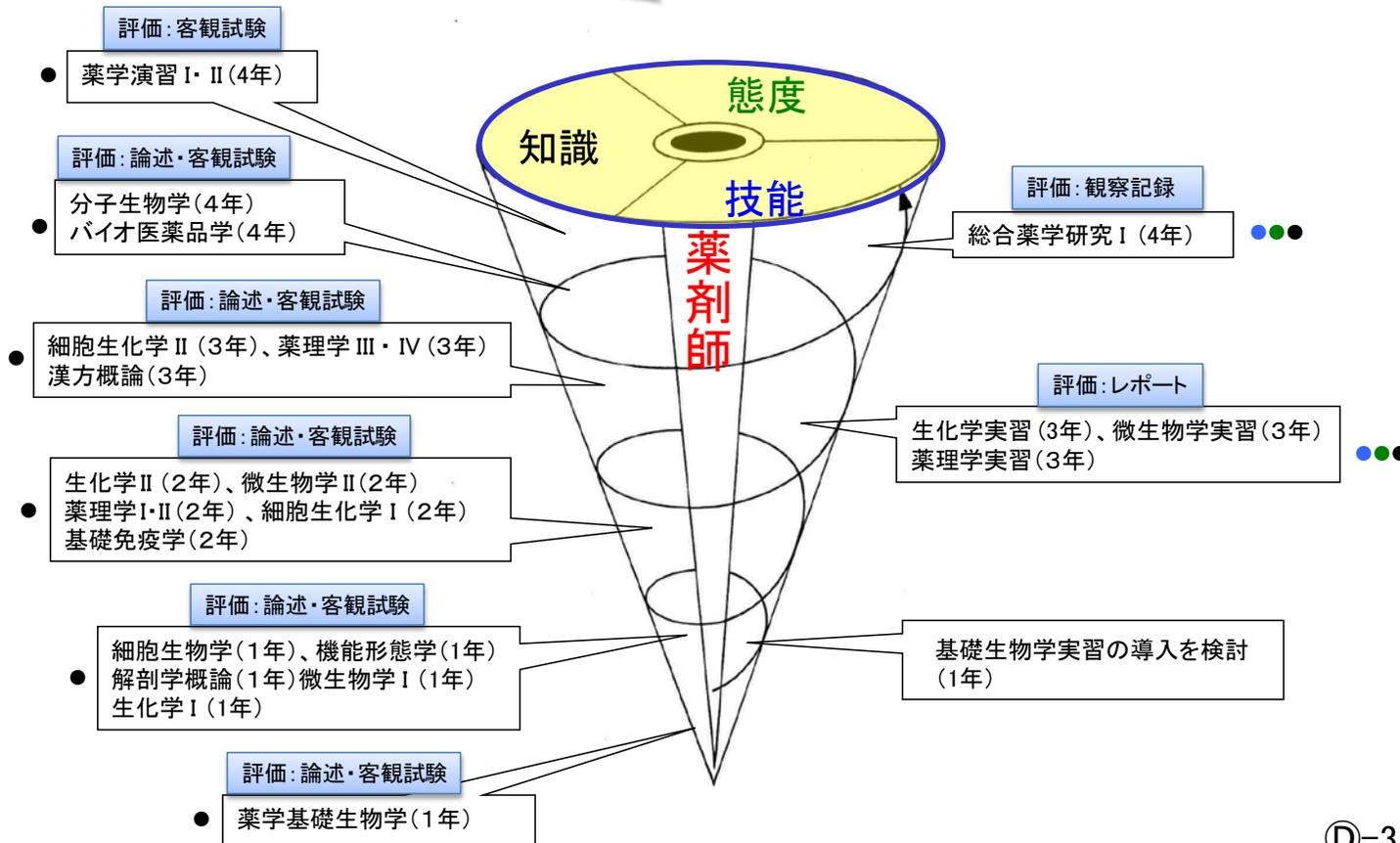
①-1

「医薬品・生体に関する基本的な知識の習得」における化学系の基本知識の習得
 有機化学・生薬学などの知識・技能を段階的に身につける



①-2

「医薬品・生体に関する基本的な知識の習得」における生物系の基本知識の習得
 生化学、薬理学など生物系薬学の知識・技能を段階的に身につける



(基礎資料5) 語学教育の要素

科目名	開講年生	要素			
		読み	書き	聞く	話す
英語Ⅰ	1	○	○	○	○
英語Ⅱ	1	○	○	○	○
英語Ⅲ	2	○	○	○	○
英語Ⅳ	2	○	○	○	○
基礎科学英語	3	○	○	○	○
薬学英語	4	○	○	○	○
実用薬学英語	5	○	○	○	○
医学英語	6	○			
卒業論文実習	5,6	○			
選択外国語(中国語)	1	○	○	○	○
選択外国語(ドイツ語)	1	○	○	○	

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

(基礎資料 6-1) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年4月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第2週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第3週	月						
	火						
	水	／16	S104講義				
	木						
	金						
第4週	月						
	火						
	水	／23	S107講義				
	木						
	金						
第5週	月						
	火						
	水	／30	S201講義				
	木						
	金						

- [注]
- 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
 - 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料 6-2) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年5月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第2週	月		祝日				
	火		祝日				
	水	/7	S205講義				
	木						
	金						
第3週	月						
	火						
	水	/14	S205講義				
	木						
	金						
第4週	月						
	火						
	水	/21	S401講義				
	木						
	金						
第5週	月	/26			S408講義		
	火	/27			S409講義		
	水	/28	S402講義				
	木						
	金	/30			S412実習		

[注] 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料 6-3) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年6月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月	/ 2			S412実習	S412実習	
	火						
	水	/ 4	S403講義				
	木						
	金						
第2週	月	/ 9			S410実習	S410実習	
	火	/ 10			S410実習		
	水	/ 11	S404講義				
	木						
	金						
第3週	月						
	火						
	水	/ 18	S405講義				
	木						
	金						
第4週	月						
	火						
	水	/ 25	S407講義				
	木						
	金						
第5週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料 6-4) 4 年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成 26 年 7 月							
(週)	(曜日)	(日)	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
第 1 週	月						
	火						
	水	／ 2	S414 講義				
	木						
	金						
第 2 週	月						
	火						
	水	／ 9	S501 講義				
	木						
	金						
第 3 週	月						
	火						
	水	／ 16	S502 講義				
	木						
	金						
第 4 週	月		祝日				
	火						
	水	／ 23	S503 講義				
	木						
	金						
第 5 週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						

- [注]
- 1 4 年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いら
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示：学祭、OSCE、予備日、祝日)
 - 3 上記 1 の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料 6-5) 4 年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成 26 年 9 月							
(週)	(曜日)	(日)	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
第 1 週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第 2 週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第 3 週	月						
	火						
	水						
	木	／ 18					
	金	／ 19					
第 4 週	月	／ 22					
	火	／ 23					
	水	／ 24					
	木	／ 25			S505 演習		
	金	／ 26					
第 5 週	月	／ 29					
	火	／ 30					
	水						
	木						
	金						

- [注]
- 1 4 年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示：学祭、OSCE、予備日、)
 - 3 上記 1 の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料 6-6) 4 年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成 26 年 10 月									
(週)	(曜日)	(日)	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限	6 時限	
第 1 週	月								
	火								
	水	/ 1			S101 講義	S102 講義	S211 演習 (SGD)		
	木	/ 2							
	金	/ 3							
第 2 週	月	/ 6			S204 講義・演習	S210 実習	S210 実習	S302 実習	
	火	/ 7			S203 講義・演習	S210 実習	S210 実習	S302 実習	
	水	/ 8			S505 演習	S505 演習			
	木	/ 9							
	金	/ 10							
第 3 週	月	/ 13	祝日						
	火	/ 14	運動会						
	水	/ 15			S601 講義	S602 講義	S603 演習 (ロールプレイ)		
	木	/ 16			S209 講義	S602 講義	S603 演習 (ロールプレイ)		
	金	/ 17							
第 4 週	月	/ 20			S301 講義	S306 実習・演習 (SGD)	S306 実習・演習 (SGD)		
	火	/ 21			S411 実習	S411 実習	S411 実習		
	水	/ 22			S413 実習	S413 実習	S413 実習		
	木	/ 23			S604 講義				
	金	/ 24							
第 5 週	月	/ 27							
	火	/ 28			S606 演習 (SGD・ロールプレイ)	S606 演習 (SGD・ロールプレイ)	S606 演習 (SGD・ロールプレイ)		
	水	/ 29			S211 演習 (SGD)	S211 演習 (SGD)	S506 演習 (SGD)	S507 演習 (SGD)	
	木	/ 30							
	金	/ 31			S302 実習	S305 講義	S305 講義		

- [注]
- 1 4 年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられて
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示：学祭、OSCE、予備日、祝日)
 - 3 上記 1 の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料 6-7) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年11月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
第1週	月	/3				祝日		
	火	/4						
	水	/5			S103演習(SGD)	S103演習(SGD)	S106演習(SGD)	S106演習(SGD)
	木	/6						
	金	/7						
第2週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第3週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第4週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							
第5週	月							
	火							
	水							
	木							
	金							

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられて
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示：学祭、OSCE、予備日、祝日)
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料 6-8) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年12月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月	/1					
	火	/2					
	水	/3					
	木	/4					
	金	/5					
第2週	月	/8			S203講義・演習	S204講義・演習	S701実習
	火	/9			S701実習	S701実習	S701実習
	水	/10			S210実習	S210実習	S701実習
	木	/11			S701実習	S701実習	S701実習
	金	/12			S210実習	S210実習	S701実習
第3週	月	/15					
	火	/16			S210実習	S210実習	S701実習
	水	/17			S411実習	S411実習	S411実習
	木	/18					
	金	/19			S506演習 (SGD)	S506演習 (SGD)	
第4週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第5週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられて
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示：学祭、OSCE、予備日、祝日)
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料 6-9) 5年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年4月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火						
	水						
	木						
第2週	月						
	火						
	水						
	木						
第3週	月	／14			S304演習(SGD)	S304演習(SGD)	S304演習(SGD)
	火	／15			S105講義	S303講義	S303講義
	水	／16			S202講義・演習	S206講義・演習	S206講義・演習
	木	／17			S306実習・演習(SGD)	S306実習・演習(SGD)	S605講義・演習
	金	／18			S406実習	S606演習(SGD・ロールプレイ)	
第4週	月	／21					
	火	／22					
	水	／23					
	木	／24					
	金	／25			S207講義・演習	S207講義・演習	S504講義
第5週	月	／28			S306実習・演習(SGD)	S306実習・演習(SGD)	S605講義・演習
	火	／29			S406実習	S606演習(SGD・ロールプレイ)	
	水	／30			S208講義・演習	S208講義・演習	S504講義
	木						
	金						

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられて
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示：学祭、OSCE、予備日、祝日)
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料 6-10) 5年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年5月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火						
	水						
	木	／1			S306実習・演習(SGD)	S306実習・演習(SGD)	S605講義・演習
	金	／2			S406実習	S606演習(SGD・ロールプレイ)	
第2週	月						祝日
	火						祝日
	水	／7			S507演習(SGD)	S507演習(SGD)	
	木						
	金						
第3週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第4週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第5週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられて
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。(例示：学祭、OSCE、予備日、祝日)
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料7) 学生受入状況について

	学科名	入試の種類		平成22年度 入試(21年度 実施)	平成23年度 入試(22年度 実施)	平成24年度 入試(23年度 実施)	平成25年度 入試(24年度 実施)	平成26年度 入試(25年度 実施)	平成27年度 入試(26年度 実施)	募集定員数に 対する入学者 数の比率(6 年間の平均)	
薬学部	薬	一般入試	受験者数	554	525	509	883	1,156	1,019	112.3%	
			合格者数	170	187	191	280	314	314		
			入学者数(A)	65	66	76	87	84	88		
			募集定員数(B)	70	70	70	70	70	65		
			A/B*100(%)	92.9%	94.3%	108.6%	124.3%	120.0%	135.4%		
		大学入試センター 入試	受験者数	154	180	176	228	283	363		47.0%
			合格者数	65	78	67	85	47	151		
			入学者数(A)	9	13	8	9	5	3		
			募集定員数(B)	15	15	15	15	15	25		
			A/B*100(%)	60.0%	86.7%	53.3%	60.0%	33.3%	12.0%		
	学	公募推薦入試	受験者数	137	113	109	130	138	182	132.5%	
			合格者数	76	65	62	66	44	47		
			入学者数(A)	57	45	48	44	40	31		
			募集定員数(B)	35	35	35	35	35	25		
			A/B*100(%)	162.9%	128.6%	137.1%	125.7%	114.3%	124.0%		
		センターマルチ 入試 ※平成27年度 入試より実施	受験者数						204		140.0%
			合格者数						91		
			入学者数(A)						7		
			募集定員数(B)						5		
			A/B*100(%)						140%		
学 科 計			受験者数	845	818	794	1,241	1,577	1,768	109.0%	
			合格者数	311	330	320	431	405	603		
			入学者数(A)	131	124	132	140	129	129		
			募集定員数(B)	120	120	120	120	120	120		
			A/B*100(%)	109.2%	103.3%	110.0%	116.7%	107.5%	107.5%		

- [注] 1 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。
- 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。
なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合を算出してください。
- 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)○年次に・・・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料8) 教員・事務職員数

①設置基準において、必要な教員数 *1	30 名
②設置基準において、必要な実務家教員数 *2	5 名

*1 大学設置基準 第2条別表第一、イ備考四

*2 大学設置基準 別表第一、イ十号

平成26年度						
(教員の部)	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考
教養教育	[3]	[4]	[2]	[2]		左記の内 兼任教員 [11] その他 非常勤教員 (2)
語学教育	[2]		[10]			左記の内 兼任教員 [12]
薬学基礎教育	[1]					左記の内 兼任教員 [1] その他 非常勤教員 (4)
専門薬学教育	15	10	3	6	1	その他 非常勤教員 (8)
実務実習教育	4 (4)	1 (1)	1 (1)			左記の内 実務家教員 (6)
小計	19	11	4	6	1	専任教員のみ集計
専任教員数	40					
(事務職員の部)	局長	部長	課長	事務員	その他の職種	備考
大学業務関連				2	1	その他の職種：技術員 (附属薬用植物園) その他 兼任職員 (65(17))
法人業務関連						その他 兼任職員 (26(5))
小計				2	1	専任職員のみ集計
事務職員数	2					

- [注] 1 主に担当する科目(業務)で算出し、重複しないように注意してください。
- 2 該当する場合は、()内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。(例示：6(2)=6名のうち2名が特任)
- 3 該当する場合は、()内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。(例示：3(1)=3名のうち1名が嘱託事務職員)
- 4 「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。
- 5 専任教務補助員(例えば、いわゆる副手、実験補助員等)、ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

(基礎資料9) 専任教員年齢構成

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教授	1	5	9(2)	4	0	0	19
	5.3%	26.3%	47.4%	21.1%			100%
准教授	0	0	2	8	1	0	11
			18.2%	72.7%	9.1%		100%
専任講師	0	0	0	1(1)	3(1)	0	4
				25.0%	75.0%		100%
助教	0	0	0	1(1)	5(1)	0	6
				16.7%	83.3%		100%
合計	1	5	11(2)	14(2)	9(2)	0	40
	2.5%	12.5%	27.5%	35.0%	22.5%		100%
定年年齢	65歳						

[注] 1 上段には人数、下段には%を記入してください。

2 ()に女性の数を記入してください。(例示: 2(1) = 2名のうち1名が女性)

3 「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就任年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	薬物動態学	教授	おたぎり 小田切	まさき 優樹	男	71	2009.4.1	2009.4.1	薬物動態学Ⅰ	0.7							0.7	
									薬学概論	0.1							0.1	
									総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			0.3	0.3	
									計	0.8	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0	1.1	0.3	
薬学科	薬化学	准教授	かんすい 寒水	ひさお 壽朗	男	51	2005.4.1	2005.4.1	有機化学Ⅱ(留年生分)	1.5						1.5		
									生物医薬化学Ⅰ	1.5						1.5		
									生物医薬化学Ⅱ		1.5						1.5	
									プロセス化学		0.8						0.8	
									薬品製造化学	0.8						0.8		
									総合薬学演習Ⅰ				0.1				0.1	
									病院実習					0.4	0.4	0.4	0.4	
									薬局実習					0.4	0.4	0.4	0.4	
									総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			0.3	0.3	
									計	3.8	2.3	0.3	0.4	0.8	0.8	4.9	3.5	
薬学科	薬化学	准教授	いもと 井本	しゅうへい 修平	男	37	2010.10.1	2013.4.1	有機化学Ⅱ		1.5						1.5	
									有機化学Ⅲ	0.8						0.8		
									病院実習					0.4	0.4	0.4	0.4	
									薬局実習					0.4	0.4	0.4	0.4	
									総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			0.3	0.3	
									計	0.8	1.5	0.3	0.3	0.8	0.8	1.9	2.6	
薬学科	医薬品化学	教授	えとう 衛藤	まさし 仁	男	49	2011.4.1	2011.4.1	農業化学	0.8						0.8		
									有機軌道論	0.8						0.8		
									基礎情報処理演習			1.5				1.5		
									医薬品合成化学		1.5					1.5		
									医薬品化学実習					3.0		3.0		
									病院実習				0.4	0.4	0.4	0.4		
									薬局実習				0.4	0.4	0.4	0.4		
									総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			0.3	0.3	
									計	1.6	1.5	1.8	0.3	3.8	0.8	7.2	2.6	
薬学科	医薬品化学	准教授	よしたけ 吉武	やすゆき 康之	男	46	2005.4.1	2007.4.1	医薬品化学(3年)	1.5						1.5		
									医薬品化学(2年)		1.5						1.5	
									UNIX入門	0.8						0.8		
									基礎情報処理演習			1.5				1.5		
									総合薬学演習Ⅰ				0.1				0.1	
									構造活性相関	0.4						0.4		
									医薬品化学実習					3.0		3.0		
									病院実習				0.4	0.4	0.4	0.4		
									薬局実習				0.4	0.4	0.4	0.4		
									総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			0.3	0.3	
計	2.7	1.5	1.8	0.4	3.8	0.8	8.3	2.7										
薬学科	医薬品化学	講師	やまぐち 山口	こうき 幸輝	男	37	2005.4.1	2013.4.1	有機化学Ⅰ	0.8						0.8		
									基礎情報処理演習			1.5				1.5		
									医薬品化学実習					3.0		3.0		
									病院実習				0.4	0.4	0.4	0.4		
									薬局実習				0.4	0.4	0.4	0.4		
									総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			0.3	0.3	
									計	0.8	0.0	1.8	0.3	3.8	0.8	6.4	1.1	
薬学科	生薬学	教授	よしみつ 吉満	ひとし 斉	男	54	2005.4.1	2011.4.1	日本薬局方概論	0.2						0.2		
									分子構造解析学		0.8						0.8	
									生薬学Ⅰ	1.5						1.5		
									病院実習					0.4	0.4	0.4	0.4	
									薬局実習					0.4	0.4	0.4	0.4	
									総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			0.3	0.3	
									計	1.7	0.8	0.3	0.3	0.8	0.8	2.8	1.9	
薬学科	生薬学	教授	いけだ 池田	つよし 剛	男	45	2011.4.1	2014.4.1	天然薬物学	1.5						1.5		
									サプリメントと薬	0.8						0.8		
									病院実習					0.4	0.4	0.4	0.4	
									薬局実習					0.4	0.4	0.4	0.4	
									総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			0.3	0.3	
									計	2.3	0.0	0.3	0.3	0.8	0.8	3.4	1.1	
薬学科	生薬学	講師	みやした 宮下	ひろゆき 裕幸	男	37	2008.10.1	2014.4.1	総合薬学演習Ⅰ				0.1			0.1		
									早期体験学習						0.1		0.1	
									病院実習					0.4	0.4	0.4	0.4	
									薬局実習					0.4	0.4	0.4	0.4	
									総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			0.3	0.3	
									計	0.0	0.0	0.3	0.4	0.8	0.9	1.1	1.3	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就任年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号								
								科目名	毎週授業時間数																
									講義		演習		実験・実習・実技		計										
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期							
薬学科	附属薬用植物園	教授	むらかみ こうたろう 村上 光太郎	男	69	2005.4.1	2005.4.1	生薬学Ⅱ	0.8										2.3	徳島大学大学院薬学研究科修士課程修了 薬学博士					
								漢方概論	0.8																
								総合薬学演習Ⅰ			0.1														
								病院実習						0.4	0.4	0.4	0.4								
								薬局実習						0.4	0.4	0.4	0.4								
								総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3				0.3	0.3								
								計	0.0	2.3	0.3	0.4	0.8	0.8	1.1	3.5									
薬学科	生化学	教授	うえだ なおこ 上田 直子	女	51	1995.4.1	2006.4.1	生化学Ⅱ	0.8								0.8		4.3	九州大学大学院薬学研究科修士課程修了 理学博士					
								薬学概論	0.1												0.1				
								分子生物学	0.8												0.8				
								ポストゲノム科学	0.8												0.8				
								生化学Ⅰ		0.8												0.8			
								生化学実習						3.0							3.0				
								病院実習						0.4	0.4	0.4	0.4								
								薬局実習						0.4	0.4	0.4	0.4								
								総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3				0.3	0.3								
								計	2.5	0.8	0.3	0.3	3.8	0.8	6.6	1.9									
薬学科	生化学	准教授	おおくり たかし 大栗 誉敏	男	42	2009.10.1	2009.10.1	薬学基礎生物学	1.5							1.5		4.6	九州大学大学院薬学研究科修士課程修了 博士(薬学)						
								生化学Ⅱ	0.8								0.8								
								基礎免疫学		0.8											0.8				
								総合薬学演習Ⅰ			0.1										0.1				
								生化学Ⅰ		0.7											0.7				
								生化学実習						3.0						3.0					
								病院実習						0.4	0.4	0.4	0.4								
								薬局実習						0.4	0.4	0.4	0.4								
								総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3				0.3	0.3								
								計	2.3	1.5	0.3	0.4	3.8	0.8	6.4	2.7									
薬学科	薬理学	教授	とくとみ なおふみ 徳富 直史	男	56	2005.4.1	2005.4.1	薬理学Ⅱ	0.8							0.8		4.3	九州大学大学院医学研究科修士課程修了 医学博士						
								薬理学Ⅰ		0.8											0.8				
								薬学概論	0.1											0.1					
								医用電気生理学	0.8											0.8					
								応用薬理学		0.8										0.8					
								薬理学実習							3.0					3.0					
								病院実習						0.4	0.4	0.4	0.4								
								薬局実習						0.4	0.4	0.4	0.4								
								総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3				0.3	0.3								
								計	1.7	1.6	0.3	0.3	0.8	3.8	2.8	5.7									
薬学科	薬理学	准教授	うちだ ゆうじ 内田 友二	男	44	2007.4.1	2010.4.1	機能形態学	1.5	1.5						1.5		4.5	熊本大学大学院医学研究科修士課程修了 博士(医学)						
								薬理学Ⅰ	0.8							0.8									
								生体情報化学									3.0			3.0					
								薬理学実習								0.4	0.4			0.4	0.4				
								病院実習							0.4	0.4	0.4			0.4					
								薬局実習							0.4	0.4	0.4			0.4					
								総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3				0.3	0.3								
								計	2.3	1.5	0.3	0.3	0.8	3.8	3.4	5.6									
薬学科	薬理学	助教	しゆとう けいこ 首藤 恵子	女	33	2008.4.1	2010.4.1	薬理学Ⅱ	0.7						0.7		3.0	熊本大学大学院薬学教育部修士後期課程修了 博士(薬学)							
								総合薬学演習Ⅰ			0.1					0.1									
								薬理学実習							3.0				3.0						
								病院実習						0.4	0.4	0.4			0.4						
								薬局実習						0.4	0.4	0.4			0.4						
								総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3				0.3			0.3						
								計	0.7	0.0	0.3	0.4	0.8	3.8	1.9	4.1									
								薬学科	微生物学	教授	よこみぞ かずみ 横溝 和美	男	50	2005.4.1	2011.4.1	微生物学Ⅰ			1.0	0.8					1.0
未病治療学	0.8																0.8								
微生物学Ⅲ	1.5																1.5								
微生物学Ⅱ(2年)																		1.5							
微生物学Ⅱ(3年)		1.5																1.5							
微生物学実習						3.0											3.0								
病院実習						0.4	0.4									0.4	0.4								
薬局実習						0.4	0.4									0.4	0.4								
総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3												0.3	0.3								
計	3.3	2.3	0.3	0.3	3.8	0.8	7.4									3.4									
薬学科	微生物学	准教授	ふあん じゆん 方 軍	男	42	2005.4.1	2010.4.1	微生物学Ⅲ	0.7						0.7		3.7	熊本大学大学院医学研究科修士課程修了 博士(医学)							
								細胞生物学	0.8										0.8						
								微生物学Ⅰ		0.7										0.7					
								微生物学実習						3.0					3.0						
								病院実習						0.4	0.4	0.4			0.4						
								薬局実習						0.4	0.4	0.4			0.4						
								総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3				0.3			0.3						
								計	1.5	0.7	0.3	0.3	3.8	0.8	5.6	1.8									

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就年 月日	現職就任 年月日	授業科目								年間平均 毎週授業時 間数	最終学歴及び学 位称号			
								科目名	毎週授業時間数											
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計					
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期		
薬学科	微生物学	助教	しゅうけんゆう 周建融	女	45	2007.4.1	2007.10.1	基礎科学英語		1.5									3.7	熊本大学大学院薬学教育部 博士後期課程 修了 博士(薬学)
								未病治療学	0.5						0.5					
								早期体験学習						0.1		0.1				
								微生物学実習					3.0			3.0				
								病院実習				0.4	0.4	0.4	0.4					
								薬局実習				0.4	0.4	0.4	0.4					
								総合薬学演習Ⅲ		0.3	0.3			0.3	0.3					
								計	0.5	1.5	0.3	0.3	3.8	0.9	4.6	2.7				
薬学科	微生物学	助教	なかむら 中村 秀明	男	32	2006.4.1	2013.4.1	微生物学実習				3.0			3.0			2.7	熊本大学大学院薬学教育部 博士前期課程 修了 博士(薬学)	
								早期体験学習						0.1		0.1				
								総合薬学演習Ⅰ				0.1				0.1				
								病院実習				0.4	0.4	0.4	0.4					
								薬局実習				0.4	0.4	0.4	0.4					
								総合薬学演習Ⅲ		0.3	0.3			0.3	0.3					
								計	0.0	0.0	0.3	0.4	3.8	0.9	4.1	1.3				
薬学科	薬剤情報解析学	教授	なかしま 中嶋 弥穂子	女	52	2010.10.1	2013.4.1	臨床薬理学Ⅰ	0.5						0.5			6.3	長崎大学大学院薬学研究科 修士課程 修了 博士(医学)	
								薬学概論	0.1						0.1					
								生命倫理学	0.2						0.2					
								総合薬学演習Ⅰ				0.1			0.1					
								コミュニケーション論		0.8					0.8					
								総合薬学演習Ⅱ				1.5			1.5					
								実務実習事前学習(4年後)						4.0	4.0					
								早期体験学習						1.5	1.5					
								病院実習				0.8	0.8	0.8	0.8					
								薬局実習				0.8	0.8	0.8	0.8					
								総合薬学演習Ⅲ		0.3	0.3			0.3	0.3					
								計	0.8	0.8	0.3	1.9	1.6	7.1	2.7	9.8				
								薬学科	分子薬効解析学	教授	くにやす 國安 あきひこ 明彦	男	49	2011.4.1	2011.4.1	薬理学Ⅱ				0.8
細胞生化学Ⅱ	1.5						1.5													
薬効解析学		0.8					0.8													
薬理学実習						3.0	3.0													
病院実習				0.4	0.4	0.4	0.4													
薬局実習				0.4	0.4	0.4	0.4													
総合薬学演習Ⅲ		0.3	0.3			0.3	0.3													
計	1.5	1.6	0.3	0.3	0.8	3.8	2.6									5.7				
薬学科	分子薬効解析学	准教授	まさせ 牧瀬 まさき 正樹	男	40	2012.4.1	2012.4.1	細胞生化学Ⅰ(2年)		1.5					1.5		4.2	岡山大学大学院自然科学研 究科博士後期課程 修了 博士(薬学)		
								細胞生化学Ⅰ(3年)		1.5					1.5					
								総合薬学演習Ⅰ				0.1			0.1					
								薬理学実習						3.0	3.0					
								病院実習				0.4	0.4	0.4	0.4					
								薬局実習				0.4	0.4	0.4	0.4					
								総合薬学演習Ⅲ		0.3	0.3			0.3	0.3					
								計	0.0	3.0	0.3	0.4	0.8	3.8	1.1	7.2				
薬学科	衛生化学	教授	たけち 武知 しんじ 進士	男	53	2005.4.1	2011.4.1	公衆衛生学	0.8						0.8		3.8	大阪大学大学院理学研究科 博士課程 修了 理学博士		
								環境衛生化学		1.5					1.5					
								総合薬学演習Ⅰ				0.1			0.1					
								衛生化学実習						3.0	3.0					
								病院実習				0.4	0.4	0.4	0.4					
								薬局実習				0.4	0.4	0.4	0.4					
								総合薬学演習Ⅲ		0.3	0.3			0.3	0.3					
								計	0.8	1.5	0.3	0.4	0.8	3.8	1.9	5.7				
薬学科	衛生化学	准教授	いしだ 石田 たくみ 卓巳	男	43	2010.4.1	2010.4.1	衛生化学Ⅱ	1.5					1.5		4.1	九州大学大学院薬学研究科 修士課程 修了 博士(薬学)			
								総合薬学演習Ⅱ				1.5			1.5					
								衛生化学実習						3.0	3.0					
								病院実習				0.4	0.4	0.4	0.4					
								薬局実習				0.4	0.4	0.4	0.4					
								総合薬学演習Ⅲ		0.3	0.3			0.3	0.3					
								計	1.5	0.0	0.3	1.8	0.8	3.8	2.6			5.6		
薬学科	環境分析学	教授	はらたけ 原武 まもる 衛	男	51	2013.4.1	2013.4.1	衛生化学実習				3.0			3.0		4.2	熊本大学大学院薬学研究科 博士後期課程 修了 薬学博士		
								薬学概論	0.1						0.1					
								衛生化学Ⅰ	1.5						1.5					
								衛生化学Ⅱ		1.5					1.5					
								病院実習				0.4	0.4	0.4	0.4					
								薬局実習				0.4	0.4	0.4	0.4					
								総合薬学演習Ⅲ		0.3	0.3			0.3	0.3					
								計	1.6	1.5	0.3	0.3	0.8	3.8	2.7	5.6				

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就年 月日	現職就任 年月日	授業科目										年間平均 毎週授業時間数	最終学歴及び学位 称号
								科目名	毎週授業時間数										
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
薬学科	物理化学	教授	みやもと しゅういち 宮本 秀一	男	58	2005.4.1	2007.4.1	物理化学Ⅱ	1.5						1.5		5.5	東京大学大学院薬学系研究科製薬化学専攻修士課程修了 薬学博士	
								構造活性相関	0.4					0.4					
								創薬概論Ⅰ	0.7					0.7					
								物理化学Ⅰ		1.5					1.5				
								物理化学Ⅲ		1.5					1.5				
								総合薬学演習Ⅰ			0.1				0.1				
								物理化学実習					3.0		3.0				
								病院実習					0.4	0.4	0.4	0.4			
								薬局実習					0.4	0.4	0.4	0.4			
								総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			0.3	0.3			
計	2.6	3.0	0.3	0.4	3.8	0.8	6.7	4.2											
薬学科	物理化学	助教	かわい あきと 河合 聡人	男	32	2006.4.1	2014.4.1	物理化学実習					3.0		3.0		2.7	熊本大学大学院薬学教育部博士前期課程修了 博士(薬学)	
								早期体験学習						0.1		0.1			
								病院実習					0.4	0.4	0.4	0.4			
								薬局実習					0.4	0.4	0.4	0.4			
								総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			0.3	0.3			
計	0.0	0.0	0.3	0.3	3.8	0.9	4.1	1.2											
薬学科	分析化学	教授	たけした けいぞう 竹下 啓蔵	男	57	2005.4.1	2005.4.1	分析化学Ⅰ	0.7	1.5					0.7	1.5	3.0	昭和大学大学院薬学研究科博士課程修了 薬学博士	
								分析化学Ⅱ		0.5						0.5			
								機器分析学											
								日本薬局方概論	0.2						0.2				
								放射薬品学		0.8						0.8			
								病院実習					0.4	0.4	0.4	0.4			
								薬局実習					0.4	0.4	0.4	0.4			
								総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			0.3	0.3			
								計	0.9	2.8	0.3	0.3	0.8	0.8	2.0	3.9			
薬学科	分析化学	講師	おかざき しょうこ 岡崎 祥子	女	36	2006.4.1	2014.4.1	分析化学Ⅱ	0.8					0.8		2.1	東北大学大学院薬学研究科博士後期課程後期3年の課程修了 博士(薬学)		
								早期体験学習						0.1				0.1	
								総合薬学演習Ⅰ			0.1				0.1				
								機器分析学		1.0					1.0				
								病院実習				0.4	0.4	0.4	0.4				
								薬局実習				0.4	0.4	0.4	0.4				
								総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			0.3			0.3	
計	0.8	1.0	0.3	0.4	0.8	0.9	1.9	2.3											
薬学科	製剤学	教授	ひらやま ふみとし 平山 文俊	男	64	2006.4.1	2006.4.1	製剤学Ⅰ	1.5					1.5		4.2	九州大学大学院薬学研究科修士課程修了 薬学博士		
								製剤学Ⅱ		1.5					1.5				
								総合薬学演習Ⅰ			0.1				0.1				
								製剤学実習				3.0		3.0					
								病院実習				0.4	0.4	0.4	0.4				
								薬局実習				0.4	0.4	0.4	0.4				
								総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			0.3			0.3	
計	1.5	1.5	0.3	0.4	3.8	0.8	5.6	2.7											
薬学科	製剤学	准教授	あんらく まこと 安楽 誠	男	40	2011.4.1	2011.4.1	薬物送達学	0.2	1.5					1.5	3.5	熊本大学大学院薬学研究科博士後期課程修了 博士(薬学)		
								日本薬局方概論						0.2					
								製剤学実習				3.0		3.0					
								早期体験学習					0.1		0.1				
								病院実習				0.4	0.4	0.4	0.4				
								薬局実習				0.4	0.4	0.4	0.4				
								総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			0.3			0.3	
計	0.2	1.5	0.3	0.3	3.8	0.9	4.3	2.7											
薬学科	製剤学	助教	いおはら だいすけ 庵原 大輔	男	32	2007.4.1	2013.4.1	製剤学実習				3.0		3.0		2.7	熊本大学大学院薬学教育部博士前期課程修了 博士(薬学)		
								早期体験学習					0.1		0.1				
								病院実習				0.4	0.4	0.4	0.4				
								薬局実習				0.4	0.4	0.4	0.4				
								総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			0.3			0.3	
計	0.0	0.0	0.3	0.3	3.8	0.9	4.1	1.2											
薬学科	医療薬剤学	教授	せお はかる 瀬尾 量	男	62	2006.4.1	2006.4.1	薬剤師業務概論	0.8					0.8		8.6	熊本大学大学院薬学研究科修士課程修了 薬学博士		
								医薬倫理学	0.4					0.4					
								医薬品安全性学Ⅰ	0.7					0.7					
								医療経済論		0.8					0.8				
								医薬品安全性学Ⅱ		0.8					0.8				
								薬剤学実習				3.0		3.0					
								実務実習事前学習(4年後)					4.0		4.0				
								病院実習				0.8	0.8	0.8	0.8				
								薬局実習				0.8	0.8	0.8	0.8				
								早期体験学習					0.2		0.2				
								総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			3.0			0.3	
								計	1.9	1.6	0.3	0.3	4.6	5.8	9.5			7.7	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就年 就月 就日	現職就任 年 月 日	授業科目								年間平均 毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	医療薬剤学	教授	やまさき けいし 山崎 啓之	男	46	2006.4.1	2014.4.1	薬物投与設計学	1.5						1.5			
								日本薬局方概論	0.2					0.2				
								薬物動態学Ⅰ	0.8					0.8				
								薬物動態学Ⅱ		1.5					1.5			
								薬物投与設計学		0.8					0.8			
								総合薬学演習Ⅰ			0.1				0.1			
								薬剤学実習					3.0		3.0			
								実務実習事前学習(4年後)						4.0	4.0			
								病院実習				0.8	0.8	0.8	0.8			
								薬局実習				0.8	0.8	0.8	0.8			
								早期体験学習					0.2		0.2			
								総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			0.3	0.3		
								計	2.5	2.3	0.3	0.4	4.6	5.8	7.4	8.5		
薬学科	医療薬剤学	助教	たぐち かずあき 田口 和明	男	30	2013.4.1	2013.4.1	薬剤学実習				3.0		3.0				
								実務実習事前学習(4年後)					4.0	4.0				
								病院実習				0.8	0.8	0.8	0.8			
								薬局実習				0.8	0.8	0.8	0.8			
								早期体験学習					0.2		0.2			
								総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			0.3	0.3		
								計	0.0	0.0	0.3	0.3	4.6	5.8	4.9	6.1		
薬学科	臨床薬学	教授	つるた さとし 霧田 聡	男	61	2005.4.1	2005.4.1	創薬概論Ⅰ	0.1					0.1				
								薬学概論	0.1					0.1				
								実務実習事前学習(4年前)				1.5		1.5				
								実務実習事前学習(4年後)					4.0	4.0				
								実務実習事前学習(5年前)				1.5		1.5				
								毒劇物取扱概論	0.8					0.8				
								病院薬学		1.5					1.5			
								早期体験学習					0.2		0.2			
								病院実習				1.5	1.5	1.5	1.5			
								薬局実習				1.5	1.5	1.5	1.5			
								総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			0.3	0.3		
計	1.0	1.5	0.3	0.3	6.0	7.2	7.3	9.0										
薬学科	臨床薬学	准教授	もりうち ひろし 森内 宏志	男	52	2005.4.1	2005.4.1	医薬品安全性学Ⅰ	0.8					0.8				
								臨床薬理学Ⅱ		0.8					0.8			
								実用薬学英語	1.5					1.5				
								薬学英語		1.5					1.5			
								医療統計処理学	0.8					0.8				
								薬物治療学		0.8					0.8			
								実務実習事前学習(4年後)					4.0	4.0				
								実務実習事前学習(5年前)				1.5		1.5				
								早期体験学習					0.2		0.2			
								病院実習				0.8	0.8	0.8	0.8			
								薬局実習				0.8	0.8	0.8	0.8			
								総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			0.3	0.3		
								計	3.1	3.1	0.3	0.3	3.1	5.8	6.5	9.2		
薬学科	臨床薬学	講師	いしぐろ たかこ 石黒 貴子	女	41	2006.4.1	2006.4.1	コミュニケーション論		0.8				0.8				
								薬剤学実習				3.0		3.0				
								実務実習事前学習(4年後)					4.0	4.0				
								実務実習事前学習(5年前)				1.5		1.5				
								早期体験学習					1.5	1.5				
								病院実習				0.8	0.8	0.8	0.8			
								薬局実習				0.8	0.8	0.8	0.8			
								総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			0.3	0.3		
								計	0.0	0.8	0.3	0.3	6.1	7.1	6.4	8.2		
								薬学科	薬物治療学	教授	まつくら まこと 松倉 誠	男	63	2005.10.1	2005.10.1	臨床病態学		1.5
臨床検査化学Ⅰ	0.8					0.8												
生命倫理学	0.6					0.6												
医薬倫理学	0.5					0.5												
臨床薬理学Ⅰ	0.8					0.8												
総合薬学演習Ⅰ			0.1				0.1											
臨床栄養学		0.8					0.8											
実務実習事前学習(4年後)					4.0	4.0												
早期体験実習					0.2		0.2											
病院実習				0.8	0.8	0.8	0.8											
薬局実習				0.8	0.8	0.8	0.8											
総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3			0.3									0.3		
計	2.7	2.3	0.3	0.4	1.6	5.8	4.6									8.5		

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就任年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	薬物治療学	准教授	ふじい いさお 藤井 績	男	49	2005. 4. 1	2005. 4. 1	薬物治療学	1.5							1.5		
								解剖学概論	1.5							1.5		
								臨床検査化学Ⅱ	0.8							0.8		
								臨床検査化学Ⅲ		0.8							0.8	
								救急救命医学	1.5							1.5		
								実務実習事前学習(4年後)							4.0		4.0	
								早期体験学習							0.2		0.2	
								病院実習						0.8	0.8	0.8	0.8	
								薬局実習						0.8	0.8	0.8	0.8	
								総合薬学演習Ⅲ			0.3	0.3				0.3	0.3	
								計	5.3	0.8	0.3	0.3	1.6	5.8	7.2	6.9	7.1	

- [注] 1 「所属学科」には、()に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時間数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。(例：実習科目「□□□□」は担当教員2名で前後期各6.0時間の場合、6.0時間を2で除す。) また、担当時間数が明らかな場合はそれを考慮して時間数を算出してください。(例：前期の講義科目「○○○○」で○○教員が担当時間3.0時間、◇◇教員が担当時間1.5時間と明らかな場合)
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。
- 7 卒業研究は授業科目から除外して作成してください。

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況 (平成26年度)

5年生の在籍学生数 143名

6年生の在籍学生数 100名(7月1日時点)

	配属講座名	指導教員数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計
1	薬物動態学	1	4	2	6
2	薬化学	2	9	6	15
3	医薬品化学	3	9	7	16
4	生薬学	3	9	7	16
5	薬用植物園	1	4	3	7
6	生化学	3	10	6	16
7	薬理学	3	9	6	15
8	微生物学	4	9	8	17
9	分子薬効解析学	2	9	6	15
10	衛生化学	2	9	6	15
11	物理化学	2	9	6	15
12	分析化学	2	9	7	16
13	製剤学	3	9	7	16
14	医療薬剤学	3	9	6	15
15	臨床薬学	3	9	7	16
16	薬物治療学	2	9	7	16
17	薬剤情報解析学	1	4	3	7
18	環境分析学	1	4	0	4
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
	合計	41	143	100	243

[注] 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。

(基礎資料12) 講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室数	総面積(m ²) (A)	専用・共用の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生 1人当たり面積 (m ²) (A/B)	備考	
薬学部	講義室	大	6	954	専用	897	795	1.13	
		中	1	90	専用	77	-	1.17	
	DDS大会議室	1	288	専用	270	159	1.70		
	ANNEX講義室 (共通講義棟1F)	1	168	専用	156	140	1.11	玄関、映写室、トイレを含む総面積は201m ² 。	
	ANNEX自習室 (共通講義棟2F)	1	70	専用	63	-	1.11		
	自習室 (購買店2F)	1	163	専用	125	-	1.30		
	実習室	4	776	専用	288	140	5.54	準備室A、準備室B、天秤実習室、および分析実習室を含む。	
	ゼミ室	16	626	専用	256	243	2.58		
	実験室	16	1,454 (1,397)	専用	267	243	5.98 (5.75)	217室の2/3を1室として、また、443室(機器分析室(2))と444室を合わせて1室として各値を算出。括弧内は217室を2/3室とした場合の値を示す。	
	共通実験室	3	257 (200)	専用				217室の1/3を一室として算出。括弧内は217室を1/3室とした場合の値を示す。	
	コンピュータ演習室	1	255	専用	150	140	1.82		
	薬局実習室	1	315	専用	60	40	7.88	保険薬局実習室、模擬病室、病院薬局実習室、TDM室、無菌製剤室、および服薬指導室を含む。学生を5~6班にわけて指導。	
	ロッカー室	2	180	専用	-	795	0.23	男子ロッカー室、女子ロッカー室を含む。	
	図書室	1	180	専用	60	60	3.00	薬学部図書室について回答。	
	RI 実験室	1	128	専用					
	低温室	1	43	専用				前室および暗室を含む。	
	NMR 室	1	39	専用					
	培養実験室	1	39	専用					
	機器分析室	1	39	専用				機器分析室(1)について回答。	
	生物科学研究棟	1	220	専用					
薬用植物園	1	7,308	専用				温室を含む。		

- [注]
- 6年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。
 - 全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。
 - 共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名(学生数)を記載し、「利用学生総数(B)」欄にもその数を含めて記入してください。
 - 「利用学生1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記入してください。
 - 例示のように適宜行を追加して作成してください。

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

図書室(館)の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容 定員数(B)	収容定員に対す る 座席数の割合 (%) $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状 況	備 考
中央図書館	374	2,712	13.8			検索用PC等14台	工学部1040名、芸術学部280名、情報学部520名、生物生命学部640名、工学研究科199名、芸術研究科33名
薬学部図書室	60	740	8.0			PC33台	薬学部720名、薬学研究科20名
計	433	3,452	12.5				

- [注] 1 「学生収容定員(B)」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。
- 2 「備考」欄には学生収容定員(B)の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。
- 3 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理末端をいくつ設置しているか等を記載してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数 (数)		定期刊行物の種類 (種類)		視聴覚資料の 所蔵数 (点数)	電子ジャー ナルの種類 (種類)	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の冊数	開架図書の 冊数(内)	内国書	外国書			平成25年度	平成24年度	平成23年度	
中央図書館	204924	83930	76	3	3651	4597	4268	5445	4643	電子ジャーナルについては、中央図書館で集中管理。
薬学図書室	5180	4211	9	1	170		111	303	393	
計	210104	88141	85	4	3821	4597	4379	5748	5036	

- [注] 1 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。
- 2 開架図書の冊数(内)は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。
- 3 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、
- 4 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。
- 5 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 薬物動態学	職名 教授	氏名 小田切 優樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・崇城大学薬学部における学部生への「薬物動態学」の講義指導 (分担) ・崇城大学薬学部における学部生への「薬物投与設計学」の講義指導 (分担) ・崇城大学薬学部における学部生への「薬物送達学」の講義指導 (分担) ・崇城大学薬学部における卒業研究指導 ・熊本大学大学院薬学教育部における大学院生への「薬物動態制御学演習」の実習指導 ・熊本大学大学院薬学教育部における大学院生への「薬物動態制御学特別実験Ⅰ」 ・崇城大学大学院薬学研究科における大学院生への「薬物動態制御学特論」の講義指導 (分担) ・崇城大学大学院薬学研究科における大学院生への「薬物動態制御学演習」の実習指導 (分担) ・崇城大学大学院薬学研究科における大学院生への研究指導 	<p>平成21年4月～</p> <p>平成22年9月～ 平成22年11月</p> <p>平成21年9月～ 平成22年11月</p> <p>平成24年4月～</p> <p>平成15年4月～ 平成21年3月</p> <p>平成15年4月～ 平成22年3月</p> <p>平成24年4月～</p> <p>平成24年4月～</p> <p>平成24年4月～</p>	<p>教科書・オリジナルプリントによる講義と演習を並列して行い、薬物動態学の基礎を教授した。また、講義終了後に小テストを行い、理解度を確認した。</p> <p>オリジナルプリントを適宜使用し、また演習テストなどを並列して行い、薬物治療の個別化に関する基本的知識と技能を確認した。</p> <p>本講義ではDDSについてその概念、方法論および実用例について解説した。オリジナルプリントを適宜使用し、また小テストなどの演習を並列して行い、薬物送達学の基礎知識を確認した。</p> <p>研究を通じて、情報収集、その解析ならびに提供の方法・手段について学び、将来、薬剤師として服薬指導などに役立つ能力を確認した。</p> <p>所属研究室担当の「薬物動態制御学演習」を分担した。薬物動態学やDDSに関する最近の論文を取り上げ、討論して研究の取り組みと姿勢を学ばせた。</p> <p>所属研究室担当の「薬物動態制御学特別実験Ⅰ」を研究指導した。得られた研究成果については、学会で発表し、また論文化することを義務付け、研究者として自立できるように教授した。</p> <p>薬物動態学的な視点から、医薬品の開発や医薬品の適正使用についてテーマを与え、討議しながら薬物動態学の基礎力および応用力について確認した。また、課題テーマについてレポートを提出させ、論文作成能力を確認した。</p> <p>所属研究室担当の「薬物動態制御学演習」を分担した。薬物動態学やDDSに関する最近の論文を取り上げ、討論して研究の取り組みと姿勢を学ばせ、また、課題テーマについてレポートを提出させ、論文作成能力を確認した。</p> <p>得られた研究成果について、国内の学会で発表し、徹底的に討議し、将来研究者として自立できるよう、あるいは指導薬剤師として活躍できるように考え、行動できる力を身につかせた。</p>	

2 作成した教科書、教材、参考書 ・熊本大学薬学部「生物系薬学実習Ⅴ（薬剤学実習）」実習書	平成12年10月～平成21年10月	熊本大学薬学部3年生を対象とする「生物系薬学実習Ⅴ（薬剤学実習）」は、薬物体内動態の吸収、分布、代謝、排泄に関する基礎から応用の構成になっている。実習書の立案と取りまとめを行った。本書は、毎年若干の改定を加えた。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・薬科学教育における薬剤学教育の取り組み	平成21年5月	薬剤学は医薬品の開発から医薬品の適正使用に至るまで、幅広い薬学特有の学問であること、またその専門性から見て学際的・複合的緊密化が必要不可欠な分野であることから、この分野の拡充（再生医学とのコラボレーション）や臨床医学とのコラボレーションの緊密化が必要不可欠であることについて講演した。
・薬学部における教育と研究・制度改革の間で	平成21年12月	薬学新制度での現状を解析して、いかに今後効率的な教育カリキュラムを構築していくかを講演し討議した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
1. 教育FD活動： ・薬学教育者ワークショップ参加	平成22年2月	教育活動として、「新薬学教育制度での大学院博士課程のあり方を検討する」に関する薬学教育者ワークショップに参加した。ワークショップにおける討論を通して新大学院（6年制学部生に対する大学院）での教育カリキュラム等について学んだ。
2. 教育：生涯教育 ・一般対象の生涯研修の講師	平成21年2月	厚労科研（人工血液開発研究推進事業）ヒューマンサイエンス振興財団主催「人工血液をつくる(9)」公開セミナーにおいて「人工血液（HbV）の体内動態」について我々の知見を発表するとともに、その有効性と安全性について平易に解説した。

II 研究活動

1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Structural insights into differences in drug-binding selectivity between two forms of human alpha1-acid glycoprotein genetic variants, the A and F1*S forms.	共著	2011年4月	J Biol Chem.
(論文) S-Nitrosated human serum albumin dimer is not only a novel anti-tumor drug but also a potentiator for anti-tumor drugs with augmented EPR effects.	共著	2012年2月	Bioconjug Chem.
(論文) Albumin domain II mutant with high bilirubin binding affinity has a great potential as serum bilirubin excretion enhancer for hyperbilirubinemia treatment.	共著	2013年4月	Biochim Biophys Acta.
(論文) Carbon monoxide-bound hemoglobin-vesicles for the treatment of bleomycin-induced pulmonary fibrosis.	共著	2014年8月	Biomaterials.
(著書) HUMAN SERUM ALBUMIN	共著・編集	2013年8月	Sojo University Publishing Center
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 新規EPR増強剤の一酸化窒素付加アルブミンダイマーはDoxil®の抗腫瘍効果を向上する		2014/5/20-22	日本薬剤学会第29年会

(演題名) Pharmacokinetics of serum albumin variants	2014/7/12	Innovation workshop on Albumin: The next generation protein therapeutics 2014 (Chicago, USA)
(演題名) PEG化や2量体化により増強するS-ニトロソ化ヒト血清アルブミンの抗腫瘍活性	2014/7/30-31	第30回日本DDS学会学術集会
(演題名) Therapeutic Applications of Albumin-Thioredoxin Fusion Protein	2014/9/7-10	10th European Symposium on Biochemical Engineering Sciences and 6th International Forum on Industrial Bioprocesses in collaboration with ACS Lille, France
(演題名) ヘモグロビン小胞体の体内動態解析に基づく安全性・有用性評価とDDSへの応用	2014/10/17-19	第52回日本人口臓器学会大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
1996年～現在	日本薬剤学会評議員	
1996年～現在	日本薬物動態学会評議員	
2000年～現在	モレキュラー・キラリティー機構 常任幹事	
2002年～現在	日本薬学会構造活性部会常任幹事	
2002年～現在	日本DDS学会評議員	
2003年4月～2008年3月	日本学術振興会審査委員	
2003年4月～2010年3月	財団法人化学及血清療法研究所評議員	
2004年4月～2009年3月	熊本県薬事審議会委員長	
2006年～現在	日本血液代替物学会評議員・理事	
2006年～現在	科学技術振興機構審査委員	
2009年～現在	アジア薬科会議理事	
Ⅳ 薬剤師としての実務経験		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 薬化学	職名 准教授	氏名 寒水 壽朗
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 生物医薬化学Ⅰ (必須2単位) 生物医薬化学Ⅱ (選択2単位)	2014年前期 2014年後期	担当科目において、教科HPの開設。ならびに講義終了後、簡単な復習問題を掲載して自学を促す。 次の講義において、前回の復習テストを行い自学の継続を促す。 (授業評価 3~4 (5点満点))	
2 作成した教科書、教材、参考書 生物医薬化学Ⅰ (必須2単位) 生物医薬化学Ⅱ (選択2単位)	2014年前期 2014年後期	講義資料、ならびに復習用小テストを常時、HPまたはWEB-CLASSに掲載。必要に応じて、ダウンロードを促す。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Highly-efficient Conversion of Primary Amides to Nitriles using Indium(III) Triflate as the Catalyst	共著	2014年3月	International Journal of Organic Chemistry(Vol.4, March 2014)
The effect of indium(III) triflate in oxone mediated oxidative methyl esterification of aldehydes	共著	2013年5月	Chemical & pharmaceutical bulletin (2013), 61(8), 870-2
Generation of radical species from dihydropyrazines having DNA strand-breakage activity and other characteristics	共著	2012年5月	Chemical & Pharmaceutical Bulletin (2012), 60(5), 639-646
A convergent synthesis of the imidazopyridine scaffold of fluorescent alkaloid ageladine	共著	2011年8月	Tetrahedron Letters (2011), 52(24), 3131-2
Effect of cholesterol on distribution of stable, hydrophobic perchlorotri-phenylmethyl triethylester radical incorporated in lecithin liposomal membranes	共著	2011年5月	Chemical & Pharmaceutical Bulletin (2011), 59(5), 624-8
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
インジウム試薬を用いたマイルドな化学変換反応の開発		2013年11月	反応と合成の進歩シンポジウム
3価インジウムを用いた1級アミドの化学変換反応		2013年3月	第133回 薬学会年会
III 学会および社会における主な活動			
	なし		
IV 薬剤師としての実務経験			
	なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 6 「IV 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 薬化学	職名 准教授	氏名 井本 修平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
有機化学Ⅱの講義		平成25年9月～	毎回、授業の出席カードの裏面に質問や意見を書かせ、次回の講義冒頭にて回答を行っている。
有機化学Ⅲの講義		平成26年4月～	毎回、授業の出席カードの裏面に質問や意見を書かせ、次回の講義冒頭にて回答を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Alteration of Cross-linking Selectivity with the 2'-OMe Analogue of 2-Amino-6-Vinylpurine and Evaluation of Antisense effects	共著	平成22年10月	Bioorg. Med. Chem. Lett., Volume 20, Issue 20, p.6121-6124
(論文) Induced Cross-linking Reactions to Target Genes Using Modified Oligonucleotides	共著	平成23年3月	Organic & Biomolecular Chemistry, 9, 2579-2585
(論文) Fast DNA Interstrand Cross-linking Reaction by 6-Vinylpurine	共著	平成24年8月	Nucleosides, Nucleotides and Nucleic Acids, Vol. 31, Issue 10, p.752-762
(論文) Human DNA Polymerase β , but Not λ , Can Bypass a 2-Deoxyribonolactone Lesion Together with Proliferating Cell Nuclear Antigen	共著	平成25年2月	ACS Chem. Biol., vol 8, No 2, p.336-344
(論文) The Crosslink Formation of 2'-OMe Oligonucleotide Containing 2-Amino-6-vinylpurine Protects mRNA from miRNA-Mediated Silencing	共著	平成25年7月	Chembiochem, vol. 14, p. 1427-1429.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
エンテカビルとアデホビルのハイブリッド型化合物：メチレンアシクロヌクレオシド誘導体の合成と抗HBV活性 井本 修平, 向後 悟, 徳田 亮, 熊本 浩樹, 青木 学, 天野 将之, 鎌田 伸好, 満屋 裕明, 原口 一広		2015年3月	日本薬学会第135年会
III 学会および社会における主な活動			
平成13年4月～	日本薬学会会員		
平成14年9月～	日本化学会会員		
平成16年9月～	有機合成化学協会会員		
平成22年4月～	日本ケミカルバイオロジー学会会員		
IV 薬剤師としての実務経験			

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 医薬品化学	職名 教授	氏名 衛藤 仁
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 東海大学農学部初年次学生を対象とした学習支援活動	平成20年4月 ～平成22年3月	<p>多数の学生と複数の教員が共有できる学びの空間形成を通して、教員や学生間の気軽なコミュニケーションをはかりながら自学自習が進められる「学びのための居場所」づくりに取り組んだ。</p> <p>1. 農学部初年次学生を対象とした学習支援環境の構築 -コミュニケーションに注目した学びのための居場所「あっそ～」の試み- 井上久美子, 衛藤 仁, 奈良知恵, 東海大学紀要 農学部, 28, 23-33, 2009</p> <p>2. 理系の基礎学力向上を柱とした学習支援活動～農学部初年次学生を対象とした学習支援ルーム「あっそ～?!」の取り組み～ 衛藤 仁, 東海大学九州キャンパス教育活動支援プロジェクト成果報告会, 2009年5月16日</p> <p>3. 理系の基礎学力向上を柱とした学習支援活動～農学部初年次学生を対象とした学習支援ルーム「あっそ～?!」の取り組み～ 衛藤 仁, 東海大学九州キャンパス副学長推進プロジェクト成果報告会, 2010年5月29日</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書 東海大学農学部「化学実験」実習書 「医薬品化学」実習書	平成22年4月 平成24年4月 ～現在	<p>東海大学農学部1年生を対象とした「化学実験」実習書を作成した。本書は理論編・実験編・レポート編の三部構成からなり、初年次生がスムーズに実験レポート作成法を修得できるよう工夫した。</p> <p>4年生を対象とした化学系薬学実習・医薬品化学の実習書を作成した（毎年更新）。</p>	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） 東海大学農学部における授業改善のための公開授業および意見交換会の実施	平成21年4月 ～平成22年3月	<p>東海大学農学部FD委員会委員として、阿蘇教養教育センター所属教員による授業公開および意見交換会の実施計画書を立案し、コーディネーターとして会を主導した。</p>	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称

(論文) Conformation of Aromatic Rings in Isolable Atropisomers of 1-Arylindoline Derivatives and Kinetic Evidences for π - π Interaction	共著	平成22年 1月	Tetrahedron, 66, 898-903 (2010)
(論文) Role of Edge-to-face Interaction between Aromatic Rings in Clathrate Formation of 1-Benzoyl-2-hydroxyindoline Derivatives with Benzene. X-ray Crystal and PM6 Analyses of the Interaction Role of Edge-to-face Interaction between Aromatic Rings in Clathrate Formation of 1-Benzoyl-2-hydroxyindoline Derivatives with Benzene. X-ray Crystal and PM6 Analyses of the Interaction	共著	平成23年 9月	Tetrahedron, 67, 7400-7405 (2011)
(論文) Clathrate formation of Diels-Alder adduct of phencyclone and acenaphthylene. Key role of CH/ π and bidentate CH/O interactions of the phenanthrene ring in construction of host framework	共著	平成24年 5月	Tetrahedron, 68, 3566-3576 (2012)
(論文) Thermal reaction of electron deficient 4-oxo-4H-pyrazole 1,2-dioxide with cycloheptatriene: the first examples of the formation of an endo-[$4\pi+6\pi$]-cycloadduct and an intramolecular 1,3-dipolar reaction leading to a heterocage	共著	平成25年 1月	J. Phys. Org. Chem., 26, 64-69 (2013)
(論文) Isolable atropisomers of 2-aryl indoline derivatives: determination of rotational barrier by density functional theory approach	共著	平成26年 1月	Tetrahedron, 67, 1811-1817 (2014)
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
昭和62年12月～平成27年 3月	日本薬学会・正会員		
平成15年 5月～平成27年 3月	日本生化学会・正会員		
Ⅳ 薬剤師としての実務経験			
平成13年2月～平成14年3月	医療法人富尾会 桜が丘病院 薬局勤務		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 医薬品化学講座	職名 准教授	氏名 吉武 康之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
崇城大学薬学部における学部生への「UNIX入門」の講義		平成22年4月～	薬学部6年生を対象に、Linux上でのスクリプト言語を用いた医薬品情報の加工やテキスト処理の手法を演習形式で指導した。
2 作成した教科書、教材、参考書			
崇城大学薬学部「基礎情報処理演習I」演習テキスト作成		平成18年9月～ 平成23年9月	本書は、学内ウェブサイト上に公開し、ワープロ、エディタ、html作成ツール、化学構造式作図などの情報リテラシー教育に必要なアプリケーションソフトウェアの薬学的利用例を解説
崇城大学薬学部「基礎情報処理演習II」演習テキスト作成		平成18年6月～ 平成23年6月	本書は、学内ウェブサイト上に公開し、BASICプログラミングを通じて、数式入力、データの取扱、グラフ作成など薬学教育に必要な数値処理処理手法を解説した。
崇城大学薬学部「医薬品化学」講義テキスト作成		平成18年9月～ 平成25年8月	本書はターゲット分子の合成、ヘテロ環化合物の性質と合成の項目から成っており、印刷物とは別に学内ウェブサイト上に電子ファイルとして配布した。
崇城大学薬学部「化学系薬学実習（医薬品化学実習）」実習書作成		平成19年4月～ 平成23年5月	本書は、炭素-炭素結合形成反応等の医薬品合成に不可欠な反応手順と、危険な医薬品の取扱いや廃液の処理法について記載した。
崇城大学薬学部「医薬品合成化学」の講義テキスト作成		平成22年9月～ 平成23年3月	本書はペリ環状反応、立体選択的合成、逆合成、全合成の項目から成っており、印刷物とは別に学内ウェブサイト上に電子ファイルとして配布した。
崇城大学薬学部「UNIX入門」の講義テキスト作成		平成23年4月～	本書にはUNIXコマンドやテキスト加工に必要なスクリプトの解説、及び医薬品情報データの検索・抽出・加工の例を記した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
薬学共用試験（CBT）検討委員		平成18年4月～	CBT問題作成、CBTシステム構成及び実施手順書等の準備、作成を行った。
国家試験問題検討委員会及び基礎薬学会参加		平成19年6月～ 平成23年6月	薬剤師国家試験問題検討委員として、国家試験問題の検討を行い、部会にて発表した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称

(論文) Thermal Reaction of Electron Deficient 4-Oxo-4H-pyrazole 1,2-Dioxide with Cycloheptatriene: The First Examples of the Formation of an Endo-[4 π +6 π]-cycloadduct and an Intramolecular 1,3-Dipolar Reaction Leading to a Heterocage.	共著	2013年1月	Physical Organic Chemistry, 2013, 26, 64-69.
(論文) Clathrate formation of DielsAlder adduct of phencyclone and acenaphthylene. Key role of CH/ π and bidentate CH/O interactions of the phenanthrene ring in construction of host framework.	共著	2012年3月	Tetrahedron, 2012, 68, 3566-3576.
(論文) DABCO-Triggered mild cascade reaction of electron-deficient cyclopentadienone: facile and efficient synthesis of condensed carbocycles.	共著	2011年9月	Tetrahedron Lett., 2011, 52(46), 6082-6085.
(論文) Role of edge-to-face interaction between aromatic rings in clathrate formation of 1-benzoyl-2-hydroxyindoline derivatives with benzene. X-ray crystal and PM6 analyses of the interaction.	共著	2011年7月	Tetrahedron., 2011, 67 (38), 7400-7405.
(論文) Formation Mechanism of Furfuryl Sulfides from O-Furfuryl Dithiocarbonates: Density Functional Theory Study for Aromatic [3,3]-Sigmatropic Rearrangement.	共著	2011年6月	Chem. Pharm. Bull., 2011, 59 (6), 681-685.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
なし			
Ⅳ 薬剤師としての実務経験			
平成7年7月～平成7年9月	福岡市立こども病院感染症センター		
平成7年10月～平成8年3月	社団法人福岡市薬剤師会営業局		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名	医薬品化学	職名 講師 氏名 山口 幸輝
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) なし			
2 作成した教科書、教材、参考書			
医薬品化学実習書		平成24年4月 ~5月	薬学部4年を対象とし、医薬品化学実習(必修)を行った。
医薬品化学実習書		平成25年4月 ~5月	薬学部4年を対象とし、医薬品化学実習(必修)を行った。
医薬品化学実習書		平成26年4月 ~5月	薬学部4年を対象とし、医薬品化学実習(必修)を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Role of edge-to-face interaction between aromatic rings in clathrate formation of 1-benzoyl-2-hydroxyindoline derivatives with benzene. X-ray crystal and PM6 analyses of the interaction	共著	平成22年9月	<i>Tetrahedron.</i> , 2011 , 67 (38), 7400-7405.
DABCO-Triggered mild cascade reaction of electron-deficient cyclopentadienone: facile and efficient synthesis of condensed carbocycles	共著	平成23年11月	<i>Tetrahedron Lett.</i> , 2011 , 52(46), 6082-6085.
Clathrate formation of DielsAlder adduct of phencyclone and acenaphthylene. Key role of CH/p and bidentate CH/O interactions of the phenanthrene ring in construction of host framework	共著	平成24年5月	<i>Tetrahedron</i> 2012 , 68, 3566-3576.
Thermal Reaction of Electron Deficient 4-Oxo-4H-pyrazole 1,2-Dioxide with Cycloheptatriene: The First Examples of the Formation of an Endo-[4 π +6 π]-cycloadduct and an Intramolecular 1,3-Dipolar Reaction Leading to a Heterocage	共著	平成25年1月	<i>J. Phys. Org. Chem.</i> 2013 , 26, 64-69.
Formation Mechanism of Triketo Cage Compounds from Reaction of Phencyclone with Benzoquinones: Cascade Reaction of Intermolecular [4+2] π and Intramolecular [2+2] π Cycloadditions	共著	平成25年10月	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 2013 , 61 (10), 1065-1070.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
平成12年3月~	日本薬学会・正会員		
IV 薬剤師としての実務経験			
なし			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 - 6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 生薬学	職名 教授	氏名 吉満 斉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書 崇城大学薬学部における「生薬学実習」実習書の作成		平成19年9月～	崇城大学薬学部2年生を対象とする「生薬学実習」は、生薬の鑑別・確認試験並びに天然物質の取り扱い等を中心に構成されている。実習内容の立案と取りまとめを行った（毎年更新）。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップin九州（熊本市） 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップin九州（熊本市） 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップin九州（熊本市） 第1回薬学教育者のためのアドバンストワークショップ（多摩市） 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップin九州（熊本市）		平成21年7月 平成22年7月 平成23年7月 平成23年12月 平成24年7月	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップにおいてタスクフォースとして指導を行った。 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップにおいてタスクフォースとして指導を行った。 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップにおいてタスクフォースとして指導を行った。 教育FD活動として、学習成果基盤型教育に基づく6年生の薬学教育法について学んだ。 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップにおいてタスクフォースとして指導を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Four new ent-kaurane diterpenoids from the fruits of <i>Annona cherimola</i>	共著	平成22年5月	Chem. Pharm. Bull. Vol. 58 No. 5
(論文) Dolabellane diterpene and three cycloartane glycosides from <i>Thalictrum squarrosum</i>	共著	平成22年8月	Chem. Pharm. Bull. Vol. 58 No. 8
(論文) A new diterpenoid glucoside and two new diterpenoids from the fruit of <i>Vitex agnus-castus</i>	共著	平成23年3月	Chem. Pharm. Bull. Vol. 59 No. 3
(論文) Five new nortriterpenoid glycosides from the bulbs of <i>Scilla scilloides</i>	共著	平成25年5月	Chem. Pharm. Bull. Vol. 61 No. 5
(論文) Calycolins V-IX, Resin glycosides from <i>Calystegia soldanella</i> and their antiviral activity toward herpes	共著	平成26年1月	Chem. Pharm. Bull. Vol. 62 No. 1
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) アテモヤ果実の成分研究		平成26年3月	日本薬学会
(演題名) アピオスに含有されるフラボノイド配糖体成分		平成26年9月	日本生薬学会
III 学会および社会における主な活動			
昭和58年9月～平成25年3月	日本薬学会・正会員		
平成5年8月～平成25年3月	日本生薬学会・正会員		

IV 薬剤師としての実務経験	

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 - 6 「IV 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 生薬学	職名 教授	氏名 池田 剛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 なし (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書 「生薬学へのいざないー生薬学は今日の医療にどう役立つのかー」(京都廣川書店)を共同執筆した		平成21年3月	京都大学薬学部 伊藤先生、明治大学農学部 久城先生と3名で6年制薬学部の学生に生薬学のおもしろさを伝えられるような教科書目指して作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬学実務実習教育ワークショップ参加(熊本市)		平成23年7月	教育FD活動として、薬学実務実習の教育についての効果的な教育指導法を学んだ。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Anti-obesity compounds in green leaves of <i>Eucommia ulmoides</i> .	共著	平成23年3月	<i>Bioorg. Med. Chem. Lett.</i> , 21 , 1786-1791.
(論文) Tomatidine, a Tomato Sapogenol, Ameliorates Hyperlipidemia and Atherosclerosis in ApoE-Deficient Mice by Inhibiting Acyl-CoA:cholesterol Acyl-transferase (ACAT).	共著	平成24年5月	<i>J. Agri. Food Chem.</i> , 60 , 2472-2479.
(著書) トランスグリコシル化反応を応用した生物活性オリゴ糖鎖の探索	単著	平成25年4月	シーエムシー出版
(著書) The chemistry and bioactivity of <i>Eucommia ulmoides</i> Oliver leaves.	共著	平成26年8月	Elsevier社
(論文) A new hemiterpene glycoside from the ripe tomatoes.	共著	平成26年12月	<i>Nat. Prod. Res.</i> , 29 , 262-267.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) イカリソウ由来のAGEs生成阻害活性プレニルフラボノイドの光学分割に関する研究		平成26年9月	日本生薬学会第61回年会
(演題名) イカリソウに含まれるAGEs生成阻害成分の探索研究		平成26年11月	第24回日本メイラード学会年会
III 学会および社会における主な活動			
平成21年4月～平成27年3月	日本薬学会・正会員		
平成21年4月～平成27年3月	日本生薬学会・正会員		
平成21年4月～平成27年3月	アメリカ化学会・正会員		
平成21年4月～平成27年3月	有機合成化学協会・正会員		
平成21年4月～平成27年3月	日本農芸化学会・正会員		
平成24年4月～平成27年3月	桜ヶ丘病院・評議委員		
IV 薬剤師としての実務経験			
なし			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 - 6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	崇城大学	講座名	生薬学
職名	講師	氏名	宮下 裕幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Four new ent-kaurane diterpenoids from the fruits of <i>Annona cherimola</i> .	共著	平成22年5月	Chem. Pharm. Bull., 58, 5, 765-758 (2010)
Four new iridoid glucosides from <i>Ajuga reptans</i> .	共著	平成23年8月	Chem. Pharm. Bull., 59, 8, 1065-1068 (2011)
Three new resin glycosides and a new tetrahydropyran derivative from the seeds of	共著	平成24年8月	Chem. Pharm. Bull., 60, 8, 1083-1087 (2012)
Three acylated glycosidic acid methyl esters and two acylated methyl glycosides generated from the convolvulin fraction of seeds of <i>Quamoclit pennata</i> by treatment with indium(III) chloride in methanol.	共著	平成25年9月	Chem. Pharm. Bull., 61, 9, 952-961 (2013)
Reductive coupling reaction of aldehydes using indium(III) triflate as the catalyst	共著	平成26年5月	Tetrahedron Lett., 55, 3765-3767 (2014)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
アピオス (<i>Apios americana</i>) に含有されるフラボノイド配糖体成分		平成26年9月	日本生薬学会
イカリソウ由来のプレニルフラボノイド類のAGEs生成阻害活性の検討		平成27年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			
平成17年4月～平成26年3月	日本薬学会・正会員		
平成17年4月～平成26年3月	日本生薬学会・正会員		
IV 薬剤師としての実務経験			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 6 「IV 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名 薬用植物園	職名 教授	氏名 村上光太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書 漢方概論講座テキスト		2014年10月5日	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 平成26年度山鹿市生涯学習講座 熊日講座		5月10日～ 4月27日～	毎月1回(山鹿市、鹿北町)開催、8月は休み 毎月1回開催、8月は休み
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)地球は大きな薬箱	単著	2012年1月29日	叢文社
(著書)地域食材大百科	共著	2010年3月	農文協
(著書)食べる薬草辞典	単著	2010年1月	農文協
(論文) Isolation and Characterization of NEW ONIONINS A2 AND A3 from <i>Allium cepa</i> , and of Onionins A1, A2, and A3 from <i>Allium fistulosum</i>	共著	2014年	chem. pharm. bull. 62(11)1141-1145
(論文) Conversion of Tomato Saponins to Pregnane Derivatives	共著	2014年	chem. pharm. bull. 62(5)483-487
(論文) Acycli Sulfides, Garlicinins L-1-L-4, E, and F, from <i>Allium sativum</i>	共著	2014年	chem. pharm. bull. 62(5)477-482
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)			
(演題名)			
III 学会および社会における主な活動			
IV 薬剤師としての実務経験			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

6 「IV 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名	生化学	職名 教授 氏名 上田 直子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
福岡大学理学部化学科で「生命化学特別講義」の集中講義		平成25年 9月3日、4日	学部4年生対象であり、各人の理解度を知り理解を深めてもらうために、講義毎（2,4,6回）に質問や意見等を記入してもらい、次の時間にそれらについての解説した。
崇城大学薬学部での「分子生物学」の講義		平成26年4月～	基礎科目であるが、毎回講義後に臨床問題と関連づけた課題を出し、レポートにして提出してもらい、次の講義でその内容、エッセンスを解説した。文章読解力が向上するように努めた。
崇城大学薬学部での「生化学I」の講義		平成26年10月～	毎回、授業の出席カードの裏面に質問や意見を書かせ、次の授業時にそれに対する説明をしている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
生化学実習の実験書（6年制用）		平成21年4月～	薬学部6年生の3年生を対象とした学生実験の実習書を作成し、内容の改訂を（基本的に毎年）行っている。
実験実習の基本とデータのまとめ方（三恵社）		平成26年2月	学生実習に役立つと思われる事柄（主にライフサイエンス分野）について本薬学部教員と分担して執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			
第42回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップin 九州／福岡		平成 25年8月4日～8月5日	薬学教育ワークショップに参加し、SGDやPBLなど、アクティブラーニングについて学んだ。
第3回薬学教育者のためのアドバンスワークショップ		平成25年10月12日～10月14日	学習成果基盤型教育に基づいたカリキュラム作成法を学ぶものであったが、実際はルーブリックやSGD、PBL、ワールドカフェ方式など種々の教授法を学んだ。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
A [Lys ⁴⁹]phospholipase A ₂ fro <i>Protothrops flavoviridis</i> venom induce casepase-independent apoptotic cell death accompanied by rapid plasma-membrane rupture in human leukemia cells.	共著	2011年5月	Biosci. Biotech. Biochem., 75, 8641-870
Structural characteristics and evolution of a novel venom phospholipase A ₂ gene from <i>Protothrops flavoviridis</i> .	共著	2012年3月	Biosci. Biotech. Biochem., 76, 551-588
Suppression of severe lesions, myonerosis and hemorrhage, caused by <i>Protothrops flavoviridis</i> venom with its serum proteins.	共著	2013年3月	Toxicon 76, 197-205
Discovery of a novel vascular endothelial growth factor (VEGF) with no affinity to heparin in <i>Gloydus Tsushimaensis</i> venom,	共著	2014年8月	Toxicon 86, 107-115
Epithelium specific ETS transcription factor, ESE-3, of <i>Protothrops flavoviridis</i> snake venom gland transactivates the promoters of venom phospholipase A ₂ isozyme genes.	共著	2014年12月	Toxicon 92, 133-139

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
ハブ (<i>Protobothrops flavoviridis</i>) の全ゲノム配列決定の現状と展望	2014年 5月	日本動物学会九州支部（第67回）、日本生態学会九州地区会、九州沖縄植物学会、沖縄生物学会合同大会
触媒三残基のHisがArgに置換したハブ毒セリンプロテアーゼ様タンパク	2014年 10月	第87回 日本生化学会大会
ハブ毒腺で発現する転写因子ESE-3は毒型PLA2遺伝子のプロモーターを活性化する	2014年 11月	第37回 分子生物学会
クサリヘビ科蛇の分泌型ホスホリパーゼA2遺伝子クラスターの起源と分子進化	2014年 11月	第37回 分子生物学会
クサリヘビ科ヘビの筋壊死活性ホスホリパーゼA ₂ ([Lys ⁴⁹]PLA ₂) 遺伝子の分子進化	2014年 11月	第37回 分子生物学会
ツシママムシ毒由来の血管透過性亢進因子のヘパリン結合について	2015年 3月	日本薬学会第135年会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
平成7年 4月～	日本生化学会 正会員	
平成7年 4月～	日本分子生物学会 正会員	
平成8年 1月～	日本農芸化学会 正会員	
平成10年 1月～	International Society on Toxinology（国際生物毒素学会） 正会員	
平成18年 2月～	日本薬学会 正会員	
平成20年10月～平成24年9月	福岡市環境審議会委員	
平成24年11月～平成27年11月	日本生化学会代議員	
平成25年3月～平成27年2月	日本農芸化学会西日本支部参与	
平成24年4月～平成27年3月	熊本市土地利用審査会委員	
平成24年12月～平成25年11月	科学研究費委員会 専門委員	
平成25年9月～平成27年8月	熊本県薬事審議会委員	
Ⅳ 薬剤師としての実務経験		
なし		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 生命薬学	職名 准教授	氏名 大栗誉敏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 崇城大学薬学部における学部生への「生化学実習」の講義指導		平成21年10月, 平成22~26年 5, 6月	学部3年生に対し生化学、分子生物実験を行う為に必要な基本的知識や操作法について実験を通じて理解させる。実習では学生に対する解説講義を主として担当した。
崇城大学薬学部における学部生への「生物学Ⅰ」の講義指導 (H25より薬学基礎生物学に変更)		平成22年度~ 26年度, 前期	学部1年生に対し生命の誕生からの歴史、多様な生物の分類、進化論、生物とはなにか等、生物学の基礎知識を講義した。パワーポイント及びプリントを用いて講義し、毎時間小テストを実施した。
崇城大学薬学部における学部生への「生化学Ⅰ」の講義指導 (分担)		平成23年度 ~平成26年度, 後期	学部1年生に対して、生化学15コマの後半8コマを担当。代謝について講義した。毎回小テストを行い理解度を確認しながら進めていった。
崇城大学薬学部における卒業研究特別実習の指導 (分担)		平成23年4月 ~平成27年3月	生化学研究室配属4年生4人について卒業研究を指導した。
崇城大学薬学部における学部生への「生化学Ⅱ」の講義指導 (分担)		平成24年度~ 平成26年度, 前期	学部2年生に対して、生化学15コマの後半8コマを担当。代謝について講義した。毎回小テストを行い理解度を確認しながら進めていった。
崇城大学薬学部における学部生への「基礎免疫学」の講義指導		平成25年度, 前期, 平成26年 度, 後期	学部2年生に対して、基礎を中心に免疫学を講義した。毎回小テストを行い理解度を確認しながら進めていった。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬学FD委員としての活動		平成22年度~ 平成26年度	薬学FD委員となり、授業アンケート集計あるいは授業参観への呼びかけなど薬学のFD活動をおこなった。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Effects of His mutations on the fibrillation of amyloidogenic Vlambda6 protein W11 under acidic and physiological conditions.	共著	2010年1月	Biochemical and biophysical research communications. 391 (1):615-20.
A protein's conformational stability is an immunologically dominant factor: evidence that free-energy barriers for protein unfolding limit the immunogenicity of foreign proteins.	共著	2010年10月	Journal of immunology. 185 (7):4199-205.
Aggregates with lysozyme and ovalbumin show features of amyloid-like fibrils.	共著	2011年12月	Biochem Cell Biol. 89 (6):533-544.
Characterization of deamidation at Asn138 in L-chain of recombinant humanized Fab expressed from <i>Pichia pastoris</i> .	共著	2013年10月	Journal of Molecular Biology. 154 (4):333-340.

Epithelium specific ETS transcription factor, ESE-3, of Protobothrops flavoviridis snake venom gland transactivates the promoters of venom phospholipase A2 isozyme genes.	共著	2014年12月	Toxicol. 15(92):133-139
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ハブ毒腺で発現する転写因子ESE-3は毒型PLA2遺伝子のプロモーターを活性化する		2014年11月	第37回日本分子生物学会年会
ツシマムシ毒由来の血管透過性亢進因子のヘパリン結合について		2015年3月	日本薬学会第135年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成7年4月～平成27年3月	日本生化学会・正会員		
平成9年3月～平成27年3月	日本薬学会・正会員		
平成11年6月～平成27年3月	日本蛋白質科学会・正会員		
Ⅳ 薬剤師としての実務経験			
平成8年4月～平成11年3月	(有) くりおか薬局 非常勤		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 生命薬学・薬理学	職名 教授	氏名 徳富直史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
2 作成した教科書、教材、参考書 薬理学IIプリント集の作成 応用薬理学プリント集の作成 医用電気生理学プリント集の作成 薬理学Iプリント集の作成 薬理学実習の実習書の作成	平成21年4月 ～平成26年3月 平成21年4月 ～平成26年3月 平成22年4月 ～平成26年3月 平成23年4月 ～平成26年3月 平成21年4月 ～平成26年3月	薬理学II講義用のプリント集を作成した（毎年更新）。 応用薬理学講義用のプリント集を作成した（毎年更新）。 医用電気生理学講義用のプリントを作成した（毎年更新）。 薬理学I講義用のプリント集を作成した（毎年更新）。 薬理学実習で配布する実習書を作成した（毎年更新）。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 心のケアの実践教育（テーマ：心と体と薬の科学）	平成23年4月 ～平成26年3月	向精神薬の講義に際し、気分の制御や「うつ」的状态からの離脱法等の紹介を行っている。また本テーマ要請をうけ、毎年1～2校で全校生徒に講演を行っている。	
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）「神経の構造と神経伝達」「嗅覚・味覚系」	共著	平成20年8月	南江堂, パートナー機能形態学（初版）
（著書）「血液」「利尿薬と泌尿器・生殖器作用薬」	共著	平成24年1月	廣川書店, 最新薬理学（初版）
（著書）「神経の構造と神経伝達」「嗅覚系」「味覚系」	共著	平成25年3月	南江堂, パートナー機能形態学（改訂第2版）
（論文）Lipopolysaccharide decreases single immunoglobulin interleukin-1 receptorrelated molecule (SIGIRR) expression by suppressing specificity protein 1 (Sp1) via the Toll-like receptor 4 (TLR4)-p38 pathway in monocytes and neutrophils.	共著	平成26年5月	J. Biol Chem 27, 289(26), 18097-109 (2014)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
「嚢胞性線維症患者由来初代培養気道上皮細胞におけるTLR3リガンドpoly(I:C)誘導性のIL-17C産生上昇」		平成26年11月	第8回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム
III 学会等および社会における主な活動			

IV 薬剤師としての実務経験	

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 薬理学	職名 准教授	氏名 内田 友二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			学内のWebclass システムを利用して、授業で説明に用いたスライドはすべてe-learning用教材としてuploadし、学生が自主的に復習できるように工夫をしている。
2 作成した教科書、教材、参考書 筋疾患診療ハンドブック(分担)		平成25年6月	薬/医学部生、大学院生、若手医師を対象に、筋疾患に関して、最新の研究動向を含む総論的な知識から、医療の現場で役立つ薬物治療や診断に関わる各論的知見までを解説している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成26年7月13日 平成22年10月11日 平成21年10月24日	鹿児島県薬剤師会のH26年度第3回ジェネラルファーマシスト研修会で薬剤師を対象に「神経学的所見の取り方～病変部位の診断～」の講演を行い、フィジカルアセスメント講習の一環として実技指導した。 一般市民を対象に教育・研究啓蒙活動として「筋ジストロフィー治療市民公開講座」を実行委員として企画・運営し、座長としてとりまとめを行った。 薬剤師対象の教育活動として「第31回日本薬学会九州支部主催薬学コロキウム」で「医療薬学教育における喫煙問題の捉え方」の中で「ニコチン依存症の病態と治療薬」について講演、解説を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Headstroke in patients with Parkinson's disease	共著	平成24年3月	Neurological Sciences, 33(3): 685-687
(論文) Identification of the occipito-pontine tract using diffusion-tensor fiber tracking in adult-onset adrenoleukodystrophy with topographic disorientation	共著	平成23年7月	Case Reports in Neurology, 3: 113-117
(論文) Rescue from respiratory dysfunction by transduction of full-length dystrophin to diaphragm via the peritoneal cavity in utrophin/dystrophin double knockout mice	共著	同 年7月	Molecular therapy, 19(7): 1230-1235
(論文) Muscle fiber type-predominant promoter activity in lentiviral-mediated transgenic mouse	共著	同 年3月	PLoS One, 6(3): e16908(1-8)
(論文) Cervical MRI of subacute myelo-optico-neuropathy	共著	同 年2月	Spinal Cord, 49(2): 182-185
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
該当なし			
III 学会および社会における主な活動			
平成15年9月～		日本神経学会 神経内科専門医	

平成16年4月～	日本内科学会 認定内科医
平成19年4月～	日本薬理学会 会員
平成21年4月～	くまもと禁煙推進フォーラム 世話人
平成22年5月～	日本神経学会 神経内科指導医
平成24年11月～	日本創傷治癒学会 会員
平成25年5月～	日本薬学会 会員
IV 薬剤師としての実務経験	
該当なし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 6 「IV 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 薬理学	職名 助教	氏名 首藤 恵子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成25年5月～ 平成26年5月	自己学習を促すことを目的として、e-Learning ツールであるWebClassを使用した。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 薬学実務実習教育ワークショップ参加(熊本市)		平成22年7月	教育FD活動として、薬学実務実習の教育について の効果的な教育指導法を学んだ。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Calreticulin positively regulates the expression and function of epithelial sodium channel.	共著	平成21年11月	Biochim. Biophys. Acta, vol.315, No.19
(論文) Synergism between Interleukin-17 and Toll-like receptor 2 and 4 Signals to Induce IL-8 Expression in Cystic Fibrosis Airway Epithelial Cells.	共著	平成24年3月	J. Pharmacol. Sci., vol.118, No.4
(論文) Lipopolysaccharide Decreases Single Immunoglobulin Interleukin-1 Receptor-Related Molecule (SIGIRR) Expression by Suppressing Sp1 via TLR4-p38 pathway in monocytes and neutrophils	単著	平成26年5月	J. Biol Chem., vol. 289(26),
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
平成16年4月～平成27年3月	日本薬理学会・正会員		
平成16年4月～平成27年3月	日本薬学会・正会員		
平成24年9月～平成27年3月	日本生化学会・正会員		
平成24年9月～平成27年3月	日本分子生物学会・正会員		
IV 薬剤師としての実務経験			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 - 6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 微生物学	職名 教授	氏名 横溝 和美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書 「薬理学実習」実習書の作成 標準医療薬学 薬理学 「微生物学実習」実習書の作成		平成21年～23年 平成21年～ 平成23年～	中枢神経作用薬、消炎鎮痛薬に関する学生実習書作成した(毎年更新)。 第6章「呼吸器」と各論6「呼吸器」の演習問題について記述した。 微生物の取り扱い、染色法、分離法、定量法に関する学生実習書を作成した。(毎年更新)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 産学連携人材育成事業(熊本県)の講師 フードバイオ人材育成研修講座(熊本県)の講師 市民大学講座(熊本市)の講師 市民大学講座(合志市)の講師 くまもと県民カレッジ講座の講師		平成21年～22年 平成23年～25年 平成23年11月24日 平成24年1月20日 平成25年6月12日	薬食同源に基づく栄養補助 薬食同源の視点からのヘルスプロモーション 身近な感染症に効くクスリ 未病とヘルスサプリメント 未病に学ぶ、薬食同源による予防法
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) HSP70 inducers from Chinese herbs and their effect on melanin production.	共著	平成22年8月	Exp Dermatol, vol.19, No.8
(論文) Identification and characterization of component organic and glycosidic acids of crude resin glycoside fraction from Calystegia soldanella.	共著	平成23年9月	Chem Pharm Bull, vol.59, No.9
(論文) Ergogenic Capacity of a 7-Chinese Traditional Medicine Extract in Aged Mice.	共著	平成24年12月	Chinese Medicine, vol.3
(論文) Calycolins V-IX, Resin Glycosides from Calystegia soldanella and Their Antiviral Activity toward Herpes.	共著	平成25年10月	Chem Pharm Bull, vol.62, No.1
(論文) Synthesis and Antiviral Activities of Some 2,4,6-Trisubstituted 1,3,5-Triazines.	共著	平成26年10月	Chem Pharm Bull, vol.62, No.1
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 余甘子成分の抗ヘルペス活性について		平成26年9月	日本防菌防黴学会第40回年次大会
(演題名) Inhibitory Effects of Seven Chinese Herb Extract Essences on Melanin Formation in B16 melanoma cells		平成26年11月	第17回国際東洋医学会学術総会(台湾)
III 学会および社会における主な活動			
平成3年10月～	日本薬学会・正会員		
平成19年4月～	和漢医薬学会・評議員		
平成20年4月～	日本未病システム学会・評議員		
平成25年4月～	熊本県健康サービス産業協議会委員		
IV 薬剤師としての実務経験			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 - 6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	崇城大学	講座名	微生物学
		職名	准教授
		氏名	方 軍
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 講義に対する学生の理解度のチェック、評価	平成24年4月～	毎回、授業の出席カードの裏面に質問や意見を書かせ、次回までに、それに対する回答などを掲示している。
2	作成した教科書、教材、参考書 崇城大学薬学部「生物系薬学実習（微生物学実習）」実習書	平成19年4月～	薬学部3年生を対象とする「微生物学実習」は、微生物の基本的な取扱方、培養法、検査法等から構成されている。本書は、毎年若干の改定を加えた。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし		
4	その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		
	授業参観	平成19年4月～	教育FD活動として、崇城大学薬学部の他教員及び外部講師の講義に年4回以上参加し、これらの活動に基づき、教育効果の向上を目指す取り組みをした。
	実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	平成19年8月	厚生労働省薬剤師養成事業として、平成19年の第10回薬剤師のためのワークショップin九州に参加した。薬剤師養成のための学習目標の確立、学習方略、評価方法等について討論し学んだ。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文） Styrene-maleic acid copolymer-encapsulated CORM2, a water-soluble carbon monoxide (CO) donor with a constant CO-releasing property, exhibits therapeutic potential for inflammatory bowel disease.	共著	2014年8月	J Control Release vol.187
（論文） Protection from inflammatory bowel disease and colitis-associated carcinogenesis with 4-vinyl-2,6-dimethoxyphenol (canolol) involve suppression of oxidative stress and inflammatory cytokines.	共著	2013年12月	Carcinogenesis vol.34, No.12
（論文） Carbon monoxide, generated by heme oxygenase-1, mediates the enhanced permeability and retention (EPR) effect of solid tumor.	共著	2012年3月	Cancer Sci vol.103, No.3
（論文） Therapeutic potential of pegylated hemin for ROS-related diseases via induction of heme oxygenase-1: results from a rat hepatic ischemia/reperfusion injury model.	共著	2011年12月	J Pharmacol Exp Ther vol.339, No.3
（論文） The EPR effect: Unique features of tumor blood vessels for drug delivery, factors involved, and limitations and augmentation of the effect.	共著	2011年3月	Adv Drug Deliv Rev, vol.63, No.3
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） Micelles of CO releasing molecules encapsulated by styrene-maleic acid copolymer, exhibit therapeutic potential for inflammatory bowel disease with disease-targeting property by EPR effect.		2014年5月	10th International Symposium on Polymer Therapeutics: From laboratory to Clinical Practice

(演題名) 細菌による抗癌治療：EPR効果による細菌の腫瘍へのデリバリーとその増強法	2014年7月	第30回日本DDS学会
(演題名) Upregulation of HO-1 in colorectal cancer with increased circulation CO levels, potentially affects chemosensitivity	2014年9月	第73回日本癌学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成13年4月～	日本癌学会・正会員	
平成14年4月～	日本DDS学会・正会員	
平成20年4月～	日本薬学会・正会員	
平成23年4月～	日本DDS学会・評議員	
Ⅳ 薬剤師としての実務経験		
なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	研究室名 微生物学	職名 助教	氏名 周 建融
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
薬学部1年生を対象とした「伝統医薬学概論」の講義（選択）を分担し、未病と中国伝統医薬学の授業を行った。		平成19～25年 12月～2月	SGDやPBLを取り入れた授業評価。毎回、授業の出席カードの裏面に質問や意見を書かせ、次回までに、それに対する回答などを掲示している。
薬学部3年生を対象とし、中枢神経作用薬を中心とした薬理学実習の指導を行った。		平成19～25年 11月～12月	SGDやPBLを取り入れた授業評価。毎回、授業の出席カードの裏面に質問や意見を書かせ、次回までに、それに対する回答などを掲示している。
薬学科3年生を対象とした「基礎科学英語」（必修）の講義を担当した。		平成19～26年 9月～2月	①専門分野または興味ある分野の内容を英語で発表を行う。②毎回、授業の出席カードの裏面に質問や意見を書かせ、次回までに、それに対する回答などを掲示している。
薬学部6年生を対象とした「未病治療学」の講義（選択）を分担し、未病とセルフメイケーションの授業を行った。		平成24～25年 4月～7月	SGDを取り入れた授業評価。担当テーマを決めて発表を行う。
2 作成した教科書、教材、参考書			
中枢神経薬と消炎鎮痛薬の作用を検出する実験法に関する学生実習書を作成した（毎年更新）。		平成21～22年	崇城大学薬学部における「薬理学実習」実習書を分かりやすい作成（分担）。
「未病と生活習慣病と栄養（3）薬食同源に基づく栄養補助」に関する教材を作成した。		平成21年	経済産業省・産学人材育成パートナーシップ事業における教材を分かりやすい作成（分担）。
未病と伝統医薬学に関する教材を作成した。		平成23年	崇城大学薬学部における「伝統医薬学概論」教材を分かりやすい作成（分担）。
微生物実習に関する学生実習書を作成した。		平成25年	崇城大学薬学部における「微生物学実習」実習書を分かりやすい作成（分担）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			
日本東洋医学会熊本県部会教育講演会の講師		平成20年2月	講師を担当し、社会の教育・研究活動に貢献した。
薬学実務実習教育ワークショップ参加（熊本市）		平成20年10月	教育FD活動として、薬学実務実習の教育についての効果的な教育指導法を学んだ。
薬学実務実習教育ワークショップ参加（熊本市）		平成21年7月	教育FD活動として、薬学実務実習の教育についての効果的な教育指導法を学んだ。
産学人材育成パートナーシップ事業の講師		平成21～25年 8月	講師を担当し、社会の教育・研究活動に貢献した。
II 研究活動			

1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）New spirostanol glycosides from <i>Solanum nigrum</i> and <i>S. jasminoides</i>	共著	平成24年4月	J Nat Med, vol.66, No.4
（論文）Ergogenic Capacity of a 7-Chinese Traditional Medicine Extract in Aged Mice	共著	平成24年12月	Chinese Medicine. vol.3
（論文）Cholinergic EPSCs and their potentiation by bradykinin in single paratracheal ganglion neurons attached with presynaptic boutons	共著	平成26年5月	Journal of Neurophysiology. Vol.6
（論文）Novel Antitussive Effect of Suplatast Tosilate in Guinea Pigs	共著	平成27年1月	Pharmacology. Vol.95 No.1
（論文）Effects of Lemon balm essential oil application on atopic dermatitis-like immune alterations in mice	共著	平成27年1月	International Journal of Pytomedicine. Vol.1
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Tomato Saponin, Esculeoside Aの抗アトピー性皮膚炎様作用		平成26年9月	日本生薬学会第61回年会
（演題名）Pharmacological Functions of Tomato Saponin		平成26年9月	第8回日中韓生薬学合同シンポジウム
（演題名）余甘子成分の抗ヘルペス活性について		平成26年9月	日本防菌防黴学会第41回年次大会
（演題名）トマトサポニンのアトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患を改善する可能性		平成26年10月	不思議探求SOJOセミナー
（演題名）Tomato Saponin: Metabolism in Women and Amelioration Effect on Atopic Dermatitis		平成26年11月	17th International Congress of Oriental Medicine
（演題名）Amelioration Effect on Allergic Disorder by <i>Ligustrum lucidum</i> ait, a <i>Lycium</i> -composed Formula		平成26年11月	17th International Congress of Oriental Medicine
（演題名）トマトサポニンの薬理作用 抗動脈硬化、抗アトピー性様皮膚炎、ならびに抗腫瘍作用について		平成26年11月	第20回天然薬物の開発と応用シンポジウム
（演題名）トマトサポニン, Esculeoside Bの抗アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患を改善する可能性		平成27年3月	日本薬学会第135回年会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
平成15年4月～平成26年3月	日本薬理学会・正会員		
平成16年10月～平成27年3月	日本薬学会・正会員		
平成19年4月～平成27年3月	日本未病システム学会・評議員		
平成20年4月～平成26年3月	日本東洋医学会・正会員		
平成23年4月～平成26年3月	熊本県薬剤師会・正会員		
Ⅳ 薬剤師としての実務経験			
平成2年7月～平成6年12月	中国広西省桂林市市民病院薬剤部 薬剤師勤務		
平成7年1月～平成12年10月	中国広西省桂林市市民病院薬剤部 漢方薬局長勤務		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。
 - 6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 微生物学	職名 助教	氏名 中村 秀明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書		2014年5月26日	微生物学実習テキスト
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Styrene-maleic acid copolymer- encapsulated CORM2, a water-soluble carbon monoxide (CO) donor with a constant CO- releasing property, exhibits therapeutic potential for inflammatory bowel disease.	共著	平成26年8月	Elsevier, Journal of controlled release, 187 巻
(論文) Enhanced bacterial tumor delivery by modulating the EPR effect and therapeutic potential of Lactobacillus casei.	共著	平成26年10月	Wiley, Journal of Pharmaceutical Sciences, 103巻
(論文) Development of next-generation macromolecular drugs based on the EPR effect: challenges and pitfalls.	共著	平成27年1月	Informa healthcare, Expert Opinion on Drug Delivery, 12巻
(論文) Comparison between linear and star- like HPMA conjugated pirarubicin (THP) in pharmacokinetics and antitumor activity in tumor bearing mice.	共著	in press	Elsevier, European Journal of Pharmaceutics and Biopharmaceutics
(論文) Effect of different chemical bonds in pegylation of zinc protoporphyrin that affects drug release, intracellular uptake, and therapeutic effect in the tumor.	共著	in press	Elsevier, European Journal of Pharmaceutics and Biopharmaceutics
(論文) Synthesis and therapeutic effect of styrene-maleic acid copolymer conjugated pirarubicin.	共著	in press	Wiley, Cancer Science
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) がん組織集積性と酸性環境応答性を併せ持つ高分子型抗 がん剤の有用性評価		平成26年11月	第8回次世代を担う若手医 療薬科学シンポジウム
III 学会および社会における主な活動			
IV 薬剤師としての実務経験			

平成16年4月～平成18年3月	調剤薬局 りぼん薬局に勤務

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 - 6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 薬剤情報解析学	職名 教授	氏名 中嶋 弥穂子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
崇城大学薬学部における「生命倫理学」の指導（分担）	平成23年6月～平成26年7月	薬学部1年生（前期・必修）を対象とした「生命倫理学」では、提示した課題について学生間で討論を行った。討論の際には、発言回数や発言内容の論理性などを複数の評価指標を用いて評価し（ルーブリックによる評価）、筆記試験の成績とともに本科目の学習到達度を総合的に評価した。	
崇城大学薬学部における「早期体験学習」の指導（分担）	平成23年9月～平成27年1月	薬学部1年生（後期・必修）を対象とした「早期体験学習」の講義および実習施設の振り分け等を行った。本実習の学習到達度は、実習レポートの内容、SGDでの討論・発表や実習発表会での発表・質疑応答についてそれぞれ複数の評価指標を用いて評価し（ルーブリックによる評価）、これらに基づいて総合的に評価した。	
崇城大学薬学部における「コミュニケーション論」の指導（分担）	平成23年6月～平成27年1月	薬学部2年生（前期・必修、平成26年度のみ後期・必修）を対象とした「コミュニケーション論」で、講義に加えて効果的な傾聴の仕方などについてロールプレイを行った。ロールプレイ後にはグループごとにその効果や悪影響などについて討論し、発表を行った。発表については複数の評価指標を用いて評価し（ルーブリックによる評価）、筆記試験の成績とともに本科目の学習到達度を総合的に評価した。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
日本薬学会第129年会（京都市）	平成21年3月	「医学生との共修による離島医療・福祉・保健実習の展開」の演題で口頭発表を行った。	
日本社会薬学会第28年会（東京都港区）	平成21年11月	シンポジウム「医療者、教育機関、行政3極による地域医療体制づくり」のなかでシンポジストとして「長崎大学薬学部における離島医療・福祉・保健実習の展開」の演題で発表を行った。	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			
大学ジョイントセミナーにおける講師（佐賀県鳥栖市）	平成23年9月	平成23年度 佐賀県立鳥栖高等学校で開催された大学ジョイントセミナーにおいて「薬を正しく使う」のテーマで高校1,2年生に講義を行った。	
市民大学講座における講師（熊本市）	平成23年12月	平成23年度 講師として、「クスリと食べ物の飲み合わせ」について講義を行った。	
薬学実務実習教育ワークショップにおけるタスクフォース（熊本市）	平成23年7月、平成25年11月、平成26年9月	「第39回 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 九州」（平成23年）、「第46回 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 九州」（平成25年）、「第49回 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 九州」（平成26年）においてタスクフォースを務めた。	

熊本県立第一高等学校キャリアガイダンスにおける講師（熊本市）	平成24年9月, 平成25年7月	平成24年度および平成25年度 熊本県立第一高等学校キャリアガイダンスにおいて「薬を正しく使う～薬剤師の仕事」のテーマで高校1,2年生に講義を行った。	
「医療人としての薬学教育に係る教材や教育方法の開発に関する調査研究」教育者ワークショップにおけるタスクフォース（東京都）	平成26年2月	文部科学省平成25年度 大学における医療人養成推進等委託事業「医療人としての薬学教育に係る教材や教育方法の開発に関する調査研究」教育者ワークショップにおいてタスクフォースを務めた。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）長崎県五島列島での医薬共修による地域医療実習の実践	共著	2011年8月	医療薬学, vol. 37, No. 8
（著書）みてわかる薬学 図解 臨床調剤学	共著	2011年11月	南山堂
（論文） Investigation of protective effects of sodium hyaluronate eyedrop against corneal epithelial disorders using an electrophysiological method.	共著	2012年3月	J. Ocul. Pharmacol. Ther., vol. 28, No. 3
（論文）角膜上皮バリア能への障害性に着目したラタノプロスト点眼液の品質評価	共著	2013年9月	九州薬学会会報, 第 67号
（著書）ファーマシューティカルケアのための医療コミュニケーション	共著	2014年4月	南山堂
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）甘草または甘草末を含有する一般用医薬品の添付文書情報の解析		2014年7月	第17回日本医薬品情報学会 学術大会
（演題名）とろみ剤と医薬品を懸濁させた経腸栄養剤を併用した場合の粘度を指標とした物性の検討		2014年7月	第17回日本医薬品情報学会 学術大会
（演題名）T-LEX®法による薬剤性ヒト肝障害リスク予測データと臨床での薬剤性肝障害発生頻度データとの比較解析		2014年7月	日本ジェネリック医薬品学 会第8回学術大会
（演題名）ヒト肝細胞キメラマウスを用いたバラシクロビル製剤のヒト肝臓遺伝子発現への影響解析		2014年9月	第24回日本医療薬学会年 会
（演題名）ジェネリック医薬品投与時のヒト肝臓での薬理作用評価へのT-LEX®法の適用		2014年9月	第24回日本医療薬学会年 会
（演題名）T-LEX法を用いたジェネリック医薬品のヒト肝障害リスク予測に関する研究		2014年10月	第47回日本薬剤師会学術 大会
（演題名）電気生理学的手法を用いた緑内障治療配合剤の角膜傷害性評価に関する研究		2014年11月	第76回九州山口薬学大 会
（演題名）アトルバスタチン錠の薬剤性肝障害リスクに関する製剤同等性の検討		2014年11月	第76回九州山口薬学大 会
（演題名）甘草または甘草末を含有する一般用医薬品の適正使用に関する研究		2015年3月	日本薬学会第135年 会
（演題名）T-LEX®法を用いたテープ剤の肝障害リスク予測研究		2015年3月	日本薬学会第135年 会
III 学会および社会における主な活動			
平成2年2月～平成26年3月	日本薬学会・正会員		
平成5年1月～平成26年3月	日本薬理学会・正会員		
平成8年4月～平成24年9月	ヘルスカウンセリング学会・正会員		
平成9年4月～平成26年3月	日本医薬品情報学会・正会員		
平成10年1月～平成26年3月	日本医療薬学会・正会員・認定薬剤師・指導薬剤師		
平成18年11月～平成26年3月	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会・正会員		

平成21年8月～平成26年3月	日本ジェネリック医薬品学会・正会員
平成23年4月～平成26年3月	日本薬剤師会・正会員・生涯研修認定薬剤師
IV 薬剤師としての実務経験	
昭和61年8月～平成9年3月	長崎大学医学部附属病院（現：長崎大学病院）薬剤部勤務（長崎大学薬学部との併任）
平成19年6月～平成21年3月	長崎県離島医療圏組合五島中央病院（現：長崎県病院企業団長崎県五島中央病院）薬剤科勤務（長崎大学薬学部との併任）
平成22年4月～平成22年9月	（有）鍵屋薬品本舗 鍵屋薬局に勤務

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 分子薬効解析学	職名 教授	氏名 國安 明彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
薬崇城大学薬学部における「薬効解析学」において調べ学習先行型授業を行った。		平成26年11月 ～	薬学部5年（選択・1単位）対象。授業で取り上げる医薬品についてレポートを作成させた後、授業でテーマ内容について補完する手法を取り入れた。アクティブラーニングを促すように工夫した。
2 作成した教科書、教材、参考書			
熊本大学薬学部「アイソトープ実習」の実習書作成		平成7年7月 ～平成22年7月	放射性物質の安全取扱、放射性同位元素を用いた分析法に関する学生実習書を作成した（毎年更新）。
熊本大学大学院薬学教育部「蛋白質実習」の実習書作成		平成19年6月	大学院修士1・2年を対象とした実習書を作成した。プロテオミクス技術を習得させ、院生の研究において活用できるようにした。
熊本大学大学院薬学教育部「バイオフィーマコーズ・生体機能化学実習」の実習書作成		平成22年6月	大学院修士「生体機能化学実習」（前期・必修）の実習書を作成した。
崇城大学薬学部「薬理学実習」の実習書作成（分担）		平成24年9月～	学部3年生（必修）を対象とした薬理学実習の実習書を作成した（毎年更新）。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
熊本市・市民大学講座の担当（分担）		平成23年11月	熊本市民を対象として「長寿のくすり」のタイトルで健康増進効果のある薬について講演した。
熊本市・プラザ図書館・サイエンスカフェの講師担当		平成24年10月	「不老不死のサイエンス」のテーマで、熊本市民を対象に講演した。
崇城大学ファカルティデベロッパー		平成27年1月～	大学教育再生加速プログラムにおいてアクティブラーニング推進・普及を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
オートファジーを誘導するペプチド	単著	平成21年11月	ケミカルエンジニアリング, 54巻, 11号
Oxidized LDL and lysophosphatidylcholine stimulate plasminogen activator inhibitor-1 expression through reactive oxygen species generation and ERK1/2 activation in 3T3-L1 adipocytes.	単著	平成22年3月	Biochim. Biophys. Acta, vol.1811, No.3
Targeting neuropilin-1 in human leukemia and lymphoma.	共著	平成23年1月	Blood, vol.117, No.3
Crystallization and preliminary X-ray analysis of human MTH1 with a homogeneous N-terminus	共著	平成24年1月	Acta Crystallogr. Sect. F Struct. Biol. Cryst. Commun., Vol.69(Pt.1),
Cooperative Therapeutic Action of Retinoic Acid Receptor and Retinoid X Receptor Agonists in a Mouse Model of Alzheimer's Disease	共著	平成26年4月	J. Alzheimer Dis., Vol.42.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名

Hybrid peptide tat-Ram13-induced necrosis-like cell death depends on expression of PTEN in human leukemia cell lines	平成26年7月	European Association of Cancer Research 23 (Munch, Germany)
ペプチドミメティック化合物によるミクログリアターゲティング	平成27年3月	日本薬学会第135年会(神戸)
核膜孔因子Nup88とVimentinの相互作用解析	平成27年3月	日本薬学会第135年会(神戸)
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
昭和63年4月～平成27年3月	日本生化学会・正会員	
昭和63年10月～平成27年3月	日本薬学会・正会員	
平成12年4月～平成27年3月	北米神経科学会 (Society for Neurosience) ・正会員	
平成17年4月～平成27年3月	日本癌学会・正会員	
平成21年12月～平成27年3月	北米癌学会 (American Association of Cancer Research) ・正会員	
平成26年1月～平成27年3月	欧州癌学会 (European Association of Cancer Research) ・正会員	
Ⅳ 薬剤師としての実務経験		
なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	崇城大学	講座名	分子薬効解析学	職名	准教授	氏名	牧瀬 正樹
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
2 作成した教科書、教材、参考書 ・「薬理学実習」実習書（分担）				平成26年9月	「薬理学実習」の化学療法薬に関する部分を作成した（毎年更新）。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）							
II 研究活動							
1. 著書・論文等の名称				単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称	
Analysis of mutant origin recognition complex with reduced ATPase activity in vivo.				共著	2008年8月	Biochem J. vol. 413, No. 3	
Linkage between phosphorylation of the origin recognition complex and its ATP-binding activity in <i>Saccharomyces cerevisiae</i> .				共著	2009年2月	J. Biol. Chem. vol. 284, No. 6	
Defects in nuclear pore assembly lead to activation of the Aurora B-mediated abscission checkpoint.				共著	2010年11月	J. Cell. Biol. vol. 191, No. 5	
The Nup153-Nup50 protein interface and its role in nuclear import.				共著	2012年9月	J. Biol. Chem. vol. 287, No. 46	
2. 学会発表（評価対象年度のみ）					発表年・月	学会名	
Hybrid peptide tat-Ram13-induced necrosis-like cell death depends on expression of PTEN in human leukemia cell lines.					2014年7月	EACR23 (Munich, Germany)	
ペプチドミメティック化合物によるミクログリアターゲティング					2015年3月	日本薬学会135年会(神戸)	
核膜孔因子Nup88とVimentinの相互作用解析					2015年3月	日本薬学会135年会(神戸)	
III 学会および社会における主な活動							
平成24年11月～				日本生化学会・正会員			
平成24年12月～				日本薬学会・正会員			
平成25年 3月～				日本細胞生物学会・正会員			
平成26年 2月～				日本分子生物学会学会・正会員			
IV 薬剤師としての実務経験							
平成23年4月～平成24年3月				サンヨー薬局（株式会社エム・エス経営企画）勤務			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 6 「IV 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 衛生化学	職名 教授	氏名 武知進士
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) なし			
2 作成した教科書、教材、参考書 「衛生化学実習」実習書 「予防薬学としての衛生薬学 健康と環境 第2版」		平成19年～ 平成24年12月	衛生化学の学生実習書を作成した(毎年更新)。 衛生薬学に関する教科書(廣川書店)を共著した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Dihydropyrazine-induced inactivation of glyceraldehyde-3-phosphate	共著	2010年3月	Biol Pharm Bull., 33(3):379-383.
(論文) Glutathione depression by dihydropyrazine derivative.	共著	2011年4月	J. Toxicol. Sci., 36(2):231-235.
(論文) Possible involvement of glutathione balance disruption in dihydropyrazine-induced cytotoxicity on human hepatoma HepG2 cells.	共著	2012年10月	J. Toxicol. Sci., 37(5):1065-1069.
(論文) Selenium-binding protein 1: its physiological function, dependence on aryl hydrocarbon receptors, and role in wasting syndrome by 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-	共著	2013年6月	Biochim Biophys Acta., 1830(6):3616-24
(論文) The effect of dihydropyrazines on human hepatoma HepG2 cells: a comparative study using 2,3-dihydro-5,6-dimethylpyrazine and 3-hydro-2,2,5,6-tetramethylpyrazine.	共著	2014年8月	J. Toxicol. Sci., 39(4):601-608.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 糖化反応中間体dihydropyrazine (DHP) による増殖阻害		2014年12月	第37回日本分子生物学会年会
(演題名) 糖化反応中間体dihydropyrazineによる細胞増殖抑制		2015年3月	日本薬学会第135年会
III 学会および社会における主な活動			
昭和61年12月～	日本分子生物学会会員		
平成14年11月～	日本薬学会会員		
IV 薬剤師としての実務経験			
なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 衛生化学	職名 准教授	氏名 石田 卓巳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) The effect of dihydropyrazines on human hepatoma HepG2 cells: a comparative study using 2,3-dihydro-5,6-dimethylpyrazine and 3-hydro-2,2,5,6-tetramethylpyrazine.	共著	平成 26 年 8 月	J. Toxicol. Sci., vol. 39
(論文) Glutathione depression by dihydropyrazine derivative.	共著	平成 23 年 4 月	J. Toxicol. Sci., vol. 36
(論文) Generation of radical species from dihydropyrazines having DNA strand-breakage activity and other characteristics.	共著	平成 24 年 3 月	Chem. Pharm. Bull (Tokyo) vol. 60
(論文) Restoration of dioxin-induced damage to fetal steroidogenesis and gonadotropin formation by maternal co-treatment with α -lipoic acid.	共著	同 年 7 月	PLoS ONE, vol. 7 No. 7
(論文) Possible involvement of glutathione balance disruption in dihydropyrazine-induced cytotoxicity on human hepatoma HepG2 cells.	共著	同 年 10 月	J. Toxicol. Sci., vol. 37
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
2,3-Dihydro-2,2,5,6-tetramethylpyrazine による亜鉛輸送タンパク質 ZnT-1 の誘導		平成 27 年 3 月	日本薬学会第 135 年会
糖化反応中間体による HepG2 細胞増殖抑制		平成 26 年 12 月	第 31 回日本薬学会九州支部大会
糖化反応中間体 dihydropyrazine による亜鉛輸送タンパク質の発現変動		同 年 9 月	フォーラム 2014: 衛生薬学・環境トキシコロジー
III 学会および社会における主な活動			
IV 薬剤師としての実務経験			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 - 6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	崇城大学	講座名	環境分析学
職名	教授	氏名	原武 衛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
Inorganic Chemistry in Health and Environmental Sciences I (選択)		2009, 2011年度	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科(外国人特別コース)において、博士前期課程の大学院生を対象とした本科目(全8コマ)の4コマを担当し、「必須微量栄養素」をテーマにして英語による講義を行った。2回目および4回目に、英語によるスモールグループディスカッションを実施した。
Inorganic Chemistry in Health and Environmental Sciences II (選択)		2008, 2010, 2012年度	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科(外国人特別コース)において、博士前期課程の大学院生を対象とした本科目(全8コマ)の4コマを担当し、「アミロイド」をテーマにして英語による講義を行った。2回目および4回目に、英語によるスモールグループディスカッションを実施した。
2 作成した教科書、教材、参考書		年 月 日	概 要
新井 洋由, 早川 和一 編集 「衛生薬学 — 健康と環境 —」廣川書店		2005年10月	本書第4章の第3節「化学物質の毒性」および第4節「化学物質による中毒と処置」を分担執筆した。
薬学基礎実習：物化・分析・衛生系実習(衛生化学)実習書		2001年3月	長崎大学において、薬学部二年生を対象とした「衛生化学実習」の実習書を作成した。
薬学基礎実習：物化・分析・衛生系実習(放射化学)実習書		2005年3月	長崎大学において、薬学部三年生を対象とした「放射化学実習」の実習書を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
講義形式の授業における形成的評価とフィードバックの実践			学生の講義内容に対する理解度を計るため、講義の始めに形成的評価を実施し、理解が不十分であった点を学生にフィードバックし再度説明を加えた。
4 その他教育活動上特記すべき事項		年 月 日	概 要
なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) Biochalcogen Chemistry – The Biological Chemistry of Sulfur, Selenium and Tellurium	共著	2013年12月	American Chemical Society, <i>ACS Symposium Series</i> Vol. 1152, Chapter 10, 201–211.
(論文) A Thiol-mediated Active Membrane Transport of Selenium by Erythroid Anion Exchanger 1 Protein	共著	2012年4月	Royal Society of Chemistry, <i>Dalton Transactions</i> Vol. 41, Issue 24, 7340–7349.
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Thiol-targeted Introduction of Selenocysteine to Polypeptides for Synthesis of Glutathione Peroxidase Mimics	共著	2011年7月	Royal Society of Chemistry, <i>Metalomics</i> Vol. 3, Issue 7, 702–709.

(論文) Synthesis and Evaluation of Novel Chalcone Derivatives with $^{99m}\text{Tc}/\text{Re}$ Complexes as Potential Probes for Detection of β -Amyloid Plaques	共著	2010年9月	American Chemical Society, <i>ACS Chemical Neuroscience</i> Vol. 1, Issue 9, 598–607.
(論文) Thiol-dependent Membrane Transport of Selenium through an Integral Protein of Red Blood Cell Membrane	共著	2009年8月	American Chemical Society, <i>Inorganic Chemistry</i> Vol. 48, Issue 16, 7805–7811.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) A comprehensive investigation of reactions between a reduced metabolite of selenious acid and hepatic cytosolic proteins		20014年6月	第24回金属の関与する生体関連シンポジウム
(演題名) セレン代謝種と反応する脳内タンパクの同定 Identification of proteins reacting with reactive metabolic species of selenium in the brain		20014年9月	第4回メタロミクスフォーラム
(演題名) 亜セレン代謝種と反応性を有する肝細胞質タンパクの同定		20014年12月	第31回日本薬学会九州支部大会
(演題名) SPECT用プリオン病画像診断への応用を目指した ^{125}I 標識ベンゾフラン誘導体の合成とその基礎的評価		20014年12月	第31回日本薬学会九州支部大会
(演題名) 多糖系高分子を ^{68}Ge 吸着剤として用いた $^{68}\text{Ge}/^{68}\text{Ga}$ ジェネレータの構築		20014年12月	第31回日本薬学会九州支部大会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
平成22年2月～平成23年1月	日本薬学会九州支部 会計幹事		
平成20年1月～現在に至る	<i>Journal of Bioactive and Compatible Polymers</i> 誌 共同編集委員		
Ⅳ 薬剤師としての実務経験			
	なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「Ⅲ 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。
6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 物理化学	職名 教授	氏名 宮本 秀一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
崇城大学薬学部における「物理化学Ⅰ」の授業への参加型学習やSGDの取り入れ		平成25年9月～	平成25年度には、宿題の演習問題の解答を数名ずつの学生グループにあらかじめ割り当て、発表・解説させた。平成26年度には、宿題の演習問題の解答を数名ずつの学生グループに割り当て、その学生だけを集め、少人数グループでの授業を別途実施し、その成果も踏まえて次の授業において、発表・解説させた。
崇城大学薬学部における「物理化学Ⅱ」の授業への参加型学習やSGDの取り入れ		平成26年4月～	宿題の演習問題の解答を数名ずつの学生グループにあらかじめ割り当て、発表・解説させた。
崇城大学薬学部における「物理化学Ⅲ」の授業への参加型学習やSGDの取り入れ		平成26年9月～	クラス全員を3人ずつのグループに分け、授業の最初に宿題の演習問題の解答発表担当を全てのグループに割り振り、発表原稿を作成させ、そのうちのいくつかのグループに発表を行なわせた。
崇城大学薬学部における「蛋白高次構造と機能解析」の授業への参加型学習やSGDの取り入れ		平成22年9月～ 平成24年12月	学生に交替で教科書のまとめと関連問題を作成させ、それを発表させると共に、問題を作成しなかった学生に対して問題に取り組ませた。
2 作成した教科書、教材、参考書			
崇城大学薬学部における「物理化学Ⅰ」、「物理化学Ⅱ」、「物理化学Ⅲ」の教科書		平成24年9月～	講義内容をカバーする教科書を作成し、使用している。
崇城大学薬学部における「物理化学Ⅰ」、「物理化学Ⅱ」、「物理化学Ⅲ」の演習書		平成24年9月～	講義内容に対応した演習書を作成し、使用している。
崇城大学薬学部における「創薬概論Ⅰ」(分担)の教材		平成22年9月～	講義内容をほぼカバーするプリントを、毎年改訂を加えつつ作成した。
崇城大学薬学部における「薬学基礎化学」と「薬学基礎化学演習」の教科書		平成25年4月～	講義内容をカバーする教科書を、科目担当の先生と共著で作成した。
崇城大学薬学部における学生実習用の教科書		平成26年1月	薬化学・生薬学、分析・物理化学、生化学、薬理学の実習などで用いる実験実習の基本とデータのまとめ方に関する教科書を、科目担当の先生方と共著で作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
崇城大学における全学FD講演会にパネリストとして参加		平成22年3月	薬学部教務委員会における教育体制などに関する取り組みを紹介し、討議した。
4 その他教育活動上特記すべき事項			
「第11回薬学教育改革大学人会議アドバンスワークショップ」参加(東京)		平成22年3月	実務実習指導薬剤師養成について学んだ。
「教育フォーラム2010」参加(東京)		平成22年7月	薬学教育6年制に対応した国家試験の円滑な実施について学んだ。
「平成22年度文部科学省 薬学教育指導者のためのワークショップ」参加(東京)		平成22年8月	高学年での教育を学士力の向上と学生の進路にどのように生かすかについて討議した。
「第2回薬学教育者のためのアドバンスワークショップ」参加(大阪)		平成24年11月	学習成果基盤型教育に基づく6年制薬学教育の学習成果について討議した。
「薬学教育指導者のためのワークショップ」参加(東京)		平成25年8月	モデル・コアカリキュラムの改訂の導入について討議した。
「崇城大学第1回FD研修会」参加(学内)		平成26年9月	「クラスチームビルディング」についての実習に参加した。その成果を、上記の「物理化学Ⅰ」の別途少人数授業に活用した。

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Structural studies of coenzyme Q10 inclusion complex with γ -cyclodextrin using chemical analyses and molecular modeling	共著	平成21年1月	Chem-Bio Informatics Journal, 9, 1-11.
（論文）Purification, crystallization and preliminary X-ray analysis of PCNA2-PCNA3 complex from <i>Sulfolobus tokodaii</i> strain 7	共著	平成21年12月	Acta Crystallogr. Sect. F Struct. Biol. Cryst. Commun., 65, 1282-1284.
（論文）A novel heterotetrameric structure of the crenarchaeal PCNA2-PCNA3 complex	共著	平成23年1月	J. Struct. Biol., 174, 443-450.
（論文）Purification, crystallization and preliminary X-ray analysis of uracil-DNA glycosylases from <i>Sulfolobus tokodaii</i> strain 7	共著	平成24年9月	Acta Crystallogr. Sect. F Struct. Biol. Cryst. Commun., 68, 1102-1107.
（論文）Purification, Crystallization and Preliminary X-ray Diffraction Analysis of Exodeoxyribonuclease III from Crenarchaeon <i>Sulfolobus Tokodaii</i> Strain 7	共著	平成25年12月	Crystal Strct. Theory and Appl., 2, 157-160.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Estimation of the diffusion coefficients of molecules using molecular modeling		平成26年9月	20th EuroQSAR (St. Petersburg)
III 学会および社会における主な活動			
昭和55年4月～	日本薬学会・正会員、構造活性相関部会・常任幹事		
平成13年4月～	CBI学会・会員、CBIジャーナル編集委員		
平成17年4月～	日本結晶学会・正会員		
IV 薬剤師としての実務経験			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 6 「IV 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 物理化学	職名 助教	氏名 河合聡人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書 ・崇城大学薬学部における薬学部学生の「物理化学実習」の実習書		平成19年4月～	崇城大学薬学部3年生を対象とする「物理化学実習」で、「反応速度」「相平衡」「タンパク質の結晶化」に関する実習を実施している。その際、実習書の作成と取りまとめを行っている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Purification, crystallization and preliminary X-ray analysis of uracil-DNA glycosylase from <i>Sulfolobus tokodaii</i> strain 7	共著	平成24年9月	<i>Acta Crystallogr. sect. F Struct. Biol. Cryst. Commun.</i> , 68, 1102-1105
(論文) A novel heterotetrameric structure of the crenarchaeal PCNA2-PCNA3 complex	共著	平成23年6月	<i>J. Struct. Biol.</i> , 174, 443-450
(論文) Purification, crystallization and preliminary X-ray analysis of the PCNA2-PCNA3 complex from <i>Sulfolobus tokodaii</i> strain 7	共著	平成21年12月	<i>Acta Crystallogr. sect. F Struct. Biol. Cryst. Commun.</i> , 65, 1282-1284
(論文) Structural studies of coenzyme Q10 inclusion complex with γ -cyclodextrin using chemical analyses and molecular modeling	共著	平成21年1月	<i>Chem-Bio Infomatics Journal</i> , 9, 1-11
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
平成15年4月～平成27年3月	日本結晶学会・会員(平成25年度年会実行委員)		
平成18年4月～平成27年3月	日本薬学会・会員(第134年会プログラム編成委員)		
平成21年4月～平成27年3月	日本蛋白質科学会・会員		
IV 薬剤師としての実務経験			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 6 「IV 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 分析化学研究室	職名 教授	氏名 竹下 啓蔵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 「分析化学Ⅰ」の講義において、学生の復習を促し、理解を深めさせる工夫 「分析化学Ⅱ」の講義（分担）において、学生の復習を促し、理解を深めさせる工夫 「放射薬品学」の講義において、学生の復習を促す工夫 「分子構造解析学」（平成26年度より「機器分析学」）の講義（分担）において、学生の復習を促し、理解を深めさせる工夫		平成20年4月～ 平成20年9月～ 平成25年2月 平成26年9月～ 平成20年11月～ 平成27年2月 平成21年4月～	毎年薬学部1年生を対象とした「分析化学Ⅰ」（必修2単位）の講義において、各時間の演習問題集を作成して復習を促し、次の回に確認の小テストを行なうことで知識・理解の定着を図った。 毎年薬学部1年生（平成26年度より2年生）を対象とした「分析化学Ⅱ」（必修2単位、分担）の講義において、各時間の演習問題集を作成して復習を促し、次の回に確認の小テストを行なうことで知識・理解の定着を図った。 毎年薬学部3年生を対象とした「放射薬品学」（選択1単位）の講義において、毎回、前の回の授業内容で小テストを行い理解度を確認した。 毎年薬学部2年生を対象とした「分子構造解析学」（必修2単位、分担）の講義において、各時間の演習問題集を与えて復習を促し、次の回に確認の小テストを行なうことで知識・理解の定着を図った。
2 作成した教科書、教材、参考書 学内における「分析化学実習」の実習書の作成（分担） 学内における分析化学Ⅰ演習問題集（プリント）の作成 学内における分析化学Ⅱ演習問題集（プリント）の作成 薬学分析科学の最前線（じほう）（分担） 演習で理解する薬学分析化学（廣川書店）（分担） 基礎薬学分析化学Ⅰ・Ⅱ 第4版（廣川書店）（分担） 実験実習の基本とデータのまとめ方 -実験レポートから卒業研究発表まで-（三恵社）（分担）		平成20年4月～ 平成20年4月～ 平成20年9月～ 平成25年2月 平成21年3月 平成22年3月 平成23年8月 平成27年1月	医薬品の滴定、吸光度、クロマトグラフィーについて実習の目的、手順、データの整理と解析法を記載した分析化学実習の実習書を作成した（毎年更新）。 「分析化学Ⅰ」の授業内容に即した演習問題集を作成した（毎年更新）。 「分析化学Ⅱ」の授業内容に即した演習問題集を作成した（毎年更新）。 分析化学への関心を高めるため、分析化学の副読本として、分析化学の応用例を他大学の薬学部教員と分担して執筆した。 各種の化学平衡を担当し、分析化学授業の理解を深めるための問題集を他大学教員と分担して作成した。 分析化学関連の講義における教科書として、他大学の教員と共同で執筆した。「電子スピン共鳴」、「定量法・解析法」を担当した。 学生実習を安全に、効果的に進めるために、実習の意味、一般的注意、実験に臨む態度、レポートや卒業論文の書き方等 についての教科書を当大学薬学部内の教員と分担して執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Heterogeneity of regional redox status and relation of the redox status to oxygenation in a tumor model, evaluated using electron paramagnetic resonance imaging.	共著	2010年10月	Cancer Res., Vol. 70, No. 10

(論文) Effect of cholesterol on distribution of stable, hydrophobic perchlorotriphenylmethyl triethylester radical incorporated in lecithin liposomal membranes.	共著	2011年5月	Chem. Pharm. Bull. Vol. 59, No. 5
(論文) Simple method for quantification of gadolinium magnetic resonance imaging contrast agents using ESR spectroscopy.	共著	2012年1月	Chem. Pharm. Bull. Vol. 60, No. 1
(論文) Nitroxyl radicals remarkably enhanced the superoxide anion radical-induced chemiluminescence of Cypridina luciferin analogues	共著	2013年7月	Anal. Chem. Vol. 85, No. 14
(論文) Redox evaluation in sepsis model mice by the in vivo ESR technique using acyl-protected hydroxylamine.	共著	2014年3月	Free Radic. Biol. Med. Vol. 68
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 非ステロイド系抗炎症剤ケトプロフェンが紫外線照射により引き起すリポソーム膜内のラジカル反応		2013年6月	第66回日本酸化ストレス学会学術集会
(演題名) 生体計測用ESRおよびESRイメージングの生体レドックス解析への応用		2013年7月	第17回ESRフォーラム研究会
(演題名) アシル保護ヒドロキシルアミンを用いたin vivo ESR法による生体内レドックス測定-敗血症モデルマウスにおける検討-		2013年9月	フォーラム2013: 衛生薬学・環境トキシコロジー
(演題名) 紫外線照射によりケトプロフェンが引き起すリポソーム膜内のラジカル反応		2014年3月	日本薬学会第134年会
(演題名) Radical reaction induced by UV-irradiated ketoprofen in liposomal membranes.		2014年11月	Joint Conference of 9th Asia-Pacific EPR/ESR Society Symposium, 1st International EPR (ESR) Society Symposium, and 53rd SEST Annual Meeting
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成20年4月～	日本酸化ストレス学会 評議員		
平成17年9月～	日本酸化ストレス学会 Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition 誌編集委員		
平成18年1月～平成21年12月	電子スピンサイエンス学会 理事		
平成18年4月～平成21年3月	日本薬学会 Biological & Pharmaceutical Bulletin 誌編集委員		
平成21年6月12日	第62回日本酸化ストレス学会学術集会 シンポジウム「In vivo 酸化ストレスイメージングの最前線」・オーガナイザー		
平成24年1月～平成25年12月	電子スピンサイエンス学会 副会長		
平成24年5月18日～5月20日	電子スピンサイエンス学会主催「第8回ESR入門セミナー」世話人・講師		
平成25年5月17日～5月19日	電子スピンサイエンス学会主催「第9回ESR入門セミナー」世話人・講師		
平成26年1月～	電子スピンサイエンス学会 会長		
平成27年2月1日～	公益社団法人日本薬学会 代議員		
平成27年3月26日	日本薬学会第135年会 シンポジウム「磁気共鳴機能イメージングからセラノスティクスへの展開 ～次世代診断薬の創製～」・オーガナイザー		
Ⅳ 薬剤師としての実務経験			
なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 分析化学研究室	職名 講師	氏名 岡崎祥子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
「分子構造解析学（機器分析）」の講義指導（分担）における工夫（学生に復習を促し、理解を深めさせる）	平成22年4月～平成25年7月	毎年薬学部2年生を対象とした「分子構造解析学（機器分析）」（必修2単位、分担）の講義において、理解が深まるように演習問題集を作成・配布し、次の回に小テストを行い、各自が理解の度合いを確認できるようにした。	
「機器分析学」の講義指導（分担）における工夫（学生に復習を促し、理解を深めさせる）	平成26年9月～平成27年2月	毎年薬学部2年生を対象とした「機器分析学」（必修2単位、分担）の講義において、理解が深まるように演習問題集を作成・配布し、次の回に小テストを行い、各自が理解の度合いを確認できるようにした。	
「分析化学II」の講義指導（分担）における工夫（学生に復習を促し、理解を深めさせる）	平成22年9月～平成27年2月	毎年薬学部2年生を対象とした「分析化学II」（必修2単位、分担）の講義において、理解が深まるように演習問題集を作成・配布し、次の回に小テストを行い、各自が理解の度合いを確認できるようにした。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
学内における「分析化学実習」の実習書の作成（分担）	平成21年4月～平成25年12月	滴定法や紫外可視吸光度法、クロマトグラフィーに関して実習の目的、方法、解析法などを記載した分析化学実習の実習書を作成した。（毎年更新）	
演習で理解する薬学分析化学（廣川書店）（分担）	平成22年3月	薬学教育モデル・コアカリキュラムの「化学物質の分析」に関する内容を学生が演習問題を解きながら理解できるように解説したもので、各種の化学平衡を担当した。	
学内における分子構造解析学（機器分析）演習問題集（プリント）の作成	平成22年4月～平成25年7月	「分子構造解析学（機器分析）」の講義内容を復習できるような演習問題集を作成した。（毎年更新）	
学内における機器分析学演習問題集（プリント）の作成	平成26年9月～平成27年2月	「機器分析学」の講義内容を復習できるような演習問題集を作成した。（毎年更新）	
学内における分析化学II演習問題集（プリント）の作成	平成22年9月～平成27年2月	「分析化学II」の講義内容を復習できるような演習問題集を作成した。（毎年更新）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）敗血症の診断／治療の実状と病態・メカニズムをふまえた開発戦略	共著	平成25年8月	技術情報協会
（論文）Effect of cholesterol on distribution of stable, hydrophobic perchlorotriphenylmethyl triethylester Radical Incorporated in Lecithin Liposomal Membranes	共著	平成22年3月	Chem. Pharm. Bull. vol.59

(論文) Simple Method for Quantification of Gadolinium MRI Contrast Agents Using ESR Spectroscopy	共著	平成23年1月	Chem. Pharm. Bull. Vol. 60
(論文) Nitroxyl radicals remarkably enhanced the superoxide anion radical-induced chemiluminescence of Cypridina luciferin analogues.	共著	平成24年7月	Anal. Chem. vol. 85
(論文) Redox evaluation in sepsis model mice by the in vivo ESR technique using acyl-protected hydroxylamine.	共著	平成26年3月	Free Radic. Biol. Med. vol. 68
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
紫外線照射により抗炎症剤ケトプロフェンが引き起すリポソーム膜内のラジカル反応と膜に及ぼす影響		2014年9月	第67回日本酸化ストレス学会学術集会
Radical reaction induced by UV-irradiated ketoprofen in liposomal membranes		2014年11月	APES-IES-SEST2014
ケトプロフェンが紫外線照射により惹起するリポソーム膜内のラジカル反応と膜の崩壊現象		2014年12月	第31回日本薬学会九州支部大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成24年5月18日～5月20日	電子スピンスイセンス学会主催「第8回ESR入門セミナー」事務局		
平成25年5月17日～5月19日	電子スピンスイセンス学会主催「第9回ESR入門セミナー」事務局・講師		
Ⅳ 薬剤師としての実務経験			
なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 製剤学	職名 教授	氏名 平山 文俊
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 崇城大学薬学部における「製剤学実習」の実習指導（分担） 崇城大学薬学部における「製剤学I」の講義 崇城大学薬学部における卒業研究指導（分担）		平成21年4月～ 平成23年4月～ 平成24年4月～	薬学部4年生を対象とした製剤学実習において、各実験項目ごとに6年生を配置し、3年生が質問しやすいようにしている。 薬学部3年生を対象とした製剤物理化学の講義において、理解を助けるために豊富な参考資料を与えている。 卒業研究を大学院生と連携して指導し、学部学生の研究に対する意識と大学院生の教育に対する意欲の向上を図っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 崇城大学薬学部「製剤学」実習書		平成18年4月～ 平成27年3月	各種剤形調製に関する基本操作法や製剤物理化学的データの解析法について最新の情報を盛り込んだ実習テキストを作成し、学部4年生の一般実習の教育に使用している。毎年改訂を加えている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 第10 回薬学教育改革大学人会議アドバンスネットワークワークショップ参加（東京） 留学生の受け入れと国際交流 第14 回薬学教育改革大学人会議アドバンスネットワークワークショップ参加（東京） 留学生の受け入れと国際交流		平成21年3月 平成21年10月～平成21年12月 平成23年3月 平成24年6月～平成24年7月	新薬学教育制度における大学院構築に向けた方略と問題点を議論した。 ハンガリーよりI. Puskas博士を受け入れ、研究指導を行うとともに、本学学生の国際交流に貢献した。 新薬学教育における学士力、博士力に関する議論を行った。 香港大学より交換留学生（Tsang Hing Yu）を受け入れ、本学学生の国際交流に貢献した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）各種薬物の製剤特性改善におけるシクロデキストリンの有用性 in “シクロデキストリンの科学と技術”	共著	2013年12月	シーエムシー出版、東京、pp. 124-133.
（論文）Cyclodextrin-induced Change in Crystal Habit of Acetylsalicylic Acid in Aqueous Solution	共著	2012年5月	Crystal Growth & Design, vol. 12, No. 4.
（論文）Crystallization of A New Polymorph of Acetohexamide from 2-Hydroxybutyl-β-cyclodextrin Solution: Form VI with High Aqueous Solubility	共著	2013年3月	Int. J. Pharm., vol. 453, No. 3.
（論文）Potential Use of C ₆₀ /2-Hydroxypropyl-β-cyclodextrin Nanoparticles as A New Photosensitizer in Treatment of Cancer	共著	2014年7月	Int. J. Photoenergy, Article ID 570506
（論文）Preparation of Hydrophilic C ₆₀ (OH) ₁₀ /2-Hydroxy-propyl-β-cyclodextrin Nanoparticles for the Treatment of a Liver Injury Induced by an Overdose of	共著	2015年1月	Biomaterials, vol. 45, No.3
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
C ₆₀ (OH) ₁₀ ナノ粒子によるアセトアミノフェン誘発肝障害の抑制とその機構解明		平成26年12月	第31回日本薬学会九州支部大会

バルビタールの結晶化に及ぼすジメチル-β-シクロデキストリンの影響	平成26年 9月	第 31 回シクロデキストリンシンポジウム
疎水化高分子を利用したコエンザイムQ10の可溶化と運搬	平成26年 5月	日本薬剤学会第 29 年会
アセトアミノフェン誘発肝障害に対する親水性C ₆₀ (OH) ₁₀ /HP-β-CyDナノ粒子の抗酸化効果	平成26年 5月	日本薬剤学会第 29 年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
昭和47年4月～平成27年3月	日本薬学会・正会員	
昭和48月～平成27年3月	日本薬剤学会・正会員	
昭和60年10月～平成27年3月	日本シクロデキストリン学会・正会員	
平成5年4月～平成17年3月	日本シクロデキストリン学会評議員	
平成18年4月～平成27年3月	日本シクロデキストリン学会理事	
平成22年4月～平成27年3月	日本薬剤学会評議員	
Ⅳ 薬剤師としての実務経験		
なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 医療薬学講座	職名 准教授	氏名 安楽 誠
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
・崇城大学薬学部における学部生への「日本薬局方概論」の講義指導 (分担)		平成23年4月～	本講義では、出席カードの裏面に質問や意見を書かせ、次回までに、それに対する回答などを掲示している。
・崇城大学薬学部における学部生への「薬物送達学」の講義指導		平成23年4月～	本講義では、出席カードの裏面に質問や意見を書かせ、次回までに、それに対する回答などを掲示している。
2 作成した教科書、教材、参考書			
・学部生 (4年) の「製剤学実習」の実習書		平成23年4月～	薬学部4年生を対象とする「製剤学実習」の実習書の立案と取りまとめを行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Quantitative analysis of cysteine-34 on the antioxidant properties of human serum albumin in hemodialysis patients.	共著	平成23年9月	J Pharm Sci. 100(9):3968-76.
Antioxidant and renoprotective activity of chitosan in nephrectomized rats.	共著	平成24年6月	Carbohydr. Poly. 89(1):302-4.
Redox properties of serum albumin.	共著	平成25年12月	Biochim Biophys Acta. 1830(12):5465-72.
Preparation and antioxidant activity of PEGylated chitosans with different particle sizes.	共著	平成26年9月	Int J Biol Macromol.70:64-69.
Effects of chitosan on oxidative stress and related factors in hemodialysis patients.	共著	平成26年11月	Carbohydr. Poly. 112:152-157.
III 学会等および社会における主な活動			
平成10年3月～	日本薬学会・正会員		
平成12年3月～	日本薬物動態学会・正会員		
平成15年3月～	日本薬剤学会・正会員		
平成20年3月～	日本医療薬学会・正会員		
平成20年3月～	キチン・キトサン学会・正会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
I	教育活動	製剤学	助教 庵原 大輔
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
・ 崇城大学薬学部における学部生への「製剤学実習」の実習指導（分担）		平成21年4月～	薬学部4年生を対象とした「製剤学実習」を一部担当した。本実習では製剤学に関する基礎的実験について講義と実習をグループ形式で行い、学生主体の能動的な実習を行った。
・ 熊本大学大学院生への研究指導		平成21年4月～ 平成23年3月	熊本大学大学院生を研究生として受け入れ、実験手技、学会発表、修士論文作成を指導した。また、本学部生と一緒にゼミ・研究発表会を行うことで学部生の勤勉意識の向上に努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書			
・ 崇城大学薬学部における薬学部学生の「製剤学実習」の実習書		平成21年4月～	崇城大学薬学部4年生を対象とする「製剤学実習」は、製剤学に関する基礎から応用の構成になっている。実習書の作成と取りまとめを行った。本書は、毎年若干の改定を加えた。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
・ 一般対象の生涯研修の講師		平成21年12月	市民大学講座（熊本中央公民館）において、「くすりの形、特徴と効き目」というタイトルで講演し、市民と大学の連携に尽力した。
・ 留学生の指導および学生の国際交流		平成21年10月～ 平成21年12月 平成24年6月～ 平成24年7月	ハンガリーより、Istvan Puskas氏を研究員として受け入れた。この間、学生がPuskas氏と交流、対話できる機会を設け、学生の異文化コミュニケーション能力の向上に努めた。 香港大学より交換留学生（Tsang Hing Yu）を研究室に受け入れ、研究・生活指導ならびに当研究室学生との国際交流に尽力した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可） 発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Preparation of Hydrophilic C ₆₀ (OH) ₁₀ /2-Hydroxypropyl-β-cyclodextrin Nanoparticles for the Treatment of a Liver Injury Induced by an Overdose of Acetaminophen		共著	平成27年3月 <i>Biomaterials</i> , 45 , 115-123 (2015)
Potential Use of C ₆₀ /2-Hydroxypropyl-β-cyclodextrin Nanoparticles as a New Photosensitizer in the Treatment of Cancer		共著	平成26年2月 <i>Int. J. Photoenergy.</i> , Article ID 570506 (2014).
Preparation of soluble stable C ₆₀ /human serum albumin nanoparticles via cyclodextrin complexation and their reactive oxygen production characteristics		共著	平成25年8月 <i>Life Sci.</i> , 93 , 277-282 (2013)
Cyclodextrin-induced Change in Crystal Habit of Acetylsalicylic Acid in Aqueous Solution		共著	平成24年3月 <i>Cryst. Growth Des.</i> , 12 , 1985-1991 (2012).
Formation of Stable Hydrophilic C ₆₀ Nanoparticles by 2-Hydroxypropyl-β-cyclodextrin		共著	平成23年8月 <i>Mol. Pharmaceutics</i> , 8 , 1276-1284 (2011).
2. 学会発表（評価対象年度のみ）			発表年・月 学会名
シクロデキストリンを利用した親水性フラレンナノ粒子の調製と抗腫瘍・抗酸化効果の評価			平成26年11月 第36回日本バイオマテリアル学会大会
温度感受性Cyclodextrin/Sangelose® ソル-ゲル変換システムのジクロロフェナクナトリウム点眼剤への応用			平成26年9月 第31回シクロデキストリンシンポジウム
アセトアミノフェン誘発肝障害に対する親水性C ₆₀ (OH) ₁₀ /HP-β-CyDナノ粒子の抗酸化効果			平成26年5月 日本薬剤学会第29年会
Highly Dispersible C ₆₀ Nanoparticles by Sugammadex under Physiological Conditions			平成26年5月 17th International Cyclodextrin Symposium
III 学会および社会における主な活動			
平成16年3月～平成27年3月		日本薬学会・正会員	

平成16年4月～平成27年3月	日本薬剤学会・正会員
平成16年4月～平成27年3月	シクロデキストリン学会・正会員
平成18年4月～平成27年3月	日本DDS学会・正会員
平成26年4月～平成27年3月	日本バイオマテリアル学会・正会員
平成26年4月～平成27年3月	高分子学会・正会員
IV 薬剤師としての実務経験	
平成18年4月～平成19年3月	社団法人 熊本県薬剤師会医薬分業推進支援センター勤務

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 - 6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 医療薬剤学	職名 教授	氏名 瀬尾 量
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
薬学部2年生への「感染症予防学」の第1回目の講義で、感染拡大の恐怖を実感してもらえるように、感染に関する映画を視聴させた。	平成19年11月～	薬学部2年生を対象とした「感染予防学」の講義において、映画「アウトブレイク」を視聴させ、感染防御の重要性を理解させるとともに、感染関連の用語（英語）を教授した（視聴後に感想レポートを提出）。平成27年からは、薬学部3年生が対象となる。	
薬学部4年生への「医薬倫理学」の講義指導にSGDを導入した。（分担）	平成21年4月～	薬学部4年生を対象とした「医薬倫理学」の講義を分担したが、本講義では、事前に与えた倫理問題（症例）に従って、スモールグループディスカッション（SGD）と発表を行った。授業中は適宜、コメントを加え医療社会における倫理観の重要性を指導した。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
崇城大学薬学部「医療薬学系実習（薬剤学実習）」実習書	平成21年6月～	薬学部4年生を対象とする「医療薬学系実習（薬剤学実習）」は、医薬品製剤の安定性、薬物の体内動態の基礎と解析法、薬物投与計画とTDMの構成になっている。実習書の立案と取りまとめを行った。本書は、毎年若干の改定を加えている。	
熊本県版「薬学6年制病院実務実習指導者テキスト」	平成21年9月～	熊本大学及び崇城薬学部5年生を指導する病院薬剤師を対象とした「薬学6年制病院実務実習指導者テキスト」は、実務実習モデル・コアカリキュラムに準拠した構成になっている。本テキストの立案を行った。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
メンタルヘルスケアに配慮した教育を目的とした交流分析とストレス度評価	2010年	日本未病システム学会（ポスター発表）	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			
薬学共用試験 OSCEワークショップ多数回参加	2008年～	崇城大学OSCE実行委員長、モニター員	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書） 最新製剤学	共著	2010年	廣川書店
（論文） Cross-linked human serum albumin dimer has the potential for use as a plasma-retaining agent for the fatty acid-conjugated antidiabetic drugs.	共著	2015年	J Pharm Pharmacol. 67, 255-263
（論文） An evaluation of novel biological activity in a crude extract from <i>Hemerocallis fulva</i> L. var. <i>sempervirens</i> M.Hotta.	共著	2014年	Nat Prod Res. 28, 2211-2213

(論文) Bisabololoxide A, one of the constituents in German chamomile extract, attenuates cell death induced by calcium overload	共著	2013年	Phytother. Res., (Published online)
(論文) A comparison of the cellular actions of polaprezinc(zinc-L-carnosine) and ZnCl ₂	共著	2012年	Life Sciences. 90, 1015-1019
(論文) Toxicodynamic evaluation of a cisplatin-chondroitin sulfate complex using a perfused kidney and human proximal tubular cells	共著	2011年	Renal Failure, 33 (6), 608-613
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 腎疾患時におけるアルブミンダイマーの体内動態の評価		2015年3月	日本薬学会第135年会
(演題名) 粉末吸入用アルブミン粒子の吸入特製におよぼす脂肪酸添加の影響		2015年3月	日本薬学会第135年会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
平成16年6月～平成18年6月	熊本県病院薬剤師会会長		
平成19年11月～	日本未病システム学会評議員		
平成20年12月～	熊本県後発医薬品安心使用・啓発協議会会長		
平成21年4月～平成27年3月	熊本県環境審議委員 (温泉部会)		
平成21年8月～平成24年	日本医療薬学会代議員		
平成23年11月～	熊本県薬剤師会代議員		
平成24年4月～	熊本市薬剤師会理事		
Ⅳ 薬剤師としての実務経験			
昭和52年4月～平成5年1月	宮崎医科大学病院薬剤部勤務		
平成5年1月～平成18年3月	健康保険 八代総合病院薬剤部勤務 (現：熊本総合病院)		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 医療薬剤学	職名 教授	氏名 山崎啓之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
・「薬物動態学Ⅰ」の講義指導（分担）		平成26年4月～	2年生を対象とした本講義では、薬物動態が関連する薬害や医療過誤事例について、その本質および対策についてグループ討議させ、レポートともに理解度を評価した（平成26年度）。
・「薬物投与設計学」の講義指導（分担）		平成20年4月～	3年生を対象とした本講義では、予想される新薬の相互作用について、薬物動態学的な観点からグループ討議させ、レポートともに理解度を評価した（平成26年度）。
2 作成した教科書、教材、参考書			
・「薬物動態学」演習問題集		平成21年4月～	2年生を対象とする「薬物動態学」の演習用に、国家試験の問題を中心に重要問題まとめた。講義の際の演習・解説に用いた。本問題集は、毎年若干の改訂を加えている。
・「薬物投与設計学」演習問題集		平成20年4月～	3年生を対象とする「薬物投与設計学」の演習用に、国家試験の問題を中心に重要問題まとめた。講義の際の演習・解説に用いた。本問題集は、毎年若干の改訂を加えている。
・「薬剤学実習テキスト」		平成19年10月～	4年生を対象とする「薬剤学実習」は、配合変化、薬物動態の基礎（速度論解析）と応用（治療薬物モニタリング）の構成になっている。本実習のテキストの立案と執筆を行った。本書は、毎年若干の改訂を加えている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
・教育:FD活動		平成19年7月	教育活動として、「薬学共用試験OSCE評価者養成伝達講習会」に参加した。OSCE評価のポイントや問題点などについて討議した。
・薬剤師教育：中津市薬剤師会でのシリーズ講義		平成20年9月～ 平成21年3月	中津市薬剤師会で、本講義は薬剤師の生涯学習として「薬物動態学」の基礎から応用まで解説した。4回シリーズ。
・薬剤師教育：平成20年度 臨床薬学研修センタートレーニングコースでの講師		平成20年7月	熊本県下の薬剤師の生涯教育の一環として、TDMの実習を行った。測定および解析を行っていただき、注意点について解説した。
・登録販売者教育：平成26年度登録販売者継続研修会での講師（熊本県医薬品小売商業組合主催）		平成26年5月～ 10月	熊本県下の登録販売者の生涯教育の一環として、薬剤学的観点からの医薬品販売について解説した。3回シリーズ
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）NEWパワーブック生物薬剤学【第2版】	共著	平成25年12月	廣川書店
（論文）Differential effects of methoxy group on the interaction of curcuminoids with two major ligand binding sites of human serum albumin.	共著	平成26年2月	PLoS One. Vol.9, No.2
（論文）Albumin-drug interaction and its clinical implication.	共著	平成25年5月	Biochim Biophys Acta. Vol.1830, No.12
（論文）Pharmacokinetic Alteration of ^{99m} Tc-MAG3 using Serum Protein Binding Displacement Method.	共著	平成24年4月	Nucl. Med. Biol., vol.40, No.3

(論文) Enhanced dissolution of inhalable cyclosporine nano-matrix particles with mannitol as matrix former.	共著	平成23年11月	Int. J. Pharm., vol. 420, No. 1
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) フェニル酪酸ナトリウムの血清アルブミン結合特性に関する基礎的検討		平成26年11月	第42回構造活性相関シンポジウム
(演題名) 一般用医薬品の服用感と消費者の嗜好 - 苦味に関する消費者アンケート -		平成26年9月	日本医療薬学会第24回年会
(演題名) 粉末吸入用アルブミン製剤の設計に向けた基礎的検討		平成26年7月	第30回日本DDS学会学術集会
(演題名) フェニル酪酸ナトリウムのタンパク結合特性に関する基礎的検討		平成26年5月	日本薬剤学会第29年会
(演題名) Study on protein binding of sodium phenylbutyrate		平成26年4月	PSWC2014
(演題名) 酢酸親水ワセリンおよび酢酸ヒルドイドの保存安定性評価		平成26年3月	日本薬学会第134年会
(演題名) フルーツジュースのCYP3A活性阻害におよぼす各種添加剤処理の影響		平成26年3月	日本薬学会第134年会
(演題名) ツロブテロール経皮吸収型製剤の保存安定性に関する製剤学的検討		平成25年9月	第23回日本医療薬学会年会
(演題名) Production and Characterisation of HSA Particles for Pulmonary Delivery		平成25年6月	Inhalation Asia 2013
(演題名) ナファモスタットメシル酸塩の物理化学的性質におよぼす生体内外各種因子の影響		平成25年5月	第30回日本TDM学会・学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成27年1月～	日本薬学会代議員		
平成26年3月～	熊本県薬剤師会 出版委員会 委員		
平成26年3月～	熊本県薬剤師会 理事		
平成21年11月～	熊本県病院薬剤師会 実務実習教育委員会委員		
平成20年11月～	日本未病システム学会 評議員		
平成20年9月～	熊本県薬剤師会 生涯学習委員会 委員		
平成20年5月～	日本未病システム学会 正会員		
平成18年9月～	熊本県薬剤師会 職能対策委員会 委員		
Ⅳ 薬剤師としての実務経験			
平成13年4月～平成18年3月	宮崎大学医学部附属病院薬剤部勤務		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 医療薬剤学	職名 助教	氏名 田口 和明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成26年5月30日 ～ 6月20日	薬剤学実習の「医薬品製剤の安定性」の項目で、小グループによる実験及びディスカッション形式を採用し、学生の個々の思考力と理解度を向上させた
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) Acute Phase Proteine	共著	2013 July	INTECH (p139-162)
(著書) Human Serum Albumin	共著	2013 Aug	Sojo Universitu Publisher (p401-415)
(論文) Carbon monoxide-bound hemoglobin-vesicles for the treatment of bleomycin-induced pulmonary fibrosis.	共著	2014 Aug	Biomaterials. (35(24):6553-62.)
(論文) Carbon monoxide-bound red blood cell resuscitation ameliorates hepatic injury induced by massive hemorrhage and red blood cell resuscitation via hepatic cytochrome P450 protection in hemorrhagic shock rats.	共著	2014 Jul	J Pharm Sci. (103(7):2199-206.)
(論文) Therapeutic impact of erythropoietin-encapsulated liposomes targeted to bone marrow on renal anemia.	共著	2014 Nov	Mol Pharm. (11(11):4238-48.)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Pharmacokinetic study of enclosed adenosine diphosphate and outer lipid component after the administration of H12-(ADP)-liposome as a synthetic platelet substitute		2014年4月	5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress 2014
(演題名) 病態モデル動物におけるヘモグロビン小胞体の体内動態と安全性評価		2014年12月	第21回日本血液代替物学会年次大会
III 学会および社会における主な活動			
平成25年6月～	熊本院内感染対策研究会 世話人		
平成25年6月～	熊本県感染管理ネットワーク運営委員		
IV 薬剤師としての実務経験			
平成23年4月～平成25年3月	熊本大学医学部附属病院薬剤部勤務		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 6 「IV 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 臨床薬学	職名 教授	氏名 轟田 聡
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
崇城大学薬学部における「実務実習事前学習（実務準備実習）Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa」の実習指導（分担）		平成21年～	薬学部4年生を対象とし、病院実務実習・薬局実務実習に先立って薬剤師業務に必要な基本的知識、技能、態度を修得させることを目的に、講義並びにスモールグループディスカッション、演習、実習を実施した。
崇城大学薬学部における「実務実習事前学習（実務準備実習）Ⅲ」の実習指導（分担）		平成22年～	薬学部5年生を対象とし、病院実務実習・薬局実務実習に先立って患者への情報提供に必要な基本的知識、技能、態度を修得させることを目的に、演習（PBL）を実施した。
2 作成した教科書、教材、参考書			
「崇城大学薬学部病院薬局実習報告書」の作成		平成20年10月	「病院薬局実務実習」終了後、学生が提出したレポートを編集
「崇城大学薬学部保険調剤薬局実務実習」の作成		平成20年10月	「保険調剤薬局実務実習」終了後、学生が提出したレポートを編集
「崇城大学薬学部病院実習報告書」の作成		平成23年～	「病院実務実習」終了後、学生が提出したレポートを編集（毎年編集）
「崇城大学薬学部薬局実務実習報告書」の作成		平成23年～	「薬局実務実習」終了後、学生が提出したレポートを編集（毎年編集）
「病院薬学」テキストの作成		平成23年～	薬学部5年生を対象とし授業用のテキストを編集した。（毎年編集）
「崇城大学薬学部実務実習報告書（アンケート調査編）」の作成		平成25年～	実務実習終了後、学生を対象に実施したアンケート調査結果を編集（毎年編集）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
医療フォーラム21においてポスター発表		平成23年3月	薬学教育実務実習事前学習に関する調査・研究フォーラムにおいて崇城大学薬学部の状況を報告した。
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			
九州・山口地区薬学実務実習調整機構委員		平成19年度	九州地区にある薬学部学生の薬局および病院実習施設調整に参加。
九州・山口地区薬学実務実習調整機構委員		平成20年度	薬学部6年制移行により実務実習が11週間になることから、熊本・鹿児島県の病院を訪問し、協力を依頼。
九州・山口地区薬学実務実習調整機構委員		平成21年度	九州地区にある薬学部学生の薬局および病院実習施設調整に参加。（熊本県内における病院実習調整担当）（平成22・23・24年度も）
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）
			発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）小児福祉施設や老人介護施設を利用した早期体験学習が薬学生に及ぼす影響		共著	平成21年6月 Jpn. J. Pharm. Healthv Care Sci., vol.36, No.6

(論文) 実務実習耳前学習における効果的な学習教材の開発	共著	平成21年9月	Kyushu Pharmacy Bulletin, vol.63
(論文) 早期体験学習に対する満足度の要因解析	共著	平成23年9月	Kyushu Pharmacy Bulletin, vol.65
(論文) Reduction of Bitterness of Antihistaminic Drugs by Complexation with β - Cyclodextrins	共著	平成23年12月	J. Pharm. Sci, vol.100, No.5
(著書) 新編プログラム学習による病態と処方解析	共著	平成25年3月	廣川書店
(ミニレビュー) How to Relay Information on Hospitals and Pharmacies in Disasters Using Personal (ham) Radio Operators	共著	平成25年11月	Jpn. J. Pharm. Healthv Care Sci., vol.39, No.11
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Ⅲ 学会等および社会における主な活動			
～平成27年3月	日本薬学会・正会員		
～平成27年3月	日本臨床薬理学会・正会員		
～平成27年3月	日本医療薬学会・正会員		
Ⅳ 薬剤師としての実務経験			
昭和53年4月～平成17年3月	熊本大学医学部附属病院薬剤部に勤務		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 臨床薬学	職名 准教授	氏名 森内 宏志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
人をcareする医療人の心を育ませる工夫	平成21年9月～平成22年1月	1年生の実習先としては、受動的な見学にだけになりがちな、病院や薬局での早期体験よりも、能動的にCareをすることができる小児や御老人の施設を中心に実習をさせ、医療人としての心をはぐくませ、それを発表によって他の学生と共有させた。	
数式をなるべく使用しないで「医療統計処理学」を教える	平成21年11月～平成22年1月	数式をあまり使わない統計の教科書を選択し、理論を述べることや、たとえを持ち出す事により、理解が困難とされる数式をなるべく使用しない形で、統計学の基礎を教えた。	
米国の教科書を用いた「臨床検査化学」の講義	平成21年9月～平成22年1月	薬学科2年（必修）を対象とし、呼吸器、循環器および消化器の英語の臨床症例をつかった、臨床検査値の見方および考え方を講義した。	
消化器系の英語による国家試験問題の演習と長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書	平成21年9月～11月	薬学科3年（必修）を対象とした薬物治療学の講義で、学生の理解度の向上と消化器のカルテ英語に強くなるために、消化器系の英語による国家試験問題の演習を行った。さらに長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書を行った。	
眼科および精神科の英語による国家試験問題の演習と長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書	平成21年4月～6月	薬学科4年（必修）を対象とした医薬品安全性学Iの講義で、眼科および精神科の学生の理解度の向上とこの分野のカルテ英語に強くなるために、眼科および精神科の英語による国家試験問題の演習を行った。さらに長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書を行った。	
呼吸器および代謝内科の英語による国家試験問題の演習と長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書	平成21年6月～7月	薬学科4年（必修）を対象とした臨床薬理学の講義で、呼吸器および代謝内科の学生の理解度の向上とこの分野のカルテ英語に強くなるために、眼科および精神科の英語による国家試験問題の演習を行った。さらに長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書を行った。	
米国の教科書を用いた症例学習で、臨床検査値、病態、治療も同時に学ぶ学習法。	平成21年11月～平成22年1月	薬学英語での教授法は米国の教科書を用いた症例学習で、臨床検査値、病態、治療も同時に学ぶ学習法。また読解、英作、発音、リスニングの四つの要素を学習する学習法。	
人をcareする医療人の心を育ませる工夫	平成22年9月～平成23年1月	1年生の実習先としては、受動的な見学にだけになりがちな、病院や薬局での早期体験よりも、能動的にCareをすることができる小児や御老人の施設を中心に実習をさせ、医療人としての心をはぐくませ、それを発表によって他の学生と共有させた。	
数式をなるべく使用しないで「医療統計処理学」を教える	平成22年11月～平成23年1月	数式をあまり使わない統計の教科書を選択し、理論を述べることや、たとえを持ち出す事により、理解が困難とされる数式をなるべく使用しない形で、統計学の基礎を教えた。	
米国の教科書を用いた「臨床検査化学」の講義	平成22年9月～平成23年1月	カルテ英語などの医学英語に強くなるよう薬学科2年（必修）を対象とし、呼吸器、循環器および消化器の英語の臨床症例をつかった、臨床検査値の見方および考え方を講義した。	
消化器系の英語による国家試験問題の演習と長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書	平成22年9月～11月	薬学科3年（必修）を対象とした薬物治療学の講義で、学生の理解度の向上と消化器のカルテ英語に強くなるために、消化器系の英語による国家試験問題の演習を行った。さらに長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書を行った。	

眼科および精神科の英語による国家試験問題の演習と長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書	平成22年4月～6月	薬学科4年(必修)を対象とした医薬品安全性学Iの講義で、眼科および精神科の学生の理解度の向上とこの分野のカルテ英語に強くなるために、眼科および精神科の英語による国家試験問題の演習を行った。さらに長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書を行った。
呼吸器および代謝内科の英語による国家試験問題の演習と長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書	平成22年6月～7月	薬学科4年(必修)を対象とした臨床薬理学の講義で、呼吸器および代謝内科の学生の理解度の向上とこの分野のカルテ英語に強くなるために、眼科および精神科の英語による国家試験問題の演習を行った。さらに長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書を行った。
米国の教科書を用いた症例学習で、臨床検査値、病態、治療も同時に学ぶ学習法。	平成22年11月～平成23年1月	薬学英語での教授法は米国の教科書を用いた症例学習で、臨床検査値、病態、治療も同時に学ぶ学習法。また読解、英作、発音、リスニングの四つの要素を学習する学習法。
米国の教科書を用いた症例学習で、臨床検査値、病態、治療も同時に学ぶ学習法。	平成22年4月～5月	薬学英語での教授法は米国の教科書を用いた症例学習で、臨床検査値、病態、治療も同時に学ぶ学習法。また読解、英作、発音、リスニングの四つの要素を学習する学習法。
人をcareする医療人の心を育ませる工夫	平成23年9月～平成24年1月	1年生の実習先としては、受動的な見学にだけになりがちな、病院や薬局での早期体験よりも、能動的にCareをすることができるとされる小児や御老人の施設を中心に実習をさせ、医療人としての心をはぐくませ、それを発表によって他の学生と共有させた。
数式をなるべく使用しないで「医療統計処理学」を教える	平成23年11月～平成24年1月	数式をあまり使わない統計の教科書を選択し、理論を述べることや、たとえを持ち出す事により、理解が困難とされる数式をなるべく使用しない形で、統計学の基礎を教えた。
消化器系の英語による国家試験問題の演習と長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書	平成23年9月～11月	薬学科3年(必修)を対象とした薬物治療学の講義で、学生の理解度の向上と消化器のカルテ英語に強くなるために、消化器系の英語による国家試験問題の演習を行った。さらに長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書を行った。
眼科および精神科の英語による国家試験問題の演習と長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書	平成23年4月～6月	薬学科4年(必修)を対象とした医薬品安全性学Iの講義で、眼科および精神科の学生の理解度の向上とこの分野のカルテ英語に強くなるために、眼科および精神科の英語による国家試験問題の演習を行った。さらに長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書を行った。
呼吸器および代謝内科の英語による国家試験問題の演習と長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書	平成23年6月～7月	薬学科4年(必修)を対象とした臨床薬理学の講義で、呼吸器および代謝内科の学生の理解度の向上とこの分野のカルテ英語に強くなるために、眼科および精神科の英語による国家試験問題の演習を行った。さらに長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書を行った。
米国の教科書を用いた症例学習で、臨床検査値、病態、治療も同時に学ぶ学習法。	平成23年11月～平成24年1月	薬学英語での教授法は米国の教科書を用いた症例学習で、臨床検査値、病態、治療も同時に学ぶ学習法。また読解、英作、発音、リスニングの四つの要素を学習する学習法。
薬局での実用的な会話の練習。米国医学英語ドラマを用いた、実践医学英語学習。	平成23年4月～5月	薬局での実用的な会話の練習を学生同士のペアで行わせ。米国医学英語ドラマを用いた、実践医学英語学習。
数式をなるべく使用しないで「医療統計処理学」を教える	平成24年11月～平成25年1月	数式をあまり使わない統計の教科書を選択し、理論を述べることや、たとえを持ち出す事により、理解が困難とされる数式をなるべく使用しない形で、統計学の基礎を教えた。
消化器系の英語による国家試験問題の演習と長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書	平成24年9月～11月	薬学科3年(必修)を対象とした薬物治療学の講義で、学生の理解度の向上と消化器のカルテ英語に強くなるために、消化器系の英語による国家試験問題の演習を行った。さらに長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書を行った。

眼科および精神科の英語による国家試験問題の演習と長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書	平成24年4月～6月	薬学科4年(必修)を対象とした医薬品安全性学Ⅰの講義で、眼科および精神科の学生の理解度の向上とこの分野のカルテ英語に強くなるために、眼科および精神科の英語による国家試験問題の演習を行った。さらに長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書を行った。
呼吸器および代謝内科の英語による国家試験問題の演習と長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書	平成24年6月～7月	薬学科4年(必修)を対象とした臨床薬理学の講義で、呼吸器および代謝内科の学生の理解度の向上とこの分野のカルテ英語に強くなるために、眼科および精神科の英語による国家試験問題の演習を行った。さらに長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書を行った。
米国の教科書を用いた症例学習で、臨床検査値、病態、治療も同時に学ぶ学習法。	平成24年11月～平成25年1月	薬学英語での教授法は米国の教科書を用いた症例学習で、臨床検査値、病態、治療も同時に学ぶ学習法。また読解、英作、発音、リスニングの四つの要素を学習する学習法。
薬局での実用的な会話の練習。米国医学英語ドラマを用いた、実践医学英語学習。	平成24年4月～5月	薬局での実用的な会話の練習を学生同士のペアで行わせ。米国医学英語ドラマを用いた、実践医学英語学習。
崇城大学薬学部における「早期体験実習」の実習指導(分担)	平成25年9月～平成26年1月	薬1年を対象とし、高齢者介護施設、しょうがい児支援施設、保健所、病院、薬局などでのearly exposure実習の指導を行った。
数式をなるべく使用しないで「医療統計処理学」を教える。	平成25年11月～平成26年1月	数式をあまり使わない統計の教科書を選択し、理論を述べることや、たとえを持ち出す事により、理解が困難とされる数式をなるべく使用しない形で、統計学の基礎を教えた。
消化器系の英語による国家試験問題の演習と長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書	平成25年9月～11月	薬学科3年(必修)を対象とした薬物治療学の講義で、学生の理解度の向上と消化器のカルテ英語に強くなるために、消化器系の英語による国家試験問題の演習を行った。さらに長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書を行った。
眼科および精神科の英語による国家試験問題の演習と長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書	平成25年4月～6月	薬学科4年(必修)を対象とした医薬品安全性学Ⅰの講義で、眼科および精神科の学生の理解度の向上とこの分野のカルテ英語に強くなるために、眼科および精神科の英語による国家試験問題の演習を行った。さらに長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書を行った。
呼吸器および代謝内科の英語による国家試験問題の演習と長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書	平成25年6月～7月	薬学科4年(必修)を対象とした臨床薬理学の講義で、呼吸器および代謝内科の学生の理解度の向上とこの分野のカルテ英語に強くなるために、眼科および精神科の英語による国家試験問題の演習を行った。さらに長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書を行った。
米国の教科書を用いた症例学習で、臨床検査値、病態、治療も同時に学ぶ学習法。	平成25年11月～平成26年1月	薬学英語での教授法は米国の教科書を用いた症例学習で、臨床検査値、病態、治療も同時に学ぶ学習法。また読解、英作、発音、リスニングの四つの要素を学習する学習法。
薬局での実用的な会話の練習。米国医学英語ドラマを用いた、実践医学英語学習。	平成25年4月～5月	薬局での実用的な会話の練習を学生同士のペアで行わせ。米国医学英語ドラマを用いた、実践医学英語学習。
崇城大学薬学部における「早期体験実習」の実習指導(分担)	平成26年9月～平成27年1月	薬1年を対象とし、高齢者介護施設、しょうがい児支援施設、保健所、病院、薬局などでのearly exposure実習の指導を行った。
数式をなるべく使用しないで「医療統計処理学」を教える。	平成26年4月～平成26年7月	数式をあまり使わない統計の教科書を選択し、理論を述べることや、たとえを持ち出す事により、理解が困難とされる数式をなるべく使用しない形で、統計学の基礎を教えた。
消化器系の英語による国家試験問題の演習と長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書	平成26年9月～11月	薬学科3年(必修)を対象とした薬物治療学の講義で、学生の理解度の向上と消化器のカルテ英語に強くなるために、消化器系の英語による国家試験問題の演習を行った。さらに長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書を行った。

眼科および精神科の英語による国家試験問題の演習と長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書	平成26年4月～6月	薬学科4年(必修)を対象とした医薬品安全性学Iの講義で、眼科および精神科の学生の理解度の向上とこの分野のカルテ英語に強くなるために、眼科および精神科の英語による国家試験問題の演習を行った。さらに長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書を行った。	
呼吸器および代謝内科の英語による国家試験問題の演習と長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書	平成26年6月～7月	薬学科4年(必修)を対象とした臨床薬理学の講義で、呼吸器および代謝内科の学生の理解度の向上とこの分野のカルテ英語に強くなるために、眼科および精神科の英語による国家試験問題の演習を行った。さらに長期記憶の為のゴロ覚えや絵の板書を行った。	
米国の教科書を用いた症例学習で、臨床検査値、病態、治療も同時に学ぶ学習法。	平成26年11月～平成27年1月	薬学英語での教授法は米国の教科書を用いた症例学習で、臨床検査値、病態、治療も同時に学ぶ学習法。また読解、英作、発音、リスニングの四つの要素を学習する学習法。	
薬局での実用的な会話の練習。米国医学英語ドラマを用いた、実践医学英語学習。	平成26年4月～5月	薬局での実用的な会話の練習を学生同士のペアで行わせ。米国医学英語ドラマを用いた、実践医学英語学習。	
2 作成した教科書、教材、参考書	単著・共著の別	発行年月	発行所
疾病と病態生理(改訂第3版)	共著	平成24年4月	南江堂
プログラム学習による病態と処方解析	共著	平成25年3月	廣川書店
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
13th Asia-Pacific Federation for Clinical Biochemistry and Laboratory Medicine Congress	平成25年10月	An example of education of clinical biochemistry (laboratory test) to pharmacy students.	
4 その他教育活動上特記すべき事項			
薬学実務実習教育ワークショップ参加(福岡市)	平成21年8月	教育FD活動として、薬学実務実習の教育についての効果的な教育指導法を学んだ。	
教務委員会委員	平成19年4月～平成27年3月	教育関連の計画、問題の解決に尽力した。	
時間割作成	平成20年2月～平成23年3月	薬学部内の時間割の作成に携わった。	
年間、授業日程表の作成	平成20年2月～平成23年3月	薬学部内の年間、授業日程表の作成に携わった。	
国家試験対策委員	平成25年4月～平成27年3月	国家試験対策や卒業試験の作成などに尽力した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) The ethical kampo formulation Sho-Sheiryu-To (TJ-19) prevents bleomycin-induced pulmonary fibrosis in rats.	共著	平成22年1月	Biol. Pharmaceu. Bull. vol, 33 No. 8
(論文) Aminophylline, administered at usual doses for rodents in pharmacological studies, induces hippocampal neuronal cell injury under low tidal volume hypoxic conditions in guinea-pigs.	共著	平成25年1月	J Pharm Pharmacol., 65, No. 1
(論文) How to relay information on hospitals and pharmacies in disasters using personal (ham) radio operators.	共著	平成25年11月	Jpn J Pharm Health Care Sci. 39, No. 11

(論文) Comparative effects of phosphoenolpyruvate, a glycolytic intermediate, as an organ preservation agent with glucose and N-acetylcysteine against organ damage during cold storage of mouse liver and kidney	共著	平成25年12月	ISRN Pharmacolvol. 2013, 375825,
(論文) An evaluation of novel biological activity in a crude extract from <i>Hemerocallis fulva</i> L. var. <i>sempervirens</i> M. Hotta	共著	平成26年8月	Natural Product Researchvol. 28
(論文) Possible false-negative results on therapeutic drug monitoring of phenytoin using a particle enhanced turbidimetric inhibition immunoassay in a patient with a high level of IgM	共著	平成26年10月	Therapeutic drug monitoring vol.36
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
昭和59年1月～	日本薬理学会・正会員		
平成2年1月～	日本臨床薬学会・正会員		
平成9年1月～	日本薬学会・正会員		
平成11年1月～	国際薬剤師・薬学連合 (FIP) ・正会員		
平成25年6月～	日本医学英語教育学会・正会員		
IV 薬剤師としての実務経験			
昭和61年4月～平成3年3月	久留米大学病院薬剤部勤務		
平成16年4月～平成20年7月	十字堂調剤薬局非常勤薬剤師		
平成20年8月～	坂梨薬局非常勤薬剤師		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- 6 「IV 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 臨床薬学	職名 講師	氏名 石黒貴子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 崇城大学薬学部における「薬剤学実習実習」の実習指導(分担)		平成21年5月～	薬学部4年生を対象とした「薬剤学実習」(必修)を分担し、医薬品の安定性についての講義、実習を担当した。実習では実験結果に対し、SGDで考察を行い、グループ発表、討論を行った。
崇城大学薬学部における「実務実習事前学習」の実習指導(分担)		平成21年10月～	薬学部4年生を対象とした「実務実習事前学習」(必修)を分担し、無菌操作、輸液製剤、症例解析についての講義、実習を担当した。無菌操作、輸液製剤では、OSCE形式で技術評価を行った。症例解析では、各症例ごとに小グループでプロダクトを作成し、発表、討論を行った。
崇城大学薬学部における「コミュニケーション論」の講義指導		平成23年6月～	薬学部2年生を対象とした「コミュニケーション論」(必修)を分担し、概説講義および演習を行った。演習に関するSGDを行い、成果発表を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 崇城大学薬学部における「薬剤学実習」実習書の作成(分担)		平成21年5月～	医薬品の安定性に関する項目についての学生実習書を作成した(毎年更新)。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Crystallization and Polymorphic Transition of Chlorpropamide in Aqueous 2-Hydroxybutyl- β -cyclodextrin Solution	共著	平成22年2月	Eur. J. Pharm. Sci., 39(4), 248-255 (2010).
Reduction of Bitterness of Antihistaminic Drugs by Complexation with β -Cyclodextrins	共著	平成23年5月	J. Pharm. Sci., 100(5), 1935-1943 (2011).
Some pharmaceutical and inclusion properties of 2-hydroxybutyl- β -cyclodextrin derivative.	共著	平成23年7月	Int. J. Pharm., 419(1-2), 161-169 (2011).
Cyclodextrins improve oral absorption of a novel factor Xa inhibitor by interfering with interaction between the drug and bile acids in rats	共著	平成25年8月	J. Pharm. Pharmacol., 65, 1598-1606 (2013)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

IV 薬剤師としての実務経験	
平成10年4月～平成18年3月	八代総合病院薬剤部勤務
平成25年1月～平成25年3月	桜が丘病院薬剤部非常勤

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 - 6 「Ⅳ 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	崇城大学	講座名	薬物治療学	職名	教授	氏名	松倉 誠
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
崇城大学薬学部における「薬学概論」の講義指導 (分)				平成20年4月～平成22年3月、平成25年4月～平成26年3月	薬学部1年生を対象にした「薬学概論」を分担し、実際の臨床薬理学について講義を行った。医療全体からの視点で概論を行った。		
崇城大学薬学部における「早期体験学習」での指導 (分担)				平成20年4月～平成27年3月	薬学部1年生を対象にした「早期体験学習」を指導し、社会人としての基礎を築くことを目指した。多種多様な40以上の施設を対象に学生に選択させ、自らの目標を持たせている。		
崇城大学薬学部における「医薬倫理学」の講義指導 (分担)				平成21年4月～平成27年4月	薬学部4年生を対象に「医薬倫理学」の概論講義とその後のグループでの臨床例に対する意見の集約を発表するスタイルをとり、医療現場における倫理的討論の方法を学ばせた。		
崇城大学薬学部における「生命倫理学」の講義指導 (分担)				平成23年4月～27年3月	薬学部1年生を対象にした「生命倫理学」(前期必修)を概説し、分担して倫理的思考を要する事例への考え方を発表させ、討論を行わせ、倫理的考え方の基礎を修得させた。		
2 作成した教科書、教材、参考書 実務実習事前学習-IIbの実習書作成				平成21年4月～平成27年3月	フィジカルアセスメントなどの臨床で有用なスキルを修得する為の実習書を作成。		
崇城大学新入生オリエンテーション用禁煙講話資料				平成24年4月～平成27年3月	新入生オリエンテーションに際して、学科禁煙委員が使用する教材を作成。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)							
熊本市・崇城大学提携 市民大学講座「くすりの安心・安全」講義を担当 (分担)				平成21年10月	熊本市民を対象に、小児によくみられる疾患とその治療に関する講義を行なった。		
熊本県薬剤師会薬剤師セミナー BLS講習会を実施 (分担)				平成22年2月	熊本県薬剤師会会員を対象に、AEDの操作法を含めた救命処置法の講義、実習を行なった。		
世界筋学会熊本開催記念 筋ジストロフィー治療市民公開講座を担当 (分担)				平成22年10月	熊本県民を対象に、筋ジストロフィーの再生治療に関する取り組みを講演した。		
熊本県薬剤師会薬剤師セミナー BLS講習会を実施 (分担)				平成23年2月	熊本県薬剤師会会員を対象に、AEDの操作法を含めた救命処置法の講義、実習を行なった。		
鹿児島県薬剤師会薬剤師セミナー BLS講習会を実施 (分担)				平成23年9月	鹿児島県薬剤師会会員を対象に、AEDの操作法を含めた救命処置法の講義、実習を行なった。		
熊本県薬剤師会薬剤師セミナー BLS講習会を実施 (分担)				平成24年2月	熊本県薬剤師会会員を対象に、呼吸音及び心音聴診の実習とAEDの操作法を含めた救命処置法の講義、実習を行なった。		
鹿児島県薬剤師会薬剤師セミナー BLS講習会を実施 (分担)				平成24年9月	鹿児島県薬剤師会会員を対象に、呼吸音及び心音聴診の実習とAEDの操作法を含めた救命処置法の講義、実習を行なった。		
日本健康・栄養システム学会 特別研修会 子どもの栄養ケア・マネジメント研修会				平成25年1月	栄養士対象に発達とは何か、発達に寄与する食事形態とはどのようなものか、発達障害児での食事の持っている意味とはどのようなものか講演		
熊本県菊池郡薬剤師講演会				平成25年2月	熊本県菊池郡薬剤師会会員を対照に、発達障害児の理解促進と対処法(含む薬物療法)に関して講演を行った。		
熊本県薬剤師会薬剤師セミナー BLS講習会を実施 (分担)				平成25年2月	熊本県薬剤師会会員を対象に、呼吸音及び心音聴診の実習とAEDの操作法を含めた救命処置法の講義、実習を行なった。		
熊本県小児歯科懇話会				平成25年4月	熊本県小児歯科会会員を対照に、発達障害に関しての理解促進と対処法に関して講演を行った。		
第13回全国禁煙推進研究会 2013世界禁煙デー熊本フォーラム				平成25年6月	崇城大学薬学部でのキャンパス内禁煙、更に学生の非喫煙化、入学者非喫煙者規定策定に関して講演。		

鹿児島県薬剤師会薬剤師セミナー BLS講習会を実施（分担）	平成25年7月	鹿児島県薬剤師会員を対象に、呼吸音及び心音聴診の実習とAEDの操作法を含めた救命処置法の講義、実習を行なった。
熊本県八代郡こころの健康アドバイザー研修会	平成25年9月	熊本県八代郡こころの健康アドバイザー研修会にて、発達障害の理解と医学的診断について講演を行った。
第23回日本禁煙推進医師歯科医師連盟学術大会	平成26年2月	薬学部入学者を非喫煙者に制限したことについての経緯と今後の取り組みについて講演を行った。
熊本県薬剤師会薬剤師セミナー BLS講習会を実施	平成26年3月	熊本県薬剤師会員を対象に、呼吸音及び心音聴診の講義と実習を行なった。
鹿児島県薬剤師会薬剤師セミナー BLS講習会を実施（分担）	平成26年7月	鹿児島県薬剤師会員を対象に、呼吸音及び心音聴診の実習とAEDの操作法を含めた救命処置法の講義、実習を行なった。
第9回日本禁煙科学会	平成26年10月	薬学部入学者を非喫煙者に制限したことについての経緯と今後の取り組みについて講演を行った。
熊本県薬剤師会薬剤師セミナー	平成27年2月	熊本県薬剤師会員を対象に、呼吸音及び心音聴診の講義と実習を行なった。

II 研究活動

1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）The stimulatory activities of polysaccharide compounds derived from algae	共著	平成20年5月	Biol Pharm Bull. Vol. 31 No. 5
（論文）Exon-skipping events in candidates for clinical trials of morpholino.	共著	平成23年8月	Pediatr Int. Vol. 53No.4
（論文）Inhibition of high glucose-induced VEGF and ICAM-1 expression in human retinal pigment epithelium cells by targeting ILK with small interference RNA	共著	平成24年1月	Mol Biol Rep. 2012 Vol. 39 No. 1
（論文）A novel polysaccharide compound derived from algae extracts protects retinal pigment epithelial cells from high glucose-induced oxidative damage in vitro.	共著	平成24年9月	Biol Pharm Bull. Vol. 35 No. 9
（論文）Silencing heme oxygenase-1 gene expression in retinal pigment epithelial cells inhibits proliferation, migration and tube formation of coculture endothelial cells	共著	平成25年5月	Biochem Biophys Res Commun. Vol. 434 No. 3.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）			

III 学会および社会における主な活動

平成元年4月～平成26年3月	小児臨床薬理学会運営委員
平成3年4月～平成26年3月	アンチセンスDNA/RNA研究会運営委員
昭和50年4月～平成26年3月	日本小児科学会員
昭和50年4月～平成26年3月	日本小児神経学会員
平成22年4月～平成26年3月	日本ADHD学会員

IV 薬剤師としての実務経験

--	--

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
6 「IV 薬剤師としての実務経験」は、年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 崇城大学	講座名 薬物治療学	職名 准教授	氏名 藤井 績
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 崇城大学薬学部における「解剖学概論」の講義指導（分担）	平成21年4月～7月	薬学部1年生を対象とした「解剖学概論」の講義（必修）を分担し、人体を構成する器官とその機能について解説を行なった。15回の講義のうち、5回の講義において講義内容に関する症例問題を提示し、次回講義までにレポートにて回答、提出することを課した。さらに翌週の講義においてスライドにて症例問題の解説を行うとともに優秀なレポートについて提示して全員の理解を深めるようにした。	
崇城大学薬学部における「実務実習事前学習」を指導（分担）	平成21年11月～平成22年1月	薬学部4年（必修）を対象とし、実務実習事前学習に関する実習を行った。各実習項目とも、チーム医療の他の職種がおこなう医療行為や一般的な検査を経験し、理解することを目的に、その都度、問題を提起しながら、対話形式にて解決を図る方法を取った。	
崇城大学薬学部における「解剖学概論」の講義指導（分担）	平成22年4月～7月	薬学部1年生を対象とした「解剖学概論」の講義（必修）を分担し、人体を構成する器官とその機能について解説を行なった。15回の講義のうち、5回の講義において講義内容に関する症例問題を提示し、次回講義までにレポートにて回答、提出することを課した。さらに翌週の講義においてスライドにて症例問題の解説を行うとともに優秀なレポートについて提示して全員の理解を深めるようにした。	
崇城大学薬学部における「救急救命医学」の講義指導	平成22年4月～7月	薬学部5年生を対象とした「救急救命医学」の講義（選択）にて、一次救命処置法および二次救命処置法について指導した。その際、単なる蘇生手順のトレーニングに終わらず、あらゆる状況における心停止症例を提示して、つねに病態を考える姿勢を身につけることを第一として対話形式にて理解度を確認した。	
崇城大学薬学部における「実務実習事前学習」を指導（分担）	平成22年11月～平成23年1月	薬学部4年（必修）を対象とし、実務実習事前学習に関する実習を行った。各実習項目とも、チーム医療の他の職種がおこなう医療行為や一般的な検査を経験し、理解することを目的に、その都度、問題を提起しながら、対話形式にて解決を図る方法を取った。	
崇城大学薬学部における「卒業論文実習」の指導（分担）	平成22年4月～平成23年3月	薬物治療学研究室配属5年生の卒業研究を指導した。3ないし4名ごとに研究テーマを与え、各グループ毎にSGDを行わせ、実験計画を提出させた。ゼミの全教員で確認ののち、これに沿って実験を実施させた。結果については学生同士のSGDののち、担当教員を交えて再度検討を行い、次の実験を進めるようにした。また、月に一度ゼミ内で研究報告会を開催してスライドで発表させ、他のグループおよび全教員の質問、意見を仰ぐようにした。	
崇城大学薬学部における「解剖学概論」の講義指導	平成23年4月～7月	薬学部1年生を対象とした「解剖学概論」の講義（必修）を分担し、人体を構成する器官とその機能について解説を行なった。15回の講義のうち、5回の講義で後儀内容に関する症例問題を提示し、次回講義までにレポートにて回答、提出することを課した。さらに翌週の講義にてスライドにて症例問題の解説を行うとともに優秀なレポートについて提示して全員の理解を深めるようにした。	

崇城大学薬学部における「救急救命医学」の講義指導	平成23年4月 ～7月	薬学部5年生を対象とした「救急救命医学」の講義（選択）にて、一次救命処置法および二次救命処置法について指導した。その際、単なる蘇生手順のトレーニングに終わらず、あらゆる状況における心停止症例を提示して、つねに病態を考える姿勢を身につけることを第一として対話形式にて理解度を確認した。
崇城大学薬学部における「実務実習事前学習」を指導（分担）	平成23年11月 ～平成24年1月	薬学部4年（必修）を対象とし、実務実習事前学習に関する実習を行った。各実習項目とも、チーム医療の他の職種がおこなう医療行為や一般的な検査を経験し、理解することを目的に、その都度、問題を提起しながら、対話形式にて解決を図る方法を取った。
崇城大学薬学部における「卒業論文実習」の指導（分担）	平成23年4月 ～平成24年3月	薬物治療学研究室配属5年生の卒業研究を指導した。3ないし4名ごとに研究テーマを与え、各グループ毎にSGDを行わせ、実験計画を提出させた。ゼミの全教員で確認ののち、これに沿って実験を実施させた。結果については学生同士のSGDののち、担当教員を交えて再度検討を行い、次の実験を進めるようにした。また、月に一度ゼミ内で研究報告会を開催してスライドで発表させ、他のグループおよび全教員の質問、意見を仰ぐようにした。
崇城大学薬学部における「解剖学概論」の講義指導	平成24年4月 ～7月	薬学部1年生を対象とした「解剖学概論」の講義（必修）を分担し、人体を構成する器官とその機能について解説を行なった。15回の講義のうち、5回の講義において講義内容に関する症例問題を提示し、次回講義までにレポートにて回答、提出することを課した。さらに翌週の講義においてスライドにて症例問題の解説を行うとともに優秀なレポートについて提示して全員の理解を深めるようにした。
崇城大学薬学部における「救急救命医学」の講義指導	平成24年4月 ～7月	薬学部5年生を対象とした「救急救命医学」の講義（選択）にて、一次救命処置法および二次救命処置法について指導した。その際、単なる蘇生手順のトレーニングに終わらず、あらゆる状況における心停止症例を提示して、つねに病態を考える姿勢を身につけることを第一として対話形式にて理解度を確認した。
崇城大学薬学部における「実務実習事前学習」を指導（分担）	平成24年11月 ～平成25年1月	薬学部4年（必修）を対象とし、実務実習事前学習に関する実習を行った。各実習項目とも、チーム医療の他の職種がおこなう医療行為や一般的な検査を経験し、理解することを目的に、その都度、問題を提起しながら、対話形式にて解決を図る方法を取った。
崇城大学薬学部における「卒業論文実習」の指導（分担）	平成24年4月 ～平成25年3月	薬物治療学研究室配属5年生の卒業研究を指導した。3ないし4名ごとに研究テーマを与え、各グループ毎にSGDを行わせ、実験計画を提出させた。ゼミの全教員で確認ののち、これに沿って実験を実施させた。結果については学生同士のSGDののち、担当教員を交えて再度検討を行い、次の実験を進めるようにした。また、月に一度ゼミ内で研究報告会を開催してスライドで発表させ、他のグループおよび全教員の質問、意見を仰ぐようにした。
崇城大学薬学部における「解剖学概論」の講義指導	平成25年4月 ～7月	薬学部1年生を対象とした「解剖学概論」の講義（必修）を分担し、人体を構成する器官とその機能について解説を行なった。15回の講義のうち、5回の講義において講義内容に関する症例問題を提示し、次回講義までにレポートにて回答、提出することを課した。さらに翌週の講義においてスライドにて症例問題の解説を行うとともに優秀なレポートについて提示して全員の理解を深めるようにした。
崇城大学薬学部における「救急救命医学」の講義指導	平成25年4月 ～7月	薬学部5年生を対象とした「救急救命医学」の講義（選択）にて、一次救命処置法および二次救命処置法について指導した。その際、単なる蘇生手順のトレーニングに終わらず、あらゆる状況における心停止症例を提示して、つねに病態を考える姿勢を身につけることを第一として対話形式にて理解度を確認した。

<p>崇城大学薬学部における「実務実習事前学習」を指導（分担）</p>	<p>平成25年11月 ～平成26年1月</p>	<p>薬学部4年（必修）を対象とし、実務実習事前学習に関する実習を行った。各実習項目とも、チーム医療の他の職種がおこなう医療行為や一般的な検査を経験し、理解することを目的に、その都度、問題を提起しながら、対話形式にて解決を図る方法を取った。</p>
<p>崇城大学薬学部における「卒業論文実習」の指導（分担）</p>	<p>平成25年4月 ～平成26年3月</p>	<p>薬物治療学研究室配属5年生の卒業研究を指導した。3ないし4名ごとに研究テーマを与え、各グループ毎にSGDを行わせ、実験計画を提出させた。ゼミの全教員で確認ののち、これに沿って実験を実施させた。結果については学生同士のSGDののち、担当教員を交えて再度検討を行い、次の実験を進めるようにした。また、月に一度ゼミ内で研究報告会を開催してスライドで発表させ、他のグループおよび全教員の質問、意見を仰ぐようにした。</p>
<p>崇城大学薬学部における「解剖学概論」の講義指導</p>	<p>平成26年4月 ～5月</p>	<p>薬学部1年生を対象とした「解剖学概論」の講義（必修）を分担し、人体を構成する器官とその機能について解説を行なった。15回の講義のうち、5回の講義において講義内容に関する症例問題を提示し、次回講義までにレポートにて回答、提出することを課した。さらに翌週の講義においてスライドにて症例問題の解説を行うとともに優秀なレポートについて提示して全員の理解を深めるようにした。</p>
<p>崇城大学薬学部における「救急救命医学」の講義指導</p>	<p>平成26年4月 ～7月</p>	<p>薬学部5年生を対象とした「救急救命医学」の講義（選択）にて、一次救命処置法および二次救命処置法について指導した。その際、単なる蘇生手順のトレーニングに終わらず、あらゆる状況における心停止症例を提示して、つねに病態を考える姿勢を身につけることを第一として対話形式にて理解度を確認した。</p>
<p>崇城大学薬学部における「実務実習事前学習」を指導（分担）</p>	<p>平成26年9月 ～平成27年1月</p>	<p>薬学部4年（必修）を対象とし、実務実習事前学習に関する実習を行った。各実習項目とも、チーム医療の他の職種がおこなう医療行為や一般的な検査を経験し、理解することを目的に、その都度、問題を提起しながら、対話形式にて解決を図る方法を取った。</p>
<p>崇城大学薬学部における「卒業論文実習」の指導（分担）</p>	<p>平成26年4月 ～平成27年3月</p>	<p>薬物治療学研究室配属5年生の卒業研究を指導した。3ないし4名ごとに研究テーマを与え、各グループ毎にSGDを行わせ、実験計画を提出させた。ゼミの全教員で確認ののち、これに沿って実験を実施させた。結果については学生同士のSGDののち、担当教員を交えて再度検討を行い、次の実験を進めるようにした。また、月に一度ゼミ内で研究報告会を開催してスライドで発表させ、他のグループおよび全教員の質問、意見を仰ぐようにした。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書 「実務実習事前学習-IⅡb」の実習書作成 「救急救命医学」の教科書作成</p>	<p>平成21年9月 ～平成26年9月 平成22年4月 ～平成26年4月</p>	<p>フィジカルアセスメントなど臨床現場に有用なスキルを修得する為の実習書を作成した（毎年更新）。 一次救命処置法および二次救命処置法を解説した教科書を作成した（毎年更新）。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 演題名：崇城大学薬学部6年次生の『クリニカル・アセスメント』を通して考える。 演題名：崇城大学薬学部1年次生に対するBLS実習の実施とその効果について</p>	<p>平成23年11月 13日 平成23年11月 13日</p>	<p>第73回九州山口薬学大会において、患者の臨床状態を適切に評価できる臨床能力を習得を目指し、6年次生が市中病院で臨床研修を行っているという内容で薬学教育についての取り組みを発表した。 第73回九州山口薬学大会において、適切な救命処置法の習得を目指した1年次生の実習の実施を専門資格を持つ6年次生がサポートしている内容で薬学教育についての取り組みを発表した。</p>

演題名：S-CART が第1回熊本城マラソンAEDボランティアに参加して考えたこと	平成24年7月15日	医療薬学フォーラム2012において、薬学生が医師、看護師、救急救命士らとともに市民マラソンの救護班として参加して医療支援活動を行ったことの意義について発表した。
演題名：S-CART が第1回熊本城マラソンAEDボランティアに参加して考えたこと	平成24年9月17日	第74回九州山口薬学大会において、薬学生が医師、看護師、救急救命士らとともに市民マラソンの救護班として参加して医療支援活動を行ったことの意義について発表した。
演題名：S-CART が第1回熊本城マラソンAEDボランティアに参加して考えたこと	平成24年10月21日	第40回熊本県薬剤師会学術研修会において、薬学生が医師、看護師、救急救命士らとともに市民マラソンの救護班として参加して医療支援活動を行ったことの意義について発表した。
演題名：崇城大学薬学部6年次生の市中医療施設における臨床研修とその効果について	平成24年10月28日	第22回日本医療薬学会年会において、薬学生が市中病院にて専門医の指導のもと実際の入院患者に対してフィジカルアセスメント実習を行なうことの意義について発表した。
演題名：rubanが『子宮頸がん予防啓発活動』を通して考えたこと。	平成25年9月16日	第74回九州山口薬学大会において、日本がん予防協会の学生サポーターとしてがん予防の啓発活動を行っている薬学生の取り組みについて発表した。
演題名：上級生がインストラクター	平成26年12月6日	Q-CONFERENCE2014 IN SOJOにおいて、1年次生の一次救命処置（BLS）実習にBLSについて自己研鑽を積む上級生が各ブースで指導にあたることの意義、効果について発表した。
演題名：市民ランナーを見守る。	平成26年12月6日	Q-CONFERENCE2014 IN SOJOにおいて、米国心臓協会のBLSプロバイダーに認定された薬学生が熊本城マラソンのボランティアAED隊に参加し、医療人としての意識が高まったことについて発表した。
演題名：チーム医療の一員として	平成26年12月6日	Q-CONFERENCE2014 IN SOJOにおいて、BLSプロバイダーである学生がさらに高度な二次救命処置法の知識・スキルを修得したことで実務実習では実患者に余裕をもって対応できていることを発表した。
演題名：S-CART って何よ？	平成26年12月6日	Q-CONFERENCE2014 IN SOJOにおいて、患者の臨床状態を適切に評価できる薬剤師、災害等も含めて万一のときには適切な救命処置ができる薬剤師になりたいという学生の臨床診療研修について発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		
熊本市・崇城大学提携 市民大学講座「くすりの安心・安全」講義を担当（分担）	平成21年10月	熊本市民を対象に、小児によくみられる疾患とその治療に関する講義を行なった。
熊本県薬剤師会薬剤師セミナー BLS講習会を実施（分担）	平成22年2月	熊本県薬剤師会会員を対象に、AEDの操作法を含めた救命処置法の講義、実習を行なった。
世界筋学会熊本開催記念 筋ジストロフィー治療市民公開講座を担当（分担）	平成22年10月	熊本県民を対象に、筋ジストロフィーの再生治療に関する取り組みについて講演した。
熊本県薬剤師会薬剤師セミナー BLS講習会を実施（分担）	平成23年2月	熊本県薬剤師会会員を対象に、AEDの操作法を含めた救命処置法の講義、実習を行なった。
鹿児島県薬剤師会薬剤師セミナー BLS講習会を実施（分担）	平成23年9月	鹿児島県薬剤師会会員を対象に、AEDの操作法を含めた救命処置法の講義、実習を行なった。
鹿児島県薬剤師会薬剤師セミナー BLS講習会を実施（分担）	平成24年9月	鹿児島県薬剤師会会員を対象に、AEDの操作法を含めた救命処置法の講義、実習を行なった。
崇城大学不思議探求SOJOセミナー 発表（分担）	平成24年9月	崇城大学教員を対象に研究内容の提示を行なった。
鹿児島県薬剤師会薬剤師セミナー BLS講習会を実施（分担）	平成25年9月	鹿児島県薬剤師会会員を対象に、AEDの操作法を含めた救命処置法の講義、実習を行なった。
鹿児島県薬剤師会薬剤師セミナー BLS講習会を実施（分担）	平成26年9月	鹿児島県薬剤師会会員を対象に、AEDの操作法を含めた救命処置法の講義、実習を行なった。

II 研究活動			
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Inhibition of high glucose-induced VEGF and ICAM-1 expression in human retinal pigment epithelium cells by targeting ILK with small interference RNA	共著	平成23年8月	Mol Biol Rep. Vol. 39 No. 1
（論文）Exon-skipping events in candidates for clinical trials of morpholino	共著	平成23年8月	Pediatr Int. Vol. 53 No. 4
（論文）Myoblasts derived from normal hESCs and dystrophic hiPSCs efficiently fuse with existing muscle fibers following transplantation.	共著	平成24年9月	Mol Ther. Vol. 20 No. 11
（論文）SREBP-1 transcription factors regulate skeletal muscle cell size by controlling protein synthesis through myogenic regulatory factors.	共著	平成24年11月	PLoS One. Vol. 7 No. 11
（著書）薬剤師・薬学生のためのフィジカルアセスメントハンドブック—医薬品適正使用のために	共著	平成26年4月	南江堂
III 学会等および社会における主な活動			
平成3年5月～平成27年3月	日本小児科学会・正会員		
平成3年5月～平成27年3月	日本小児神経学会・正会員		
平成9年9月～平成27年3月	日本人類遺伝学会・正会員		
平成12年10月～平成27年3月	日本人類遺伝学会・臨床遺伝専門医		
平成14年11月～平成27年3月	日本小児神経学会・小児神経専門医		
平成18年8月～平成27年3月	日本遺伝子治療学会・正会員		
平成18年10月～平成27年3月	米国心臓協会（AHA）PALS Healthcare Provider		
平成19年6月～平成27年3月	米国心臓協会（AHA）BLS Healthcare Provider		
平成19年10月～平成27年3月	日本小児科学会・小児科専門医		
平成20年4月～平成27年3月	日本小児遺伝学会・正会員		
平成24年12月～平成27年3月	日本救急医学会認定ICLSコース インストラクター		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5報を記入してください。
- 5 「III 学会等および社会活動」は、就任年月日順に記入してください。